

2019

入学生用

履修要項

グローバルスタディーズ学科

国際学部

Faculty of International Studies

You,
Unlimited



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

龍谷大学国際学部 グローバルスタディーズ学科

2019年度入学生用履修要項

『履修要項』は卒業まで使用しますので、大切に保管し、活用してください。

また、『履修要項』配付後に発生した変更、学年暦、各種日程、各学部 窓口事務及び、学部共通の各教育プログラム・諸課題については、履修要項WEBサイトを通じてお知らせします。

〈履修要項WEBサイト〉

<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

※ポータルサイトからもアクセス可能です

(お気に入り登録しておくとう便利です)

学部・学科英文名

龍 谷 大 学 Ryukoku University

国 際 学 部 Faculty of International Studies

グローバルスタディーズ学科 Department of Global Studies

国際学部の学生の皆さんへ

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんが入学に至るまでには、それぞれの思いがあったことと思います。数ある大学、学部の中から、縁あって龍谷大学国際学部に入學されましたこと、本当に有り難く思います。第一志望の人も、第二・第三志望等の人もスタートラインは同じです。驕ることなく臆することなく、入学後どのように学修を進めていくかが重要です。学生時代をいかに過ごすかによって人生は大きく変わってきます。

龍谷大学は、1639年に西本願寺の「学寮」として産声を上げ、以来、さまざまな歴史的な困難の中、途切れることなく教育と研究の歴史を刻んできました。紛れもなく、日本で最古の教育機関です。本年は、創設380年の記念の年となり、本学の存在意義を世界に問う様々な事業を進めつつあります。

国際学部 (Faculty of International Studies) は、伝統ある龍谷大学の中で、2015年度に開設された学部で、農学部と並んで最も新しい学部です。国際学部の前身である「国際文化学部」は、1996年に瀬田学舎に開設され23年を経過しました。深草学舎移転とともに2015年度に誕生した「国際学部」は、2学科を擁する学部として、本年3月に最初の卒業生を送り出しました。2019年度入学の皆さんは、完成年度翌年の新たな学部展開の1期生となります。

国際学部には、異なる文化間をつなぎ、よりよい世界の実現に向けた対話を促すファシリテーター (促進者) を育成する「国際文化 (Intercultural Communication: IC) 学科」と、外国語運用能力を含む豊かなコミュニケーション能力と教養を国際舞台で活かし、リーダーシップを発揮できる人材を育成する「グローバルスタディーズ (Global Studies: GS) 学科」があります。

IC学科では、専任教員の約42%が海外出身で、居ながらにして異文化交流が可能で、11カ国語の幅広い外国語を学ぶ機会も提供しています。必修の「国際文化実践プログラム」や、3つのコースを用意しています。2019年度にはコース横断型の「国際ツーリズムプログラム」も設置しました。

また、GS学科では、専攻科目の約80%は「英語」または「英語+日本語」で開講しており、「日本一勉強する学科」を自負しています。TOEIC®L&Rの卒業要件は730点で、卒業までに830点をめざします。教員や学生メンターの支援のもと、国際舞台に立つリーダーを養成します。留学は全員必修です。

IC学科、GS学科は、それぞれめざすところは違いますが、同じ国際学部生として切磋琢磨して、お互いの特徴や良い点を活かし、刺激し合いながら学修を進めていって欲しいと思います。

私たち教員は、全力で、皆さんの頑張りをサポートします。また教務課職員も一丸となって、皆さんを見守ります。

高島屋やワコール、伊藤忠商事といった企業の前身として知られる近江商人は、「売り手よし、買い手よし、世間よし」といういわゆる「三方よし」を经营理念としていたそうです。仏教に培われた社会奉仕の精神は、当事者である売り手と買い手だけの利益だけでなく、それが社会にとっても意味のある活動につながることを目指していたのです。自分も相手も社会も、充足感・幸福感、そして静かな達成感にひたれるような学修になるよう、私たちは自らを律し教育・研究に邁進します。卒業後の皆さんが、胸を張って、龍谷大学国際学部が「母校」と呼べるようになることを願っています。

2019年4月1日

国際学部長
三谷 真澄

2019年度入学生用 龍谷大学国際学部グローバルスタディーズ学科 履修要項 目 次

学生のみなさんへ

学年暦

龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の教育理念・目的

学部・研究科の「教育理念・目的」と3つの方針策定の基本方針

国際学部の教育理念・目的

卒業認定・学位授与の方針

教育課程編成・実施の方針

文化の多様性に接する学内環境の整備

学生支援の方針

ガイダンス

大学からの連絡・通知の掲示

休講・補講・教室変更情報

第1部 履修の心得

I 履修をはじめるにあたって

1. 長期的な履修計画を立てること…………… 2
2. 系統的に科目を履修すること…………… 2
3. 自主的に学修をすること…………… 2
4. オフィスアワー…………… 2

II シラバス

1. シラバスとは何か…………… 4
2. シラバスに記載されている情報…………… 4
3. シラバスの利用方法…………… 4

III 単位制度と単位の認定

1. 単位制度…………… 5
2. 履修登録制度…………… 6
3. 授業科目の履修…………… 6
4. 授業時間…………… 6
5. 卒業要件単位および学士号…………… 7

IV 授業科目の開設方法

1. セメスター制…………… 9
2. 授業科目の開設方法…………… 9
3. 学期完結型授業科目の開講方式…………… 10
4. 授業科目と授業テーマ…………… 10
5. 先修制…………… 10
6. グレイドナンバー制…………… 11

V 履修登録

1. 履修登録手続スケジュール…………… 13
2. 履修登録制限単位数…………… 13
3. 予備・事前登録…………… 14
4. 履修登録要件…………… 14
5. 履修辞退制度…………… 15
6. 配当セメスターの考え方…………… 16

VI 成績評価

1. 成績評価の方法…………… 17
2. 成績評価の基準…………… 17
3. GPA 制度…………… 18
4. 成績疑義…………… 18
5. 筆答試験の時期…………… 18
6. 受験資格…………… 18
7. 受験の注意事項…………… 19
8. 答案の無効…………… 19
9. 筆答試験における不正行為…………… 19
10. レポート試験における不正行為…………… 19
11. 追試験…………… 20
12. 筆答試験時間…………… 21

第2部 教育課程

I 教育課程の編成方法

- カリキュラム概念図…………… 24
1. 授業科目の区分…………… 25
 2. 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目…………… 25
 3. クラスの編成…………… 25
 4. スーパーバイザー制度…………… 25
 5. メンター制度…………… 26

II 教養教育科目の教育目的および履修方法

1. 教養教育とは…………… 28
 - (1) 教養教育の理念・目的
 - (2) 教養教育科目とは
2. 「仏教の思想」科目…………… 28
3. 教養科目…………… 30
4. 予備登録について…………… 31

Ⅲ 科目区分と卒業に必要な単位数	
1. 学科外国語科目	32
2. 教養教育科目	33
3. 学科基礎科目	33
4. 学科専攻科目	33
5. 留学科目	34
6. フリーゾーン	35
7. 単位互換科目、教職課程、博物館学芸員課程、 本願寺派教師資格課程など	35
Ⅳ 3つの学問領域	
1. 3つの基本領域	37
2. 複合領域	37
3. グローバルスタディーズ学科 学問領域構成図	38
Ⅴ キャリア教育とキャリアデザイン	
1. 想定する進路	39
2. キャリア科目	39
Ⅵ 履修方法	
1. 学科外国語科目の履修方法	41
2. 英語運用能力測定テストの基準スコア提出	44
3. 必修科目の再履修	46
4. 開設科目一覧	47
Ⅶ 卒業の要件	
1. 所定在学年数	56
2. 所定単位の修得	56
3. 1セメスター以上の英語圏への留学	56
4. 英語運用能力測定テストの基準スコア提出	56
Ⅷ 演習および卒業論文の履修	
1. プロジェクト演習	57
2. 演習（ゼミ）	57
3. 卒業論文	58
Ⅸ その他の教育課程・教育プログラム	
1. 留学／国際交流プログラム・単位互換制度・ 各種インターンシッププログラム	59

第3部 諸課程

I 諸課程

1. 諸課程	62
2. 特別研修講座・各種講座・試験	63

第4部 学修生活の手引き

I 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室

1. 窓口事務	66
2. 保健管理センター	66
3. 障がい学生支援室	66

II 授業休止の取扱基準

III 学籍の取り扱い

1. 学籍とは	68
2. 学籍簿	68
3. 学生証	69
4. 学籍の喪失	70
5. 休学と復学	70
6. 再入学	71
7. 編入学・転入学	71
8. 9月卒業	71

第5部 Q&A

登録・履修・試験について	74
スーパーバイザー・メンターについて	77
語学スコアの提出について	79
留学制度について	80
証明書について	81
学籍について	82
学生生活について	83
こんな場合には？	85

第6部 教員

国際学部 専任教員名簿	88
グローバルスタディーズ学科教員詳細	89

第7部 付録

学舎・教室見取図	98
留学サポートデスクについて	117

学生のみなさんへ

この履修要項は、龍谷大学国際学部において開設されているすべての授業科目を紹介し、みなさんが卒業するまでに履修・修得しなければならない単位数、履修方法、その他有意義な学修のために必要な事項を説明しています。この要項を熟読し、明確な学修目的をもって系統的に履修してください。学期の始めには、履修に関する詳細なガイダンス（履修説明会）が行われますのであわせて利用してください。それでもなお、不明な点があれば国際学部教務課窓口でたずねるようにしましょう。

2019年4月

学 年 暦

学年暦として、大学行事、授業日、休日の授業実施日、定期試験期間、休業期間などの日程を定めています。毎年度変更となりますので、履修要項WEBサイトで必ず確認してください。

〈履修要項WEBサイト〉

<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>

※ポータルサイトからもアクセス可能です。

龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- ・すべてのいのちを大切にする「平等」の心
- ・真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・生かされていることへの「感謝」の心
- ・人類の対話と共存を願う「平和」の心

龍谷大学の教育理念・目的

建学の精神に基づき「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成する。

[学部・研究科の「教育理念・目的」と3つの方針（「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針]

龍谷大学の教育理念・目的を実現するために設置された学部・研究科は、広く社会に貢献できる教養教育・専門教育及びより高度な専門教育・研究を体系的かつ組織的に行うにあたり、各学問分野の独自性を活かしつつ、社会の要請等を踏まえた教育理念・目的を掲げ、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針を一体的に策定する。

国際学部の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、異文化への理解と敬意を深めるとともに、自文化についての発信力を養い、グローバル化が加速する時代において、柔軟な思考と批判的精神をもって対応できるコミュニケーション能力と問題解決能力を備えた人間を育成することを目的とする。

グローバル化が急速に進展する現代社会は、複雑に入り組んだ国際関係のなかに存在しています。日本やその他の国々においてはますます文化的・社会的な多様性が増え、その中でそれに対応できる能力と柔軟性のある人材が求められています。

卒業認定・学位授与の方針 [学士（グローバルスタディーズ）]

国際学部の「教育理念・目的」を達成していくために、すべての学生一人ひとりに必要と考える、獲得すべき基本的な資質・能力、学位授与に必要とされる単位数及び単位認定の方法を次に掲げる。

〈国際学部（グローバルスタディーズ学科）の学生に保証する基本的な資質・能力〉

- 教養教育科目により保証する資質・能力
 - 専攻科目により保証する資質・能力
- ①：建学の精神の具現化
- 建学の精神の意義について理解している。
- ②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得
- 諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけている。
 - グローバルな 이슈やコミュニケーションに関する知識をもち、日本語と英語を適切に運用できるとともに、世界の諸事象を複眼的に分析するための知識と方法を修得している。
 - 社会が必要とする職業観・勤労観と生涯を通じた持続的な就業力を身につけている。
- ③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力（「思考力・判断力・表現力」）」の発展・向上
- 幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現することができる。

- 論理的であると同時に、柔軟な批判的精神をもち、自己の置かれた環境を、歴史的・社会的・地域的・国際的な観点から相対化し、固定観念に捉われることなく考察することができる。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度（「主体性・多様性・協働性」）の発展・向上

- 揺るがない倫理観に基づき、多様な価値観を尊重し、チャレンジ精神と精神的な強さをもって国際的な舞台においてリーダーシップを発揮することができる。

〈学位授与に必要とされる単位数及び卒業認定の方法〉

1. 学部に4年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得した者に対し、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。ただし、所定の科目を特別に優秀な成績で修得したと教授会が認めた者については、3年以上の在学で卒業を認定することができる。その取扱いについては、別にこれを定める。
2. 卒業認定を受けるためには、所定の124単位以上の単位数を必要とする。
3. TOEIC[®]730点、TOEFL[®]（550-PBT、80-iBT）、IELTS[™]6.0のいずれかを取得することを必要とする。
4. 1 Semester以上の留学を必要とする。

教育課程の編成・実施の方針

国際学部教育理念・目的および卒業認定・学位授与の方針に明示した「基本的な資質・能力」をすべての学生が獲得できるように、教養教育科目および専攻科目から構成される、体系的かつ系統的な教育課程を編成・展開する。また、学生一人ひとりが有する学習目標に柔軟に対応できるよう学習環境・支援体制を整備する。併せて、国際学部教育理念・目的を実現するために、常に文化の多様性と複雑さに接することができる環境を整備する。

〈国際学部（グローバルスタディーズ学科）の教育内容〉

○教養教育科目にかかる教育内容

- 専攻科目にかかる教育内容

①：建学の精神の具現化

- 建学の精神の意義について理解するために、1年次配当（第1・第2 Semester配当）の「仏教の思想」科目（「仏教の思想A」・「仏教の思想B」）を全学必修科目として開講する。

②：(③の基礎となる)「知識・技能」の修得

- 諸学の基本を理解し、幅広い教養を身につけるために、1年次配当（第1・第2 Semester配当）の教養科目（人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系）を開講し、基幹科目を設置する。
- 「グローバルスタディーズ」という学問領域を学ぶために必要となる基礎的な知識を修得するため、「グローバルスタディーズA～C」を開講する。
- 英語の基礎スキルと実用的スキルを修得するため、1年次に英語集中プログラム（PEPプログラム）を配置する。
- 情報収集・分析・発信能力を身につけるため「ITリテラシーA・B」を開講する。
- 大学生活において必要な基礎的スキルの修得のために、1年次必修科目として「リサーチ方法論A・B」を開講する。
- 社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するため、「キャリア啓発科目」を開設する。

③：(④の基盤となる)「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力(「思考力・判断力・表現力」)」の発展・向上

○幅広い教養を活用して多角的に思考・判断・表現する能力を身につけるために、2年次配当(第3・第4 Semester 配当)の教養科目(人文科学系・社会科学系・自然科学系・スポーツ科学系)を開講する。

●専門知識を複数の言語で理解し議論できる能力を養成するために、学科専攻科目のほとんどを英語のみ、または英語・日本語併用による講義として開講する。

●講義型科目は「グローバル化」、「コミュニケーション」、「エシックス」の3つの領域に分類して配置し、世界の諸事象を総合的かつ実践的な知識にもとづき分析できる能力の向上を図る。

●また、学年進行に応じて、異なる2領域が重なる科目、さらに3領域が重なる総合的科目を重視するカリキュラムとする。これにより、低年次から複合的な視点での思考や分析に習熟できるようにする。

④：主体性をもって多様な人々と協働する態度(「主体性・多様性・協働性」)の発展・向上

●グローバルな舞台で活躍し、また国内外の国や地域を問わず通用する揺るがない倫理観を身につけるため、半年以上の長期留学を必修とする。

●社会が必要とする職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力を育成するため、「キャリア形成科目」を開設する。

〈教育方法〉

- ・学生が、自らの学修目的や進路希望に応じて各科目の特性や開講時期(配当 Semester)を考慮しながら系統的に履修できるよう、多様な授業形態(講義・演習・実習など)により科目を開設する。
- ・全ての科目は、講義概要、到達目標、講義方法、授業評価の方法、授業計画等を掲載したシラバスに沿って実施する。

〈学修成果の評価〉

- ・学修成果の有無やその内容・水準等を評価するため、科目の特性に応じておおよそ次の4種類の方法のいずれか、または複数を合わせて評価する。
 - ①筆答試験による評価
 - ②レポート試験による評価
 - ③実技試験による評価
 - ④授業への取組状況や小テストなど、担当者が設定する方法による評価
- ・卒業論文の評価は、論文評価と口述試問評価によっておこなう。

文化の多様性に接する学内環境の整備

本学部は、教育目標を実現するために、常に文化の多様性と複雑さに接することができる環境を整備しています。

1. 教員の38%は海外出身で、日本人教員の多くもバイリンガルです。海外出身教員の出身国・地域は、アメリカ、イギリス、フランス、ベルギー、スロバキア、ニュージーランド、フィリピン、中国、韓国、台湾と国際色豊かです。教員と日常的・意識的に接する機会を増やし、国際的な視野を身に付けるよう努めて下さい。
2. 本学部の前身である国際文化学部生を含めると約110名の外国人留学生在籍(2017年度)しており、キャンパスにいながらにして国際交流できる好環境にあります。留学生の苦勞を理解した上で、積極的にアプローチし、サポートすることは学部内の重要な国際交流になっています。身近なところから国際交流を始めることは、本格的な国際人への道につながります。また、海外からの留学生のために充実した日本語教育を提供し、また大学生活を支える教務課での対応を英語、中国語でも行うなどの事務体制

を整えています。

3. 深草学舎 和顔館1Fに設置されている「グローバルコモンズ」において、留学生と交流できるラウンジ、外国語のスキルアップを目指すことができるスタジオや語学学習・各種試験対策ができるスペース(約130席)が整備されています。また、同「グローバルコモンズ」内には国際学部 に所属する学生からの留学に関する相談を随時受け付ける「国際学部 留学サポートデスク」が設置され、専門のアドバイザーに各種の相談ができる環境です。
4. 本学部では短期留学や長期留学などの留学制度を充実させており、本学部で身に付けた知識やスキルを海外で試し、高めることができます。また留学中に修得した単位を学部の卒業要件単位として認定することができ、4年間での卒業も可能となっています。より実践的な能力を身に付けたいと思っている人は早めに、そして計画的に自分の目的に合った留学形態を考えることができます。
5. 専門科目を中心に多くの科目を英語で開講しており、英語を使って専門分野を学修する機会が提供されています。また、学科間の垣根を越えて、それらの英語開講科目の一部を相互に受講する事ができます。特に将来、英語科教員を目指す学生は、英語による講義を受講することにより英語教育について幅広く考えることが重要です。
6. 専門性を育成する演習の選択肢を多く用意しています。現地調査やフィールドワークにもとづき卒業論文を進めていく演習や、英語で受講し、英語で卒業論文まとめる演習など、さまざまな分野と地域にわたる演習があります。自分の研究スタイルと研究対象を早めに見つけ、有意義な卒業論文に取り組むために、方法論的な授業と知識中心の授業を系統的に履修しましょう。

本学部では以上の環境と共に、外国語科目や演習など、すべての学年で少人数教育を導入し、学生の主体的な参加を可能としています。このようなクラスは、コミュニケーション能力向上の練習の場となります。ただし、国際社会においては、自発的な行動とコミュニケーションが常識となっていますので、学生は自らの積極的な参加が不可欠であることを忘れてはなりません。大学生活では学生自身の積極性が最も重要であるため、こうした本学部独自の環境を大いに利用することを期待します。

学生支援の方針

本学では、修学支援、学生生活支援、キャリア支援の3つの方針に基づき、すべての学生に対して支援を行う。

修学支援の方針

本学における修学支援は、すべての学生に等しく教育機会を提供することを目的とし、学生一人ひとりが学修を円滑に進め、継続していくことができるよう、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

- ・ 修学に関する相談体制を整備し、教職員が相互に連携して相談・指導に取り組む。また、必要に応じて補習・補充教育を実施する。
- ・ 留年者及び休・退学者の状況把握と分析を行い、関係する各組織が連携して適切な対応策を講じる。
- ・ 障がいのある学生に対して実効性ある支援体制を整備し、それぞれの学生に適した学修環境を実現する。
- ・ 本学独自の奨学金制度を整備し、意欲ある学生に学ぶ機会を提供する。

学生生活支援の方針

本学における学生生活支援は、学生の人権尊重を基本とし、学生一人ひとりが心身ともに健康で、かつ安全で安定した学生生活を送るために必要な基盤を整備するとともに、豊かな人間性を育み、自らが主体的に

活動できるよう、「生活支援」「経済支援」「課外活動支援」を柱とした総合的な取り組みを行う。

「生活支援」は、保健管理、事件・事故防止、相談等の学生生活に係わる環境を整備する。

「経済支援」は、学生の家計急変や社会環境の変化等に応じた奨学金、貸付金等の経済的な支援を行う。

「課外活動支援」は、学生の人間的成長に寄与するため、学生が自主的に課外活動・社会活動に参加できるための環境を整備する。

キャリア支援の方針

本学におけるキャリア支援は、学生の社会的・職業的自立に向けて必要となる知識、能力、態度を育むとともに、学生の職業観・勤労観を醸成し、主体的な進路選択、希望する進路の実現を目的として、「キャリア教育」と「進路・就職支援」を二本柱として、全学的大体および体系的に取り組む。

「キャリア教育」は、学部と各組織が連携し、正課教育および正課外教育を通して、社会で必要となる基礎的・汎用的能力を育成するとともに、職業観・勤労観を醸成し、生涯を通じた持続的な就業力が身につくよう取り組む。

「進路・就職支援」は、学生が自立し、主体的な進路選択・就職決定ができるよう、多様な支援プログラムを実施するとともに、face to faceの面談を重視し、学生の個々の状況を踏まえたきめ細かな支援を行う。

ガイダンス

学期の始めには各種ガイダンスが行われます。

履修説明会は、履修に関する詳細なガイダンスで、みなさんが学修の履修計画を立て、履修に必要な手続きをスムーズに行うための説明や指導をするものです。

その他にも、学生部が主催する奨学金申請手続きに関するガイダンス、諸資格取得のためのガイダンス等も開催されます。

これらの連絡は、次ページ「大学からの連絡・通知の掲示」のとおり行われるので、十分に注意してください。

大学からの連絡・通知の掲示

大学からみなさんへの連絡や通知は、特別な場合を除きすべて掲示で行います。また、ポータルサイト上でも適宜、連絡や通知を行います。掲示やポータルサイトを見落としのために後で支障をきたさないよう、大学に来たらまず掲示板を見る、また、ポータルサイトを確認する習慣をつけましょう。

なお、電話による問い合わせには、一切応じません。

〈各種掲示内容別の掲示板とその位置〉

掲示板の名称	掲示の内容	設置場所
国際学部掲示板	履修方法、定期試験、レポート作成など、教育課程に関すること（一部休講・補講情報）	6号館（紫英館）東側（短期大学部は、21号館1階）
学生部掲示板	奨学金やアルバイトなど、学生生活に関すること	樹林
教学部掲示板	履修方法など教育課程に関すること	6号館（紫英館）東側
学部共通コース掲示板	学部共通コースに関すること	
グローバル教育推進センター掲示板	留学生別科・JEP Kyoto・国際交流に関すること	6号館（紫英館）東側
教職センター掲示板	教職課程に関すること	6号館（紫英館）東側
キャリアセンター掲示板	就職、資格講座などに関すること	5号館（紫明館）1階 キャリアセンター

（注）大学の事務組織変更やキャンパス整備等により掲示内容や掲示板の設置場所が変更になる場合があります。

休講・補講・教室変更情報

本学開講科目にかかる休講・補講・教室変更情報については、ポータルサイト上で公開しています。

〈アクセス方法〉

手段	アクセス方法
Web版	本学ホームページ（ https://www.ryukoku.ac.jp/ ）のクイックリンクにある「ポータルサイト」からアクセスしてください。ポータルサイトの利用には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。
アプリ版	龍谷大学ポータルサイトアプリサポートWeb（ https://ru.portal.ac/support/ ）からアプリをダウンロードしてください。初回利用時には全学統合認証のIDとパスワードが必要です。

〈公開期間〉

内容	公開期間	
休 講	30日後までの情報を公開	
補 講	予定している全ての情報を公開	
教室変更	臨時変更	30日後までの情報を公開
	恒常変更	前後30日分の情報を公開

〈注意事項・補足〉

- ・受付日や受付時間により公開に時差が生じる場合があります。
- ・当日に連絡があった情報には対応できない場合があります。
- ・本学以外の第三者機関による休講情報提供サービス等が存在しますが、本学が提供する公式の情報は上記サイトのみです。
- ・休講、補講、教室変更情報の公開については、メールでの配信サービスも行っています。
Web版ポータルサイトの「連絡先・メールアドレス・メール受信設定」で設定可能です。
- ・休講、補講、教室変更情報については、本学のポータルサイト以外に一部掲示板でも公開しています。

第1部 履修の心得

I 履修をはじめるときにあたって

大学では、履修や学生生活に関するすべてのことが自分の責任に委ねられています。それだけに、各自が十分な理解のもと履修することが望まれます。

1. 長期的な履修計画を立てること

授業科目は、「教養教育科目」と学部専門の教育に関する科目群である「専攻科目」からなります。みなさんは、これら2つの「授業科目の区分」から、卒業するために必要な一定の単位数を満たすように履修しなければなりません。

1学年間あるいは1学期間に履修できる単位数には上限が設けられており、また、各学期（セメスター）に、必ず履修すべき科目や選択して履修すべき科目が教育方針に基づいて配当されています。なお、年度によって開講される科目が異なりますので、履修計画を立てるときには、同時に次学期以降における履修計画もあわせて考える必要があります。

2. 系統的に科目を履修すること

大学での学業は、学部毎に定められた所定の要件を満たすことで完了しますが、その一環として一定の単位数を修得する必要があります（その単位のことを卒業要件単位と呼び、修得のしかたには多くの組合せがあります）。明確な学修目的をもたずに、単に決められた単位数をそろえるだけの履修は、たとえ4年間で学んだとしても、大学の卒業生としてふさわしい能力と識見をもつことはできません。したがって、自らの学修目的にあわせて、各科目の性格やその科目の配当セメスターを考慮しながら系統的に履修する必要があります。

大学4年間において学問研究に触れる中心的な場は「演習」（ゼミナール）です。この「演習」では、みなさんの自ら選んだテーマに主体的に取組み、専門的な視点に立って研究することが肝要になります。「演習」をはじめる前に、「演習」における自身のテーマの研究にとって土台となる知識や思考力、さらには研究方法などをあらかじめ修得しておくことが求められます。

3. 自主的に学修をすること

十分な学修成果をあげるためには、単に授業を受けるだけでなく、授業そのものに積極的な姿勢で臨むとともに、授業以外に自主的な学修が必要です。そのため、シラバス（講義概要や到達目標、評価方法、講義計画等について記載したもの）によって指示された参考図書をはじめ、関連図書をよく読んで理解を深めることが望まれます。また、授業を聞き、参考図書・関連図書でも理解できない点については、直接先生に質問をしたり、友人・先輩とディスカッションをしたりすることで理解を深めることも大切です。

4. オフィスアワー

国際学部専任教員のオフィスアワーを国際学部掲示板・ポータルサイトなどでお知らせします。

- (1) オフィスアワーとは、学生の皆さんが、事前に面会の約束をせずに教員の研究室を自由に訪れてよい時間です。教員は授業の内容や学習方法、学修上の問題等について質問や相談に応じます。
- (2) 教員は特定の時間帯をオフィスアワーとして設け、その時間は必ず研究室に在室することになっています。ただし、会議や出張などの理由により、やむを得ず不在にする場合もあります。

オフィスアワーに教員を訪ねる際に予約は必要ありませんが、事前に相談事項をメール等で伝えておくと、スムーズな問題解決につながるかもしれません。

オフィスアワーの時間帯でなくても、教員が在室しており、都合が悪くなければ、学生からの質問・相談に応じますので、遠慮無く研究室を訪ねてください。

Ⅱ シラバス

1. シラバスとは何か

シラバス (Syllabus) とは、各科目の講義概要や到達目標、評価方法、講義計画等について記載したものです。

本学で開講されている全ての科目は、あらかじめWeb上に公開されたそれぞれのシラバスに沿って実施されます。

シラバスには、科目名だけでは分からない、詳細な情報が記載されています。学生の皆さんはシラバスを熟読し学習計画を立て、系統的な履修を行ってください。

2. シラバスに記載されている情報

シラバスには、主に次のような情報が掲載されています。

- ① 科目名とサブタイトル (授業テーマ)
- ② 講義概要
- ③ 到達目標
- ④ 講義方法
- ⑤ 授業時間外における予・復習の指示
- ⑥ 系統的履修のための補足情報
- ⑦ 成績評価の方法
- ⑧ テキスト・参考文献
- ⑨ 履修上の注意・担当者からの一言
- ⑩ オフィスアワー・教員との連絡方法
- ⑪ 講義計画 (各回の学修内容やキーワード)

※授業計画、授業時間外における予・復習の指示、参考文献、履修上の注意・担当者からの一言、オフィスアワー・教員との連絡方法、講義計画については、授業期間中に変更されることがあります。最新の情報を参照してください。

3. シラバスの利用方法

シラバスはすべてWeb上で公開されています。ポータルサイトからリンクをたどって参照してください。

Ⅲ 単位制度と単位の認定

1. 単位制度

大学での学修は単位制で行われています。単位制とは、すべての科目に一定の単位数が定められており、その科目を履修して単位を修得し、定められた卒業要件単位数を満たすことで卒業が認定される制度です。

<単位とは>

単位とは、学修の量を数字で表すものであり、下表のとおり、原則として各単位数によって必要な学修時間が定められています。

単位数	学 修 時 間					
	講義・演習・講読科目の場合			外国語・スポーツ・実習科目の場合		
	自主	授業	合計	自主	授業	合計
1				15時間	30時間	45時間
2	60時間	30時間	90時間	30時間	60時間	90時間
4	120時間	60時間	180時間			

<単位の計算方法>

学則第26条に基づき、原則として次の基準によって計算します。

- ① 本学では、単位計算上、1つの授業90分を2時間として計算します。
- ② 本学では、1単位につき45時間の学修時間を必要と定めています。
- ③ 本学では、学期完結型授業の場合は第1学期（前期）授業期間を15週、第2学期（後期）授業期間を15週とし、学期連結型授業の場合は1学年間（通年）で30週としています。

○講義・演習・講読科目の場合

上表から、講義・演習・講読科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、4時間（授業時間の2倍）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×15週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき） ＝2単位
学期連結型 授業の場合	6時間（授業2時間＋自主4時間） ×30週＝180時間	180時間÷45時間（1単位につき） ＝4単位

○外国語・スポーツ・実習科目の場合

上表から、外国語・スポーツ・実習科目の場合、単位計算上の授業時間2時間に対し、1時間（授業時間の半分）の自主的学修が必要となり、単位の計算方法は以下のとおりになります。

区分	必要な学修時間	単位数
学期完結型 授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間） ×15週＝45時間	45時間÷45時間（1単位につき） ＝1単位
学期連結型 授業の場合	3時間（授業2時間＋自主1時間） ×30週＝90時間	90時間÷45時間（1単位につき） ＝2単位

<単位の認定>

1つの授業科目に定められた単位を修得するためには、次の3つの要件を満たしていなければなりません。

- (1) 単位の認定を受けようとする科目について、履修登録をすること。
- (2) その科目の授業に出席し、履修に必要な学修をすること。
- (3) その科目の試験を受け、その成績評価で合格（60点以上）をすること。（レポート、論文等をもって試験とする場合等があり、必ずしも教室における筆記試験とは限りません。詳細は、シラバスの成績評価の方法で確認して下さい。）

2. 履修登録制度

履修登録とは、科目を履修するための手続きです。この手続きをしていなければ、仮にその授業に出席していたとしても、試験を受けることや単位認定を受けることはできません。履修登録は学修計画の基礎となるものであり、登録が有効に行われるようすべて自分の責任において取り組まなければなりません。

<履修登録の方法>

後に説明するセメスター制により、履修登録は、第1学期、第2学期の年2回行われます（ただし、4年次生以上は、第1学期に第2学期開講科目を含む通年分の履修登録をする必要があります）。

第1学期履修登録は、第1学期開講科目と学期連結型（通年）科目および8月と9月に開講されるサマーセッション科目を登録します。

第2学期履修登録は、第2学期開講科目を登録します。なお、第2学期登録時に学期連結型（通年）科目の履修を放棄して別の第2学期開講科目を登録することはできません。

3. 授業科目の履修

履修登録をした科目を履修するということは、その科目に定められている単位数に見合った量の学修をするということです。

学修の内容には、授業形態に応じて、授業時間内における学修と授業時間外における自主的な学修（予・復習）とを含んでいます。

このうち、授業時間内における学修は、授業に出席し、その中で学修するということです。**総授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位認定は受けられないことがあります。**

また、授業時間外における自主的な学修（予・復習）は、「シラバス」の中で「授業時間外における予・復習の指示」で示される内容を中心に、参考文献等も利用しながら、あるいは友人とのディスカッションや図書館の利用などを通して、自主的に行われる学修のことです。大学での学修はこの自主的な学修の比重が大きく、大学生活の成否はこの自主的な学修のいかんにかかっているとと言えます。

4. 授業時間

本学における1回の授業時間は、後に説明する授業科目の開設方法に関係なく、いずれの場合でも90分です。また、それぞれの授業時間を「講時」といいます。年間を通して、各講時の時間帯は次のとおりです。

<授業配置時間>

	時間帯	月	火	水	木	金	土
1 講時	9:00 ~ 10:30	○	○	○	○	○	○
2 講時	10:45 ~ 12:15	○	○	○	○	○	○
3 講時	13:15 ~ 14:45	○	○	○	○	○	○
4 講時	15:00 ~ 16:30	○	○	○	○	○	○
5 講時	16:45 ~ 18:15	○	○	○	○	○	
6 講時	18:25 ~ 19:55	○	○	○	○	○	
7 講時	20:05 ~ 21:35	○	○	○	○	○	

5. 卒業要件単位および学士号

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、「学士」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。卒業するためには、教育課程（カリキュラム）にしたがって学修し、学部毎に定められた所定の要件を満たすことが必要で、その一環として、124単位以上を修得しなければなりません。

<卒業の要件>

本学において、卒業認定を得ようとする者は、次の2つの要件を満たさなければなりません。

(1) 所定在学年数

本学の教育課程（カリキュラム）を修了するには、4年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学修期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学修中断の期間は所定在学年数に加えません。

(2) 所定単位の修得

本学の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目の別を指定しています（詳細は「第2部 教育課程」の「I. 教育課程の編成方法」を参照）。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません。

科目区分	必要単位数	必修科目		備考・要件	
①学科外国語科目	20	英語（Reading）Ⅰ・Ⅱ（4単位） 英語（Writing）Ⅰ・Ⅱ（4単位） 英語（Oral Communication）Ⅰ・Ⅱ（4単位） Study Abroad Preparation Ⅰ・Ⅱ（4単位）			
②教養教育科目	4	仏教の思想A・B（4単位）			
③学科基礎科目	14	リサーチ方法論A・B（4単位） ITリテラシーA・B（4単位） グローバルスタディーズA・B・C（6単位）			
④学科専攻科目	44	演習	10単位	プロジェクト演習（2単位） 演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（8単位）	専攻科目のうち2年次配当の科目
		専攻基礎	20単位		
		専攻応用	14単位	Applied Global Studies （登録必修・2単位）	【専攻応用／留学】 ※次の科目から6単位以上を修得すること。 （選択必修） 「言語教育政策論」 「Global Englishes and Communication」 「Postcolonialism」 「Sustainability Studies」 「ナショナリズム研究」 「安全保障論」
⑤留学科目	22	SNSを活用した異文化交流実践（2単位）			
⑥フリーゾーン	20				
合計	124				

(注) フリーゾーンについて

卒業要件124単位の内、各①～⑤の必要単位を超えた単位数が「フリーゾーン」として認定されます。

<卒業の時期>

(1) 卒業認定は、毎年学年の終わり（3月）に行います。

(2) 9月卒業の取り扱い

教授会が必要と認めるときは、在学期間が4年以上の者について、前期終了時（9月）に卒業を認定することがあります。

（注）9月卒業を希望する者は、4月の登録関係書類配付時に申し出て、所定の願書を受け取り、必ず指定された期間に手続きを完了してください（本人の申し出がなければ、9月卒業の対象にはならないので注意してください）。

Ⅳ 授業科目の開設方法

1. セメスター制

国際学部の授業は、セメスター制で開講されています。セメスター制とは、半年を1学期とするもので、1学年を、原則として4月～9月末までを第1学期（前期）、10月～翌年3月末までを第2学期（後期）の2学期に区分^{*}し、以後4学年までの計8学期にわたって教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。学年、学期、セメスターの関係は次のとおりです。

学年	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年	
学期	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）	第1学期 （前期）	第2学期 （後期）
セメスター	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター

各セメスターにはそれぞれ必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目が配当されています。これらの科目の中からどの科目を履修するかは各自の責任に委ねられています。ただし、必修科目は、それを履修し単位を修得しないと卒業することができない科目です。また、選択必修科目も同じ性格を有する科目です。

必修科目や選択必修科目の単位を未修得のまま次のセメスターに進行した場合、他のすべての科目に優先してこれらの未修得科目を履修しなければならない場合が生じてしまい、そのセメスターに配当されている科目が履修できなくなるなど、みなさんの学修計画に重大な支障をきたすことにもなりかねません。したがって、十分な理解のもと学修計画を立て、授業時間内における学修と授業時間外における自主的な学修に積極的に取り組むことが望まれます。

※実際に授業を開講する上での第1学期（前期）、第2学期（後期）の区分・日程は、毎年度、学年暦によって決定されます。

2. 授業科目の開設方法

各授業科目は、原則として各セメスターを単位として開設されていますが、実際には科目の性格等により次の2つの開講方式をとっています。

①【学期完結型（前期・後期型）】 [学期] → (授業15週間)	[週1回]	講義科目	外国語科目	実技科目
	[週2回]	2単位		1単位
②【学期連結型（通年型）】 [学期] → [学期] → (授業30週間)	[週1回]	講義科目	外国語科目	実技科目
		4単位		2単位

[留意点]

- 学期完結型として開講される4単位の講義科目および2単位の初修外国語科目は、1週間に2回（例えば月曜日1講時と木曜日1講時）の授業を行い、1つの学期で完結するものです。このため、一方の授業に出席するだけではその科目を履修したことにはならないので、注意する必要があります。
- 学期連結型として開講される科目は、原則として同一の授業担当者が1週間に1回の授業を行い、2つの学期（1年間）で完結するものです。
- 同一科目の授業が第1学期（前期）・第2学期（後期）ともに開講される場合があります。この場合は、特に指定のある場合を除き、いずれの学期で履修しても構いません。
(注1) それぞれの科目には配当セメスターが設定されています。設定された配当セメスター以降の履

修が可能であることを示していますが、諸事情により不開講となる場合や配当セメスターが変更される場合がありますので注意してください。

(注2)すでに修得した科目(=既修得科目)の再履修はできません。

(4) サマーセッションを利用して開講される科目については、下記の取扱となります。

区 分	取扱学期	期間・留意事項
サマーセッション	第2学期 (後期)科目	・開講期間については、掲示等で確認してください。 ・第1学期(前期)開講科目の履修登録と同時に登録が必要です。

(注)履修登録できる科目数は2科目までとなります。

授業日程が他の科目と重複する場合は、1科目しか履修登録できない場合がありますので、各科目の開講日程に注意してください。

サマーセッションの開講期間・開講場所などについては、別途掲示等にてお知らせします。

3. 学期完結型授業科目の開講方式

学期完結型授業のうち、週2回開講方法をとる授業は時間割上、原則として一定の規則(組合せ)にしたがって配置されています。

この科目は、週2回の授業を1学期間継続して受講し、合格することではじめて定められた単位を修得したことになります。

週2回のうち一方の授業時間に、誤って他の科目を履修登録した場合は、それらに関する登録は無効となりますので注意してください。

学期完結型授業(週2回開講科目)の開講組合せ(原則)

月1 - 木1	火1 - 金1	水1 - 土1
月2 - 木2	火2 - 金2	水2 - 土2
月3 - 木3	火3 - 金3	
月4 - 木4	火4 - 金4	

注1)見方:「月1」は「月曜日1講時」を示しています。

注2)1日に2講時連続で開講される科目もあります。

4. 授業科目と授業テーマ

「授業科目」は単位を認定する区分を示すものです。講義科目はこの授業科目名のみではどのような内容の授業であるか判断ができないことから、原則として「授業テーマ」が示されています。

同じ授業科目名で複数のクラスが開講されている場合は、特に指定の無い限りどの授業テーマのクラスを履修しても構いません。ただし、単位の認定を受けることができるのは1つの科目に対して1回だけです(授業テーマが異なっていたとしても、同じ授業科目を複数クラス履修することはできません)。

また、「授業科目」を選ぶにあたっては、「シラバス」で講義の進め方、系統的履修の方法等を確認してください。

5. 先修制

先修制とは、ある科目を履修する場合に、履修の要件として指定された科目及び単位数の修得を必要とする制度です。これは、その科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。

したがって、先修制が設定されている科目とその履修の要件として指定された科目を同一学期に履修することはできません。先修制が設定されている科目は次のとおりです。

◆グローバルスタディーズ学科で先修制を採用する科目の一覧

科目名	履修要件となる科目名
演習 I～IV	リサーチ方法論AまたはB
心理言語学	グローバルスタディーズA
応用言語学	グローバルスタディーズA
言語教育政策論	グローバルスタディーズA
通訳・翻訳研究 A	グローバルスタディーズA
通訳・翻訳研究 B	グローバルスタディーズA
English for Global Studies	グローバルスタディーズA
Global Englishes and Communication	グローバルスタディーズA
Globalization of Education	グローバルスタディーズB
Postcolonialism	グローバルスタディーズC
Sustainability Studies	グローバルスタディーズC
ナショナリズム研究	グローバルスタディーズB
国際政治経済学	グローバルスタディーズB
多国籍企業論	グローバルスタディーズB
安全保障論	グローバルスタディーズB
国際人権論	グローバルスタディーズC
グローバリゼーションとエシックス	グローバルスタディーズC
グローバル市民社会論	グローバルスタディーズC
インターンシップアブロードII	インターンシップアブロードI

6. グレードナンバー制

国際学部で開設される授業科目には、グレードナンバーが付されています。これは科目のレベルを簡明に表示したものです。学修計画の設計にあたって、参考にしてください。

(1) グローバルスタディーズ学科開設科目のグレードナンバーについて

アルファベットと数字を組み合わせた6桁のグレードナンバーが設定されています。このグレードナンバーから、「開設学科」「配当年次」「科目分野」「授業で使用される言語」を判断することができます。

例) 英語 (Reading) I (G1101B)

G 1 1 01 B
① ② ③ ④ ⑤

- ①開設学科を表します：G=グローバルスタディーズ学科 / C=国際文化学科
- ②配当年次を表します：1=1年次、2=2年次など
- ③科目分野を表します：1=学科外国語、2=学科基礎、3=学科専門、4=演習、8=留学、9=その他
- ④学問領域を表します：10～=C分野、20～=G分野、30～=E分野、40～=C+G分野、50～=C+E分野、60～=G+E分野、70～=C+G+E分野、80/90～=その他
- ⑤教授言語を表します：J=日本語、E=英語、B=日本語と英語の併用、X=担当教員による、Y=その他

(2) 国際文化学科提供科目のグレードナンバーについて

アルファベットと数字を組み合わせた6桁のグレードナンバーが設定されています。このグレードナンバーから、「開設学科」「配当年次」「科目分野」「授業で使用される言語」を判断することができます。

例) English Communication I -Speaking (C1101X)

$\frac{C}{①}$ $\frac{1}{②}$ $\frac{1}{③}$ $\frac{01}{④}$ $\frac{X}{⑤}$

- ①開設学科を表します：C=国際文化学科 / G=グローバルスタディーズ学科
②配当年次を表します：1=1年次、2=2年次など
③科目分野を表します：1=学科外国語、2=学科基礎、3=学科専攻（コース共通）、
4=学科専攻（多文化共生）、5=学科専攻（世界と日本）、
6=学科専攻（芸術・メディア）、7=演習、8=卒業論文、
9=国際文化実践プログラム
④科目番号を表します：1-99
⑤教授言語を表します：J=日本語、E=英語、B=日本語と英語の併用、
X=担当教員による、Y=その他

(3) 教養教育科目のグレードナンバーについて

以下の基準で、3桁の数字のグレードナンバーが設定されています。

	基礎 \longrightarrow 応用				
グレード	100	200	300	400	500

V 履修登録

1. 履修登録手続スケジュール

履修登録手続スケジュールは毎年度変更されますので、履修要項WEBサイト (<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/kyoga/rishu/>) で確認してください。

2. 履修登録制限単位数

大学での学修においては、単位制度の趣旨、教育効果（自主的な学修時間の確保）および健康管理の点から、一度に多くの科目を履修することは適当ではありません。

このため、国際学部では次のとおり**履修登録制限**を行っています。ここに定める単位数を超えて履修登録することはできません。よく考えて卒業までの履修計画を立てる必要があります。

所属セメスター 学部	1	2	3	4	5	6	7	8	計
1年次入学生	22	22	22	22	22	22		48	180
3年次編転入学生					24	24		48	96

(注1) 編転入学した者のカリキュラムは、編入学または転入学した年度ではなく、入学を認められた学年の在學生と同様のカリキュラムを適用します。再入学した者については、原則離籍前と同年度のカリキュラムを、復学した者については、休学前と同年度のカリキュラムをそれぞれ適用します。

(注2) 通年科目の単位数は、第1学期と第2学期で2分割して計算します。

(注3) この履修制限には、以下の科目は含まれないことから、制限単位を超えて履修登録することができます。ただし、単位制度の趣旨および教育効果（自主的な学修時間の確保）や健康管理の点からすれば、制限単位を大幅に超える登録は好ましくありません。

- ① 随意科目（授業時間割表に「随意」、「教職」、「本山」のいずれかの記号のある科目）
- ② 授業期間外に開講される科目
- ③ 大学コンソーシアム京都科目（単位互換科目、インターンシップ）

3. 予備・事前登録

予備・事前登録とは、受講者数を調整するため、通常の履修登録（本登録）に先だって行われるものです。予備・事前登録手続きの必要な科目は、この手続きをしなければ受講できません。

履修登録 — 1) 予備登録 ……………	受講可否を抽選（無作為抽出）により決めます。 （広義）	教養教育科目においてこの手続きが必要です。
2) 事前登録 ……………	受講可否を申請書の内容や過去の成績などにより決めます。 一部の専攻科目においてこの手続きが必要です。	
3) 履修登録（本登録） ……	履修する科目（予備・事前登録にて受講可となった科目を含む）が （狭義）	確定します。

4. 履修登録要件

(1) 履修登録要件

有効な履修登録を行うためには、次に定める要件をすべて備えていなければなりません。履修登録はすべて自己の責任において行ってください。

- ① 必修科目は、担当されているセメスターに登録してください。
- ② 所属年次に担当されている授業科目以外に下級年次担当の授業科目を登録することができます。ただし、諸事情により不開講となる場合や開講期（開講セメスター）が変更される場合がありますので注意してください。
- ③ 履修登録は授業時間割表に従って登録してください（特に、同一授業科目について複数の担当者がある場合や、週2回学期完結型授業等の場合は、別段の指示があるので注意してください）。
- ④ 重複登録（同一講時に2科目以上の登録をすること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑤ 二重登録（すでに修得した科目（既修得科目）を再度登録すること、および同時に同一授業科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目は全て無効となります。
- ⑥ 各セメスター（学期）および各年次において、定められている履修登録制限単位を超えて登録することはできません。

(2) 履修登録にあたって注意すべき点

- ① 授業時間割に変更が生じた場合は、掲示板に掲示します。
- ② 履修登録にあたって、不明な点があれば、国際学部教務課窓口にご相談してください。
- ③ Web履修登録画面から、定められた期間に必ず登録してください。
履修登録手続スケジュールは毎年度変更されますので、履修要項WEBサイト（<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>）で確認してください。
- ④ 履修登録は確実にを行うため、パソコンで行ってください。
- ⑤ 受講登録確認表の出力による登録確認

本人が登録した授業科目は、登録完了後、各自がその場で「受講登録確認表」を出力し、正しく登録されているかどうかを必ず確認してください。受講登録確認表について、不備もしくは質問がある場合は、ただちに、国際学部教務課窓口へ申し出てください。また、出力した受講登録確認票は、必ず保管してください。

5. 履修辞退制度 ※受講登録確認時に行う修正とは異なりますので注意してください。

(1) 「履修辞退制度」とは

「履修辞退制度」とは、受講者が授業を受けてみたものの、「授業内容が学修したいものと著しく違っていた場合」や「受講者自身が授業について行ける状況にまったくない場合」など、やむを得ない理由がある場合に自分自身の判断で履修を辞退することができる制度のことです。

この制度は、履修登録の確認時における登録不備によって修正が必要となる場合の「履修登録修正」とは異なり、履修登録がすべて確定した後に、上記のような理由によって受講者自身が定められた期間に履修辞退の申し出をすることができるものです。「履修登録修正」は登録情報を「修正や取消」するものであり、以前の履修は一切残りませんが、「履修辞退」は、「履修登録」および「履修辞退」の履修が記録として残ります。

したがって、受講者のみなさんはこの「履修辞退制度」を安易に利用するのではなく、『履修要項』および『シラバス』を熟読して学修計画をしっかりと立て、慎重な履修登録をするよう十分留意する必要があります。

(2) 履修辞退による成績評価のあり方

本学が設定する履修辞退の申出期間中に辞退を申し出た場合、当該授業科目の成績評価は行いません。したがって、履修辞退した科目は平均点やGPAの計算対象から除外されるとともに、成績証明書への記載対象からも除外されます。なお、各学期に配付される個人別の成績表には履修履修および履修辞退履修として「J」の記号が記載されます。

(3) 履修辞退できない科目

原則として、開講科目のすべてを「履修辞退」の対象科目としています。

ただし、下記のとおり、カリキュラムの関係において、学部（学科・専攻・コース）で学修する上で“必修としている授業科目”や“予め定員を設け募集した科目”、“本学以外の団体等への手続きにおいて調整が困難である科目”など「履修辞退制度」の対象としない（＝履修辞退を認めない）科目を設定していますので、履修登録の際、必ず確認してください。

◆履修辞退対象外科目の一覧

科目区分	備考
必修科目	選択必修科目については、学部（学科・専攻・コース）によって取扱が異なる場合があります。
事前登録が必要となる科目（注）	教室の規模や教室の設備、授業の企画規模等にあわせて、予め受講者数の制限を設けて募集した科目については、履修辞退を認めません。
「大学コンソーシアム京都」の単位互換科目として受講している科目	本学学生が本学他学部の開講する科目を、左記の2団体が展開する「単位互換科目」として受講している場合、履修辞退を認めません。
教育実習、介護等体験に関する科目	実習校との事前調整を行う科目であるため、履修辞退を認めません。
サマーセッション科目	本制度となじまない科目であることから、履修辞退は認めません。
その他各学部が設定する科目	各学部（学科・専攻・コース）において設定する科目別表「学部等が設定する履修辞退対象外科目の一覧」のとおり。

(注) 教養教育科目の「予備登録」が必要となる科目とは異なります。

◆学部等が設定する履修辞退対象外科目の一覧

学部等	履修辞退の対象外とする科目
国際学部 グローバルスタディーズ学科	事前登録が必要となる科目 Applied Global Studies

(4) 履修辞退の申出期間

履修辞退の申出期間は各学期において1週間程度設けられます。履修説明会・ポータルサイト等で確認してください。

(5) 履修辞退の申出方法

履修辞退の申出期間にポータルサイトの「Web履修辞退申請」から申請してください。
受付期間中にポータルサイトを利用した申請ができない理由を有する者は、事前に国際学部教務課に相談してください。

(6) 留意事項

- ① 通年科目について、第1学期（前期）期間中に履修辞退の申し出をした場合は、第2学期（後期）の当該科目の単位数は履修登録制限単位から除外され、カウントされません。また、後期の履修登録がある場合は、履修辞退した科目の同一曜講時に学期完結型の後期開講科目を履修登録することができます。

なお、履修辞退の申し出による単位数計算は以下のとおりです。

履修辞退申出時期	科目区分	単位数の計算
第1学期（前期）	前期科目	カウントします
	通年科目	第1学期（前期）分はカウントしますが、第2学期（後期）分はカウントしません
第2学期（後期）	後期科目	カウントします
	通年科目	カウントします

- ② 履修辞退申し出による授業料（科目等履修生は履修料）の返還はしません。

なお、単位制学費の対象学生（留年生および社会人）が、通年科目の辞退を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の授業料は徴収しません。

また、科目等履修生が、通年科目を第1学期（前期）期間中の履修辞退申出期間に申し出た場合、第2学期（後期）分の履修料は理由の如何にかかわらず返還しません。

6. 配当セメスターの考え方

それぞれの科目には配当セメスターが設定されており、設定された配当セメスター以降の履修が可能であることを示しています。

- 必修科目は、配当されているセメスターに登録してください。
- 配当セメスターにかかわらず、開講期（開講セメスター）は年度により変更することがあります。
- 一部の科目については、配当セメスター以外での履修を行うことができないなどの特性があります。詳細は、国際学部教務課窓口にて確認してください。
- 9月入学・半期休学等の理由により、科目配当に極端な不利益があると判断されるときは、配当セメスターより前の履修を認めることがあります。ただし、履修登録にあたっては予め国際学部教務課窓口で相談してください。

Ⅵ 成績評価

成績評価は、個々の科目について定められている単位数に相当する量の学修成果の有無やその内容を評価するために行われます。成績評価は、一般的に100点満点法で評価され、60点以上の評価を得られた場合に所定の単位が認定されます。

1. 成績評価の方法

成績評価には、おおよそ次の4種類の方法があり、これらのうちのひとつまたは複数を組み合わせて評価されます。各科目の成績評価方法は、その科目の特性に応じて授業担当者によって定められています。その内容はシラバスに明示されているので参照してください。

- ① 筆答試験による評価
- ② レポート試験による評価
- ③ 実技試験による評価
- ④ 授業への取組状況や小テストなど、上記試験による評価の他に、担当者が設定する方法による評価

2. 成績評価の基準

- ① 成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格、それを満たさない場合は不合格とします。
- ② 一度合格点を得た科目（=既修得科目）は、いかなる事情があっても、再度履修し成績評価を受けることはできません。
- ③ 履修登録した科目の試験を受験しなかった場合、その試験の評価は0点となります。ただし、この場合でも、試験による評価以外に授業担当者が設定する方法により評価される場合があります。
- ④ 段階評価と評点の関係は、次のとおりとします。

段階評価と評点			
S (90~100点)	A (80~89点)	B (70~79点)	C (60~69点)

上記の段階評価以外に、実習科目はG（合格）・D（不合格）で評価する場合があります。単位認定された科目の場合はN（認定）となります。

- ⑤ 学業成績証明書は、すべて段階評価で表示し、不合格科目は表示しません。
- ⑥ 学業成績表は、第1学期（前期）分を9月中旬、第2学期（後期）分を3月下旬に配付します。期日と場所は、別途掲示等でお知らせします。

3. GPA 制度

GPAとは、Grade Point Average（成績加重平均値）のことであり、従来の修得単位数による学修到達度判定に加え、どの程度のレベルで単位を修得したかを一目で表すものとして考えられたものです。

GPAは、各教科の評価点（100点満点）を次表のように換算しなおし、その合計を登録科目の総単位数で割って算出します。

評価点	グレイドポイント
100～90点	4
89～80点	3
79～70点	2
69～60点	1
59点以下	0

$$\text{GPA} = \frac{\Sigma (\text{登録科目のグレイドポイント} \times \text{単位数})}{\Sigma (\text{登録科目の単位数})}$$

例えば、「仏教の思想A」（2単位）90点、「心の科学」（2単位）80点、「人権論A」（2単位）40点、「アジアの歴史」（4単位）76点を登録科目の結果とした場合、GPAは次のように計算されます。

$$\text{GPA} = \frac{(2 \times 4) + (2 \times 3) + (2 \times 0) + (4 \times 2)}{2 + 2 + 2 + 4} = \frac{22}{10} = 2.2$$

※随意科目、履修辞退した科目については、ここでいう登録科目には含みません。

※成績を評価点（100点満点）で評価しない科目は算入しません。

4. 成績疑義

成績評価について疑義がある場合は、必ず所定の「成績疑義申出用紙」に疑義内容を記入した後、国際学部教務課窓口に提出してください。**授業担当者に直接申し出てはいけません。**

なお、申出期間については、別途掲示等で確認してください。

5. 筆答試験の時期

定期試験（学期末・学年末試験）	個々の科目について定められている授業期間の終了時期（通常の場合は学期末）に実施する筆答試験
追試験	定期試験欠席者のために、定期試験終了後に改めて実施する筆答試験（追試験の項を参照のこと）

6. 受験資格

次の各号に定める条件をすべて備えていないと受験資格を失い、受験することができなくなる恐れがあります（追試験については、追試験の項を参照のこと）。

- (1) その科目について、有効な履修登録がなされていること。
- (2) 定められた学費を納入していること。
- (3) 授業に出席していること。原則として3分の2以上の出席があること。
- (4) 授業担当者の求める諸条件を満たしていること。

7. 受験の注意事項

筆答試験に際しては、次のことを守らなければなりません。

- (1) 指定された試験場で受験すること。
- (2) 試験開始20分以上の遅刻および30分以内の退室は許されない。
- (3) 学生証を携帯すること。
- (4) 学生証は写真欄が見えるよう机上通路側に置くこと。

万一学生証を忘れた場合には、事前に国際学部教務課窓口で「試験用臨時学生証」の交付を受けておくこと。

- (5) 答案（解答）用紙が配付されたら直ちに年次、学籍番号、氏名を「ペンまたはボールペン」で記入すること。
- (6) 参照を許可されたもの以外は、指示された場所におくこと。
[担当教員の指示がない限り、電子機器等の使用を認めない。]
- (7) 試験開始前に携帯電話等の電源を切り、かばんの中に入れること。
- (8) 答案（白紙答案を含む）を提出しないで退室しないこと。

8. 答案の無効

次の場合は、その答案は無効となります。

- (1) 無記名の場合
- (2) 指定された場所に提出しない場合
- (3) 試験終了後、試験監督者の許可なく氏名を書き直した場合
- (4) 受験態度の不良な場合

9. 筆答試験における不正行為

- (1) 受験中に不正行為を行った場合は、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。さらに、不正行為の程度により、学則に定める懲戒を加えることがあります。
- (2) 次に該当する場合は、これを不正行為と見なします。
 - ① 私語や態度不良について注意を与えても改めない場合
 - ② 監督者の指示に従わない場合
 - ③ 身代わり受験を行ったとき、または行わせた場合
 - ④ カンニングペーパー等を所持していた場合
 - ⑤ 携帯電話、スマートフォン、情報端末等をかばん等にしまっていない場合
 - ⑥ 許可された以外のものを参照した場合
 - ⑦ 机上等への書き込みをしていた場合
 - ⑧ 許可なくして物品や教科書、ノート類を貸借した場合
 - ⑨ 答案用紙の交換および見せ合いをした場合
 - ⑩ その他、①～⑨に準じる行為を行った場合

10. レポート試験における不正行為

レポート試験については、既存文書からの不正な転用等が認められたとき（例えば、インターネット等から複写したような場合）は、当該レポートを無効扱いとし、単位認定を行わない場合があります。

11. 追試験

(1) 追試験の受験資格

追試験は次の各号のいずれかの理由により定期試験を欠席し、所属学部が認めると受験することができます。

- ① 病気、怪我又は試験時における体調不良等
- ② 親族（原則として3親等まで）の葬儀への参列
- ③ 公認サークルの公式戦への選手としての参加
- ④ 交通機関の遅延等
- ⑤ 交通事故、災害等
- ⑥ 就職活動（説明会、筆記試験、面接等）
- ⑦ 資格試験（公務員試験、公的資格試験等）の受験
- ⑧ 単位互換科目の試験受験
- ⑨ インターンシップ実習（協定型インターンシップ、大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム）又は博物館実習への参加
- ⑩ 裁判員（候補者）への選任
- ⑪ 短期大学部における実習等への参加により本学学部の定期試験を受験できなかった場合
- ⑫ その他所属学部が特に必要と認める理由

追試験受験希望者は、追試験受験願および欠席理由証明書（医師診断書、交通遅延証明書または事故理由書、就職試験等による場合は会社あるいは団体が発行する証明書等）をその科目の試験日を含めて4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし、土曜日が試験日の場合は試験当日を含む4日以内）に国際学部教務課窓口へ提出しなければなりません。

交通遅延証明書のうち、Web発行によるものは本人が乗車したことを証明するものではありませんので、欠席理由の証明書として、本学では取り扱いできません。

交通遅延証明書は従来通り、「本人が乗降した際に各駅にて受け取ることができるもの」のみを証明書として取り扱います。

なお、定期試験当日、医師の診断の結果、インフルエンザなどの流感により外出が制限され、定期試験を受験できなかった場合は、追試験申込期限内に国際学部教務課まで連絡してください（電話による連絡可）。

(2) 追試験の受験料は、1科目1,000円です。

(3) 実技・実習科目、レポート試験による科目、特別に指定された科目については、原則として追試験は行いません。

詳細については、定期試験前に国際学部掲示板にて確認してください。

12. 筆答試験時間

筆答試験時間割は、原則として試験の14日前に掲示およびポータルサイトにより発表します。

試験時間は、次のとおりです。

講時	開始時刻	終了時刻	
		教養教育科目 文・経済・経営・政策・国際学部専攻科目 短期大学部共通科目・専攻科目 学部共通コース科目 諸課程科目 (60分)	法学部専攻科目 (70分)
1講時	9:00	10:00	10:10
2-A講時	10:30	11:30	11:40
2-B講時	12:00	13:00	13:10
3-A講時	13:30	14:30	14:40
3-B講時	15:00	16:00	16:10
4講時	16:30	17:30	17:40
5講時	18:00	19:00	19:10
6講時	19:15	20:15	-
7講時	20:30	21:30	-

(注1) 教養教育科目および学部共通コース科目のうち、学部提供科目については、当該学部が定める試験時間となります。

(注2) 科目の特性によって、試験時間を変更することがあります。

第2部 教育課程

I 教育課程の編成方法

グローバルスタディーズ学科 年次別カリキュラム概念図

学年		1年次生		2年次生		3年次生		4年次生	
英語能力目標値		TOEIC 685 IELTS 5.5		TOEIC 730 IELTS 6.0		TOEIC 800 IELTS 6.5		TOEIC 830 IELTS 6.5	
Semester		1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester	5 Semester	6 Semester	7 Semester	8 Semester
外国語 (PEP)	必修外国語	・英語 (Reading) I ・英語 (Writing) I ・英語(Oral Communication) I ・Study Abroad Preparation I	・英語 (Reading) II ・英語 (Writing) II ・英語(Oral Communication) II ・Study Abroad Preparation II						
	テスト対策	Basic		Advanced					
		・Business English through TOEIC ・Academic English through IELTS	・Business English through TOEIC ・Academic English through IELTS	・Business English through TOEIC ・Academic English through IELTS	・Business English through TOEIC ・Academic English through IELTS	・Career English	・Career English		
	基礎科目	・リサーチ 方法論A ・グローバル スタディーズ A・B ・ITリテラシー A	・リサーチ 方法論B ・グローバル スタディーズ C ・ITリテラシー B						
	教養教育科目	仏教の思想A	仏教の思想B						
	留学	・短期語学 研修(夏期)	・短期語学 研修(春期)	→	→				
専攻科目	①Globalization			・国際関係入門	・グローバル・ ヒストリー 入門 ・国際法入門				
	Globalization + Communication					・通訳・翻訳 研究A ・Globalization of Education	・通訳・翻訳 研究B		
	②Communication			・Discussion & Debate ・会話分析 入門A	・Discussion & Debate ・会話分析 入門B	・English for Global Studies	・English for Global Studies		
	Communication + Ethics			・Introduction to Sociolinguistics	・Introduction to Cultural Anthropology				
	③Ethics				・政治思想 概論	・国際人権論	・Postcolonialism		
	Ethics + Globalization						・多国籍企業論 ・グローバル 市民社会論		
	①+②+③						・Sustainability Studies ・言語教育 政策論	・Applied Global Studies	
海外インターンシップ					インターンシップ アブロードI	インターンシップ アブロードI・II	インターンシップ アブロードII		
演習			・プロジェクト 演習	・プロジェクト 演習	・演習I	・演習II	・演習III	・演習IV	
卒論								卒論作成	
メンター制度		Mentee(助言を受ける立場)				Mentor(助言する立場)			
スーパーバイザー		リサーチ方法論教員				演習教員			

1. 授業科目の区分

本学の教育課程（カリキュラム）の編成は、4年間（8 Semester）にわたっており、グローバルスタディーズ学科の内容は次のとおり構成されています。これらの分類のことを「授業科目の区分」といいます。

- ・教養教育科目（「仏教の思想」科目、「教養科目」）
- ・学部専攻科目（「学科外国語科目」、「学科基礎科目」、「学科専攻科目」、「留学科目」）

2. 必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目

すべての科目は「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」「随意科目」のいずれかに指定されています。

「必修科目」 卒業要件を満たすために必ず履修し単位を修得しなければならない科目です。この科目の単位が未修得の場合は、修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えていても、卒業の認定を受けることができません。

「選択必修科目」 指定された科目群の内から決められた数の科目を任意に選択して単位を修得しなければならない科目です。この科目も必修科目と同じく決められただけの単位数が未修得であれば、卒業の認定を受けることができません。

「選択科目」 該当の分野からどの科目を履修するかはすべて学生の選択に任されている科目です。ただし、卒業要件上、一定の単位数を修得することが義務づけられており、この要件を満たしていない場合は卒業の認定を受けることができません。

「随意科目」 主として各種の資格取得にかかわる科目であって、卒業要件とは無関係です。そのため、随意科目は教養教育科目、学部専攻科目の区分の外に置かれます。

3. クラスの編成

- (1) クラスとは
クラスとは教育上の効果を考慮して、受講者を適切な規模に分割したものです。
- (2) クラスの種類
クラスには次の種類があります。
 - ① 必修外国語クラス
 - ② 学科基礎科目クラス（リサーチ方法論・ITリテラシー等）
 これらはそれぞれに定員が異なるためクラスの構成員は一致しません。

4. スーパーバイザー制度

スーパーバイザー（Supervisor）とは学修上の相談から留学先の選択まで、グローバルスタディーズ学科で学ぶ上でどんなことでも相談できる担当教員の事です。1人の学生に2名のスーパーバイザーが就きます。1名は主担当、もう1名は副担当です。入学後すぐは1年次に受講する「リサーチ方法論」クラスの担当者がスーパーバイザーとなりますが、学年が進行するにあたり演習の担当者など、担当者は変更となります。

- (1) スーパーバイザー教員
「リサーチ方法論A」の担当者が主担当となり、「リサーチ方法論B」の担当者が副担当となります。
- (2) スーパーバイザーへの相談方法
 - ① アポイントのとり方

基本的には「オフィスアワー (p.2)」を利用してスーパーバイザーに相談をします。その他、学習ポートフォリオ「manaba」やE-mailで連絡を取ってください。

②相談内容 (一例)

- ・留学先の選定
2年次に必修である留学の行き先について。
- ・外国語学習
英語の学習方法や、各種テストについて。
- ・履修相談
グローバルスタディーズ学科で学ぶにあたり、どのような科目を履修すればよいかという点から卒業論文の進め方まで履修全般について。
- ・学生生活全般
キャンパスライフについて。相談内容によっては「なんでも相談室」や、「こころの相談室」(共に深草学舎 4号館 1F)」の利用方法について助言します。

5. メンター制度

グローバルスタディーズ学科では高い英語スコア取得や2年次の海外留学などが必修となります。自己の努力も必要ですが、先輩から助言を得ることが達成の秘訣です。悩みがある場合や壁にぶつかった時に、相談できる先輩がメンター (Mentor) です。

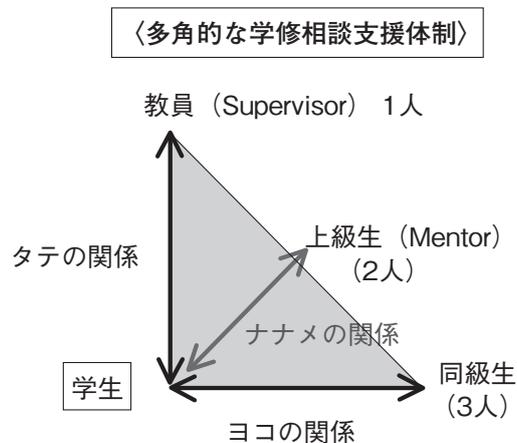
グローバルスタディーズ学科では4名の学生〔メンティー (Mentee) =助言を受ける人〕に2名のペアで先輩のMentorが付き、みなさんのよき相談員となります。

(1) 対象となる学生

- ①メンター：3年生と4年生から選抜された各30名
- ②メンティー：1年生と2年生の全員

(2) メンター制度の意義

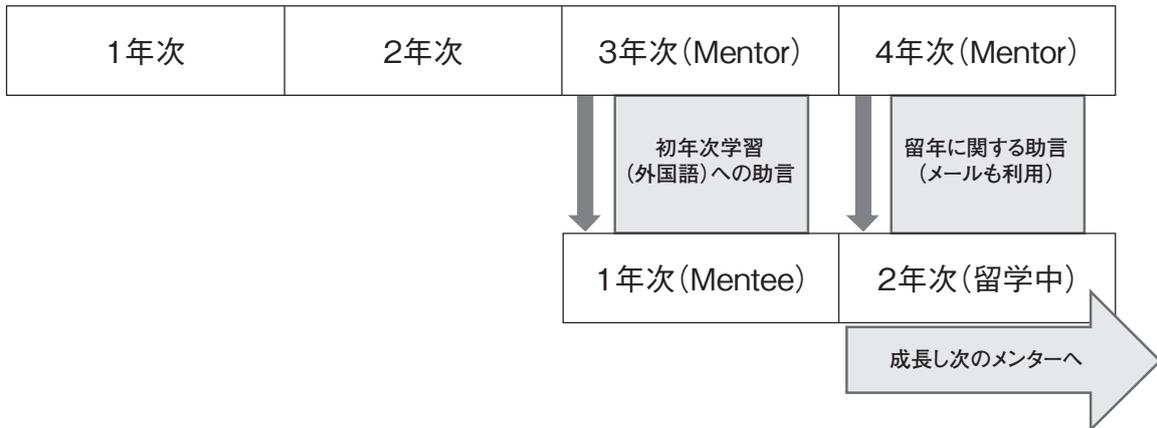
みなさんは「スーパーバイザー制度」等により学修が順調に進むように多面的なサポートが受けられます。その中でもこのメンター制度は、上級生がメンターとなり下級生 (メンティー) を支援する事で下級生は上級生から助言が得られるだけでなく、上級生は下級生に助言を行う事で社会人として必要になるマネージャーとしての素養を学びます。その他にも4名の学生同士が同じメンターペアにつく事で、チーム内で互いに学びを支えあう環境としています。



(3) メンター制度の詳細

①メンター設置方法

メンターは3年次～4年次に1年次～2年次下級生への指導・助言を行います。



②相談内容

「外国語学習方法」「留学先選定」「学生生活」など全般

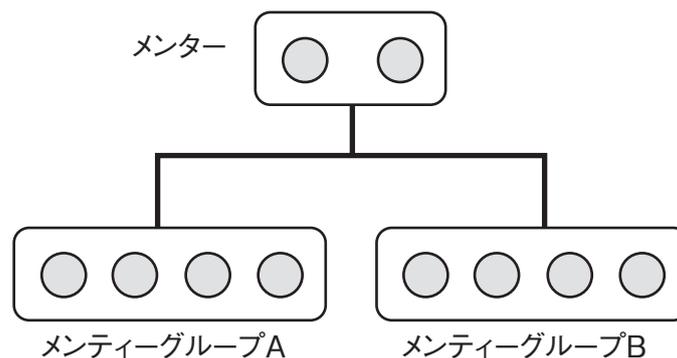
* メンターは自分達の知識外の質問を受けた場合は、同学年の友人・知人に聞く、または知人を紹介する等、メンティーの質問に対して最大限の努力で応えます。

③メンターの選出方法

3年次の「演習Ⅰ」において担当教員が適性のある学生を選出します。

④グルーピング

メンターは2名のペアでメンティーのサポートを行います。メンティーは4名で1グループとし、メンターペアは2グループ（計8名、メンター1名あたり4名のメンティー）を支援します。それぞれの支援ペア／グループは基本的には2年間変わりません。



(4) 最初の顔合わせ

前期の4月上旬～中旬までの間に、「リサーチ方法論A」の授業がある週の昼休みにすべての1年生とメンターが集まって最初の顔合わせを行います。その場でお互いに連絡先を交換して、具体的な助言方法については相互に話しあって決定します。この日の昼食は各自持参とし、顔合わせとメンター制度の説明のあとは、マッチングされたメンターとメンティーとで一緒に昼食となります。

Ⅱ 教養教育科目の教育目的および履修方法

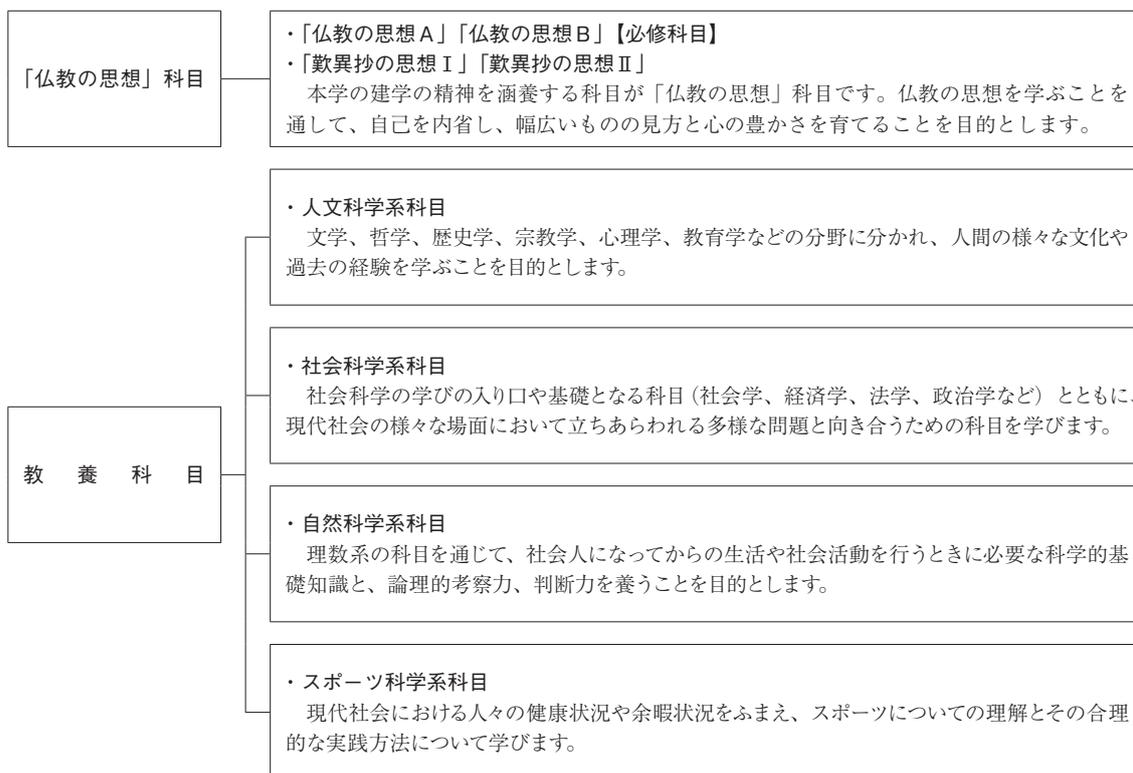
1. 教養教育とは

(1) 教養教育の理念・目的

龍谷大学の教養教育は、人間の根源的な問いからその内面を見つめる思考の幅を広げ、人間をとりまく多様な世界を知ることを通じて、自己を確立できる人間の育成を目指して開講されています。このため、建学の精神に基づく高い倫理性や豊かな人間性ととも、知性・感性を兼ね備え、現代社会でたくましく生きる力を持った人間の形成、つまり、幅広い知識と知的な諸技法の修得に基づく論理的思考力や判断力の涵養により、社会性をもって現実を正しく理解する力と、国際的なコミュニケーション能力をもった「専門性を身につけた教養人の育成」の一翼を担うことを目的としています。

(2) 教養教育科目とは

教養教育は、「仏教の思想」科目、教養科目の科目区分で構成されており、これら全体を教養教育科目とよびます。



2. 「仏教の思想」科目

「仏教の思想」科目では、1年次の必修科目「仏教の思想A」「仏教の思想B」と、2年次以降の選択科目「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」が開講されています。ここでは「仏教の思想」を中心に説明します。

(1) 目的と意義

本学は「親鸞聖人によって開示された浄土真宗の精神を建学の精神にもち、真の人間たるにふさわしい世界を開くことをめざし、深い学識と教養をもちながら国際社会の一員として努力する人間を育成すること」をめざしています。

「仏教の思想」は本学の建学の精神を学ぶために必修科目として位置づけられ、大学の一つの個性と

なっています。この講義では本学のよき伝統を知り、仏教の思想を学ぶことを通して、自己を内省し、幅広いものの見方と心の豊かさを育てることを目的としています。「仏教の思想」は、各学部のカリキュラムに沿って履修しやすいように、クラス指定で1年次に開講されています。また、入学した学生にいち早く建学の精神を学んでほしいという願いもあります。この「仏教の思想」を平易に理解するために、次のような教育目標を掲げています。

1. 人間にとっての宗教の意義を明らかにする。真実の宗教を見極める眼を育てる。
2. 倫理・歴史として「仏教の思想」を学ぶ。
3. 人間学として「仏教の思想」を学ぶ。
4. 広い視野を育てるために「仏教の思想」を学ぶ。
5. 現代世界のあり方を考える思想として「仏教の思想」を学ぶ。
6. いのちのかけがえのなさに目覚め、異なる意見と対話・交流しあえるような姿勢を培うために、「仏教の思想」を学ぶ。
7. 「仏教の思想」を通して、龍谷大学の建学の精神を学ぶ。

(2) 履修方法

① 必修科目

「仏教の思想A」「仏教の思想B」は必修科目です。配当されたセメスターにおいて必ず履修してください。

② 選択科目

「歎異抄の思想Ⅰ」「歎異抄の思想Ⅱ」は選択科目で、教養教育科目の選択科目として単位認定されます。

③ クラス指定

授業内容の系統性を確保するため、「仏教の思想A」「仏教の思想B」は同一の授業担当者になります。

学部指定やクラス指定を行っていますので、時間割の指示にしたがって履修登録してください。

なお、9月入学生については、所属学部教務課の指示にしたがって履修してください。

④ 「仏教の思想A」「仏教の思想B」の再履修

配当されたセメスターで不合格となった場合は、2年次以降に次のとおり再度履修してください。

なお、この場合は、上記③（同一の授業担当者による受講およびクラス指定）は適用しません。各自、履修登録を行ってください。

年次	セメスター	科目名
2年次	3	「仏教の思想A」(正規クラスを再履修として履修)
	4	「仏教の思想B」(正規クラスを再履修として履修)
3年次～ (※)	5	「仏教の思想A」(正規クラスを再履修として履修) 「仏教の思想B」(再履修クラス)
	6	「仏教の思想A」(再履修クラス) 「仏教の思想B」(正規クラスを再履修として履修)

(※) 3年次生以上は、同一セメスターで、A・Bを同時履修することが可能です。

3. 教養科目

教養科目は、「人文科学系科目」「社会科学系科目」「自然科学系科目」「スポーツ科学系科目」の4つの系列に分類されており、各系列から偏りなく履修することを通じ、幅広い教養を身につけることを可能にしています。全ての教養科目は自由に選択できます。

人文科学系科目

人文科学は、人間の様々な文化や過去の経験を研究する学問領域で、大きくは文学、哲学、歴史学、宗教学、心理学、教育学などに分かれます。人文科学系科目では、先入観や偏見から自由になってものごとを考える力、芸術作品を鑑賞する能力、感情や意見の表現の仕方、人間の心理を理解する方法などを身につけることを目的にしています。

社会科学系科目

社会科学（社会学、経済学、法学、政治学など）は、絶えず変動し複雑さを増す現代社会を広く見渡すとともに、現代社会の諸問題を多角的に捉え、思考・判断する力を養います。そのために、様々な学問分野が培ってきた「ものの見方」や「考え方」、さらには幅広い知識や知的な諸技法を学びます。

自然科学系科目

自然科学は社会生活を送るうえで重要な分野の一つをなしています。社会人になってからの生活や社会活動の際に必要な科学的基礎知識と、論理的考察力、判断力を養います。数学、情報科学、物理学、天文学、科学史、地球科学、生物学、環境学、化学などの主要分野をカバーする科目を開設します。

スポーツ科学系科目

生涯にわたり健康で文化的な生活の基礎を築くとともに、文化としてのスポーツに対する理解を促し、現代社会におけるスポーツの役割や人間の身体がもつ可能性について考える機会とするための科目を設定しています。具体的には実際にスポーツや身体活動を行う実習科目や行動変容を促す講義科目を開設します。

(1) 単位認定の方法

単位は、それぞれの科目ごとに認定されます。

(2) 開講方式および履修方法

- ① すべての科目には配当セメスターが設定されており、配当セメスターより前のセメスターにおいては履修できません。
- ② 同一科目名の授業の中にも、学期完結型、学期連結型（通年）の開講方式があり、いずれの方式の授業でも履修できます（ただし、1科目のみ）。
- ③ 同一科目名で授業担当者が異なる場合でも同一科目として取り扱います。
よって、同じセメスターにおいて、二つ以上同時に履修することや一度単位認定された科目を再度履修することはできません。
- ④ 同一の科目名でありながら、「〇〇A」「〇〇B」「〇〇C」とある科目や「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」とある科目は、それぞれ独立した科目であり、いずれも卒業要件として認定されます。「〇〇A」という科目を修得していなくても、「〇〇B」の履修は可能です。なお、「〇〇I」「〇〇II」「〇〇III」の「I」「II」「III」は科目内容のグレードを表していますので、できるだけ順序だてて履修してください。

※「スポーツ技術学演習」

- ① 「スポーツ技術学演習」を履修するためには、本学で行う健康診断を受けておかなければなりません。健康診断の日程については履修説明会や本学ホームページにて確認してください。
- ② 各演習ともに、第1回目の授業は「体育館メインフロア（2階）」に集合してください。

4. 予備登録について

教養科目では、各授業科目の受講者数を適正規模に調整するために「予備登録制」がとられています。

したがって、教養科目の受講に際しては、年次にかかわらず、予備登録を行う必要があります。

予備登録を行う際は、予備登録できる上限科目数及び学期ごとに定められている履修登録制限単位数に基づき、履修計画をたてた上で、予備登録を行ってください（一部予備登録が不要な科目もありますので、以下の「(5) 予備登録が不要な科目」を参照してください）。

予備登録の結果、受講が許可された科目は、Web履修登録画面にあらかじめ確定した状態で表示されます。その場合、登録の取消はできませんので注意してください。

なお、予備登録で希望した科目の受講が許可されなかった場合や、予備登録を行わなかった場合でも、本登録時にWeb履修登録画面に表示されている科目を選択し履修登録（本登録）することができます。

(1) 予備登録の方法

本学ホームページの「ポータルサイト」から、Web予備・事前登録画面にアクセスの上、希望科目を選択します。

予備登録期間については、履修説明会および国際学部掲示板で確認してください。

(2) 予備登録できる上限科目数

第1学期（前期）（通年科目含む）：7科目

第2学期（後期）：5科目

なお、4年次生には予備登録科目数の制限はありません。

(3) 予備登録結果発表

予備登録結果はWeb履修登録画面で確認してください。

なお、発表日時（履修登録期間）については、履修説明会および国際学部掲示板で確認してください。

(4) 予備登録にあたっての注意事項

- ① 第1学期履修登録は、第1学期開講科目と学期連結型（通年）科目および8月と9月に開講されるサマーセッション科目を登録します。第2学期履修登録は第2学期開講科目を登録します（ただし、4年次生以上は、第1学期に第2学期開講科目を含む通年分の履修登録をする必要があります）。
- ② 各年次について定められている予備登録できる上限科目数および履修登録制限単位の範囲で予備登録をしてください。
- ③ 重複登録（同一曜講時に2科目以上の予備登録をすること）、二重登録（すでに修得した科目（既修得科目）を再度登録すること、および同時に同一科目を2科目以上登録すること）をした場合、当該科目はすべて無効となります。

(5) 予備登録が不要な科目

以下の科目は予備登録が不要です。受講を希望する場合は、直接、履修登録（本登録）をしてください。

「人権論A・B」（1年次配当科目）

Ⅲ 科目区分と卒業に必要な単位数

グローバルスタディーズ学科では、体系的な学修ができるために科目分野を定めています。入学した皆さんはこれらの科目をバランス良く履修し、それぞれの科目分野で定められた単位を修得することで卒業となります。

1. 学科外国語科目（卒業要件：20単位）

グローバルスタディーズという学問領域を、英語を用いて学ぶため、また2年次以降の留学時に現地での正規専門科目を履修出来るために必要な英語運用能力の習得を目指す科目区分です。実践的な4技能（Reading、Writing、Listening、Speaking）の他にも、海外留学のために必要な英語を学ぶ「Study Abroad Preparation」、IELTSTM、TOEIC[®]などで留学に必要なスコア取得を目指す各種対策クラス、海外での進路を目指す際に必要な英語での履歴書作成や、インタビュー対策を学べる「Career English」など多彩なラインアップです。

【必修科目】

- ・ 英語（Reading） I
- ・ 英語（Writing） I
- ・ 英語（Oral Communication） I
- ・ 英語（Reading） II
- ・ 英語（Writing） II
- ・ 英語（Oral Communication） II
- ・ Study Abroad Preparation I
- ・ Study Abroad Preparation II

【選択科目】

- ・ Business English through TOEIC（Basic A）
- ・ Business English through TOEIC（Basic B）
- ・ Academic English through IELTS（Basic A）
- ・ Academic English through IELTS（Basic B）
- ・ Business English through TOEIC（Advanced A）
- ・ Business English through TOEIC（Advanced B）
- ・ Academic English through IELTS（Advanced A）
- ・ Academic English through IELTS（Advanced B）
- ・ Career English

2. 教養教育科目（卒業要件：4単位）

・仏教の思想A・B（必修）

教養教育科目は、学生の興味・関心や研究テーマをより広い視野から理解し、充実したものを目指すことを目指した科目区分です。人文・社会・自然およびスポーツの分野に属する科目で構成され、深草学舎の他学部学生と共に受講します。様々な科目がありますので、自分の興味・関心・進路の希望に応じて選択・履修してください。なお、教養教育科目のうち、本学の建学の精神を涵養する科目として、「仏教の思想A」（2単位）と「仏教の思想B」（単位）は、必修科目です。詳細については、「教養教育科目の教育目的および履修方法」（P.28～）を参照してください。

3. 学科基礎科目（卒業要件：14単位）

グローバルスタディーズという学問領域を学ぶための基礎知識とリサーチ方法を学ぶための科目区分であり、全て必修科目です。

・リサーチ方法論A・B（必修）

初年次学生に対して、大学で学ぶための基礎的なスキルと知識を身につけるための科目です。具体的には、「テーマを見つける」「文献を探す」「批判的に読む」「データを集める」「根拠を示して書く」「簡潔に伝える」などの能力を磨くことを目的としています。最終的には、3000字程度のレポートを作成し、その内容に関するプレゼンテーションを実施します。少人数のクラスに分かれ、担当となる各専任教員やクラスメイトとのコミュニケーションを通じて、これらのスキルの習得と向上を目指します。

・ITリテラシーA・B（必修）

基礎的なパソコン操作のスキルを学び、Wordを用いたレポートの作成、Excelによる表計算、PowerPointを利用したプレゼンテーション資料の作成などのスキルを習得します。その上で、アカデミックな場において適切な方法で必要な情報を収集し、収集した情報から抽出された知識を他者と共有し、広く自身の見解を公表することができるようになる事を目指します。

・グローバルスタディーズA・B・C（必修）

「グローバルスタディーズ」という学問領域を学ぶために必要となる基礎的な知識を習得します。この科目で学んだことは、今後4年間での学びの骨格をなす事になります。Aでは社会科学的・人文科学的の両方から学ぶ「コミュニケーション」領域、Bでは政治・経済・文化などを学ぶ「グローバリゼーション」領域、Cでは平和に共存するために相互の価値観の理解を軸とした「エシックス」領域を学びます。

4. 学科専攻科目（卒業要件：44単位）

グローバルスタディーズ学科の要となる科目群です。「グローバリゼーション」「コミュニケーション」「エシックス」の学問領域及びそれらの複合領域（履修要項p.37参照）から構成された科目から自由を選択して受講します。一部科目は、各領域の基礎科目である「グローバルスタディーズA・B・C」を先修科目としています。

【専攻基礎科目】（卒業要件：20単位）

専攻科目のうち、2年次に配当される科目です。卒業要件として20単位以上の取得が必要になります。

【専攻応用科目】（卒業要件：14単位）

専攻科目のうち、3年次以上に配当される科目です。卒業要件として20単位以上の取得が必要になります。「Applied Global Studies」や「卒業論文」もこの科目です。

また、次の科目から6単位以上の修得が必要になります。(選択必修)

(選択必修科目)「言語教育政策論」、「Global Englishes and Communication」、「Postcolonialism」、「Sustainability Studies」、「ナショナリズム研究」、「安全保障論」

「Applied Global Studies」

上記の科目は4年次に配当され、全員が少なくとも履修登録を行わなくてはならない科目です。2年次から学んできた「グローバル化」、「コミュニケーション」、「エシックス」の3つの領域を総合的に学ぶ、いわば集大成の科目です。履修辞退もできません。この科目ではこれまで学んできた知識をフルに活用し、3領域を横断して現在の世界が直面する諸問題を考えます。グローバルな諸問題、例えば開発、貧困、紛争、差別、格差など様々な問題がなぜ発生するかを多面的に理解し、さらに解決可能性を考えることで今後の世界を考えていきます。

【演習科目】(卒業要件：10単位)

「プロジェクト演習」、「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「演習Ⅲ」、「演習Ⅳ」の計5科目です。

全てが必修科目であり、卒業するためには全ての科目を修得しなくてはなりません。

「演習Ⅰ～Ⅳ」を履修するためには、先修科目である「リサーチ方法論AまたはB」を修得しておく必要があります。

5. 留学科目 (卒業要件：22単位)

2年次提携留学の条件

- ・1年次配当英語科目のうち、前期出発者は6単位、後期出発者は12単位以上修得していることを留学の条件とします。

【共通認定科目】

・SNSを活用した異文化交流実践(必修)

この授業は、manaba上で開講するものです。留学中の学生は、異文化理解を促進するための課題(アサインメント)に取り組み、その結果をSNSを通じて英語でレポートします。留学中でしか経験できないような異文化交流を自主的に発表することが求められます。開講言語は英語です。

【留学先履修科目により認定を受けられる科目】

〈カテゴリー A〉

留学単位認定専用科目であり、実際に受講はしない科目です。そのためこれらの科目は履修登録できません。留学から帰国した後、単位認定を受ける際に選択します。

- ・社会心理学
- ・English Workshop A
- ・English Workshop B
- ・English Workshop C
- ・English Workshop D
- ・Advanced English A
- ・Advanced English B
- ・Advanced English C
- ・Advanced English D
- ・多文化交流論A
- ・多文化交流論B

- ・環境保全論
- ・NGO/NPO論
- ・都市計画論
- ・英語外書講読A
- ・英語外書講読B
- ・比較言語学
- ・日本の社会
- ・日本の思想
- ・日本の近現代と国際関係
- ・世界と日本の民俗
- ・世界と日本の文学
- ・自然人類学概論
- ・環境人類学
- ・フィールド実習
- ・言語とところA
- ・言語とところB

〈カテゴリー B〉

留学単位認定可能かつ受講可能科目です。ただし、留学で単位認定を受けた場合は、実際に受講することはできません。

- ・宗教学概論
- ・比較宗教思想
- ・中東政治論
- ・日本の経済と社会
- ・国際人口移動
- ・国際経済と日本
- ・海外における日本観
- ・オセアニアと日本
- ・パンパシフィックの移民

※カテゴリー A・B以外にもグローバルスタディーズ学科開設科目にて認定を受けることもできます。ただし既に修得済であったり履修登録している科目は対象外となります。

留学先でどのような科目を受講するかについては、「Study Abroad Handbook」をよく読んだ上、スーパーバイザーと相談して決めましょう。

6. フリーゾーン（卒業要件：20単位）

卒業要件124単位のうち、上記科目区分1～5それぞれで定められた卒業に必要な単位数を差し引くと20単位が不足します。

これを「どの科目区分にも該当しない領域」という意味で、「フリーゾーン」と呼びます。

フリーゾーンは皆さん個々の関心とニーズに応じて多様な科目選択をするために設定しているものです。「学科外国語科目」「教養教育科目」「学科基礎科目」「学科専攻科目」「留学科目」から余分に修得した単位に関しては、このフリーゾーンで認定されます。

7. 単位互換科目、教職課程、博物館学芸員課程、本願寺派教師資格課程など

上述の科目区分表には含まれないものとして、単位互換科目や資格関連の科目があります。

「単位互換科目」は、「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度を利用し、大学コンソーシアム京都加盟の他大学で開講されている科目を履修するものです（これらの科目は2年次以上で履修できます）。単位互換科目の詳細については、ホームページを参照してください。

また、グローバルスタディーズ学科では、「中学校教諭一種免許（英語科）」、「高等学校教諭一種免許（英語科）」、「博物館学芸員」、「本願寺派教師資格」を取得できます。こうした資格を取得するためには、それぞれの課程が定めた科目を修得する必要があります。詳細については、ホームページ（<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>）を参照してください。

IV 3つの学問領域

グローバルスタディーズ学科では、2年次以降に専門科目を学ぶにあたり、「グローバリゼーション」「コミュニケーション」「エシックス」の3つの学問領域を設けて科目を構成しています。また学年進行に応じて、異なる2領域が重なる科目、例えば「グローバリゼーション+コミュニケーション」など、3領域が重なる総合的科目を配置しています。これにより、低年次よりステップアップしながら複合的な視点での思考や分析に習熟できる事を目指します。

1. 3つの基本領域

(1) グローバリゼーション領域

「グローバル・ヒストリー入門」、「国際関係入門」「国際法入門」などの科目を配置し、現代のグローバル化を多様な視点から考察するための基礎知識を養います。

(2) コミュニケーション領域

「会話分析入門A」、「会話分析入門B」、「Discussion & Debate」、「English for Global Studies」などの科目を配置し、言語とコミュニケーションに関わる基礎的な知識と実践的スキルを修得します。

(3) エシックス領域

「政治思想概論」、「Postcolonialism」などの科目を配置し、多様な価値観と倫理観を歴史的、国際的な観点から考察するための基礎知識を養います。

2. 複合領域

(1) 「グローバリゼーション+コミュニケーション」領域

「通訳・翻訳研究A」、「通訳・翻訳研究B」、「Globalization of Education」などの科目を配置し、グローバル化する世界で適切なコミュニケーションをどのように構築していくかを考察・実践します。

(2) 「グローバリゼーション+エシックス」領域

「グローバル市民社会論」、「国際開発協力論」などの科目を配置し、グローバル化がもたらす諸課題を倫理的な視点を重視して考察・実践します。

(3) 「コミュニケーション+エシックス」領域

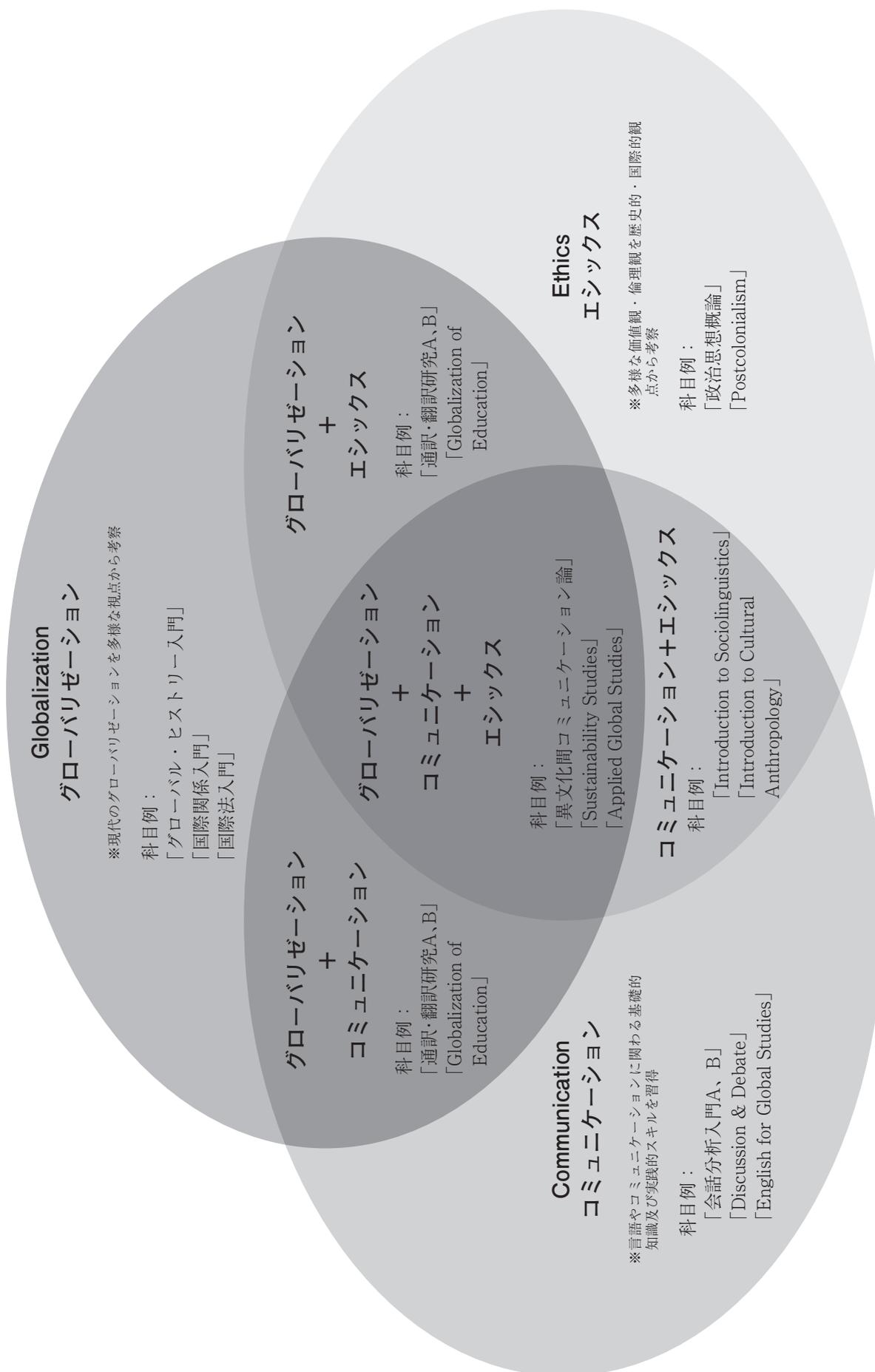
「Introduction to Sociolinguistics」、「Introduction to Cultural Anthropology」などの科目を配置し、多様な価値観や倫理観を生み出す文化的背景やそれに伴う齟齬、また、円滑なコミュニケーションの方法を考察・実践します。

(4) 「グローバリゼーション+コミュニケーション+エシックス」領域

全ての領域が重なるこの領域では、「異文化間コミュニケーション論」、「Applied Global Studies」などの科目を配置し、3つの領域を束ねる観点から世界が直面する諸問題や、グローバル化した社会の諸側面を総合的かつ実践的な見地から考察します。

それぞれ科目がどの学問領域に属するかについては、開設科目一覧（履修要項p.47～）の「領域」欄で確認できます。なお、この学問領域はグローバルスタディーズ学科の専攻科目と一部の基礎科目にのみ設定されており、その他の分野では設定はありません。

3. グローバルスタディーズ学科 学問領域構成図



V キャリア教育とキャリアデザイン

グローバルスタディーズ学科では、柔軟性と批判的精神を併せ持ちながら、「グローバル言語としての英語 (English as a Global Language)」という概念のもと、卓越した英語力をもって国際舞台でリーダーシップを発揮できる人材へと皆さんに成長してもらいます。そのために4年間の学修を通して、多様な価値観をグローバルな視点から捉えなおし、国際的な事象を複眼的に分析するための知識・方法を修得します。

キャリア教育科目は、皆さんが将来どのような進路に進むかを定めるうえで大切な科目です。受講が必修ではありませんが、ぜひ受講しましょう。

1. 想定する進路

グローバルスタディーズ学科では、皆さんが卒業してから進む進路として、以下のような職業を想定してカリキュラムを編成しています。

民間企業の国際部門、外国・外資系企業、国際機関職員、国際NGO/NPO団体、翻訳・通訳者、中学・高校教員、海外大学・大学院等

2. キャリア科目

皆さんが将来どのような進路に進むかを自主的に学び、考え、時にはフィールドに出て実践する機会として、以下の科目を配置しています。

科目名	配当年次	科目区分	備考
グローバル化とキャリア形成	2 後	学科専攻	
Career English	3 前・後	学科外国語	
インターンシップ・アブロード I	3 前・後	学科専攻	
インターンシップ・アブロード II	3 後・4 前	学科専攻	海外インターン含む

(1) 「グローバル化とキャリア形成」クラスの受講について

この科目では、実際にさまざまな場面で国際的に活躍している社会人の方々を講師として招き、実情に基づいた講義を行います。講義は日本語を中心に行われますが、資料は英語を使用する場合もあります。

(2) 「Career English」クラスの受講について

国内に留まらない進路に進む学生やグローバル採用を目指す学生に対して、英語でのcurriculum vitae (履歴書) 作成や、就職活動への実践的アドバイス及びビジネス英語を中心に学びます。加えて海外大学院等に進学するために必要な英語能力の習得も目指します。英語での就職面接を想定した模擬面接も行われる実践的なクラスです。開講言語は英語を基本とします。

(3) 「インターンシップ・アブロード I・II」

① 「インターンシップ・アブロード I」(事前学習)

本科目では、企業や国際機関、行政組織やNGO/NPOなど幅広い職業分野における海外での就業体験 (インターンシップ) に従事するための事前学習を行います。インターンシップから戻ってきた学生とこれから行く学生とが共に事前/事後学習に取り組む機会を設け、相互の情報共有や学び合いを重視します。到達目標として、多様な他者と協力しながらグローバルに活躍できる人材として必要な能力とビジョン、マナーと自信を実践的に獲得する事を目指します。受講生はプレゼンテーションおよびディスカッションを英語で行うことが求められます。

② 「インターンシップ・アブロードⅡ」(インターンシップ実践と事後学習)

本科目では、企業や国際機関、行政組織やNGO/NPOなど幅広い職業分野における海外でのインターンシップに実際にチャレンジする事と、その経験を振り返り学びを深めるための事後学習を行います。インターンシップ後の学生と体験前の学生とが共に事前／事後学習に取り組む機会を設け、相互の情報共有や学び合いを重視します。到達目標として、多様な他者と協力しグローバルに活躍できる人材として必要な能力とビジョン、マナーと自信を実践的に獲得する事を目指します。インターンシップは業務の50%以上で英語を使用します。また、授業内でもプレゼンテーションとディスカッションは英語で行います。

③ インターンシップ先と参加申込み手続きについて

ア【協定型インターンシップ…大学と提携している企業・機関など】

「インターンシップ・アブロードⅠ」の履修セメスターの前に、学内で説明会を開催し、インターンシップ先の説明および行き先を決定します。

イ【自己開拓型インターンシップ…学生自身が探して来た企業・機関など】

インターンシップ先の概要を記した仕様書とインターンシップ内容を記した計画書および面接をもとに、本授業のインターンシップとして適当かどうかを教員が判断し、派遣を決定します。詳細は協定型と同じ学内説明会で説明します。

④ 費用と渡航準備及び海外傷害保険への加入について

費用（渡航費、保険料、宿泊費や食費、現地交通費など）は原則、学生の自己負担です。しかし、インターンシップ先で宿泊施設や交通費などが支給される場合は、この限りではありません。インターンシップ先への渡航および現地宿泊施設の確保などは、適宜教員やインターンシップ先のアドバイスを受けながら自分で手配します。

海外傷害保険への加入は海外でインターンシップに参加する全員の義務です。

龍谷大学は、保険会社と包括契約を結んでおり、この指定の保険に加入します。加入方法については授業で案内があります。

2019年4月時点の補償事項と補償金額は以下のとおりです。

【海外旅行保険で補償される内容】

補償項目	タイプA (保険金額上限)	タイプB (保険金額上限)	タイプC (保険金額上限)
傷害死亡	2,000万円	5,000万円	5,000万円
傷害後遺障害	2,000万円	5,000万円	5,000万円
治療・救済費用	3,000万円	1億円	1億円
疾病死亡	1,000万円	1,000万円	1,000万円
個人賠償責任	1億円	1億円	1億円
携行品損害	20万円	20万円	20万円
航空機寄託手荷物遅延	10万円	10万円	10万円
航空機遅延	2万円	2万円	2万円
応急治療（既往症）	なし	なし	300万円

※補償金額等に変更が発生する場合は、掲示などでお知らせします。

その他、海外でのインターンシップに関しては担当教員の指導をしっかりと受けて、インターン先の選定や計画を行いましょう。

Ⅵ 履修方法

系統的な学修ができるために科目分野を定めていることは前述の「Ⅲ 科目区分と卒業に必要な単位数 (p.32)」にて説明しました。この章では各分野ごとに履修の方法や、注意点などを説明します。卒業に関わる重要なポイントです。しっかり理解した上で履修して下さい。

1. 学科外国語科目の履修方法

グローバルスタディーズ学科では、みなさんが世界を舞台に活躍するリーダーとなるために、「グローバル言語としての英語 (English as a Global Language)」を学習する機会を提供します。その学習では、英語を上手く使えるようになることがゴールではありません。さまざまな文化的、社会的、言語背景をもつ人々とのコミュニケーションにおいて、英語を使って情報を収集し、批判的思考・分析に基づく議論を英語で行い、行動することが重要なのです。その手段としての英語を習得することを目標とします。そのため、「英語を学ぶ」ことは1年次に集中して行い、2年次以降は「英語で学ぶ」ステージに移ります。

具体的には1年次の必修科目として、「Reading」「Writing」「Oral Communication」の基礎技能に加えて、EAP (English for Academic Purpose) を徹底的に学ぶ「Study Abroad Preparation」を設置しています。この科目は、2年次に予定されている留学先で正規専門科目を履修するために不可欠です。留学先で英語を使って専門分野の文献を読み、発表を行い、レポートを書くことは想像以上に大変な作業です。それを乗り切って授業に合格するためには、留学前の段階で十分にそうしたトレーニングを受けておく必要があります。また、留学には、英語の標準テストのスコアが要求されます。したがって、TOEIC®やIELTS™のスコアアップを目的とした「Business English through TOEIC」や「Academic English through IELTS」といった授業も1年次から選択受講できます。さらに、外国企業や国際機関などへの進路を目指す人が英語での履歴書の書き方や面接の受け方について実践的に学べる「Career English」など、他の大学にはない多彩な授業を選択できるようになっています。

このように、グローバルスタディーズ学科では、「英語をとことん学びたい・何としてでもモノにしたい」という熱い思いを持つみなさんの期待に応えるカリキュラムを用意しています。ただし、どれほど素晴らしいカリキュラムが用意されていても、みなさんが受け身の姿勢で授業に臨むようでは、学習効果は期待できません。積極的な姿勢で授業に臨むのはもちろんのこと、授業外にいか「自主学习」を行うか、そうした努力を伴って初めて高い学習効果が期待できるのです。深草キャンパスに新しくできたグローバルcommons (和顔館1F) では、最新の外国語自主学习設備を整えた施設が開設されます。是非、積極的に活用しましょう。

なお、国際学部グローバルスタディーズ学科では卒業するためにはTOEIC®730以上、TOEFL® (iBT80/PBT550) 以上、IELTS™6.0以上を取得する必要があります、入学する皆さんはこの事をしっかり理解しておいて下さい。

国際舞台で英語を使ってどのようなことを受信発信できる人材になっているか、皆さんの4年後を楽しみにしています。

グローバルスタディーズ学科で履修する外国語は英語のみとなります。1年次は少なくとも週8クラス、英語クラスを受講します。

(1) 必修英語クラスの種類

1年次 前期	1週間の受講回数	1年次 後期	1週間の受講回数
英語 (Reading) I	2	英語 (Reading) II	2
英語 (Writing) I	2	英語 (Writing) II	2
英語 (Oral Communication) I	2	英語 (Oral Communication) II	2
Study Abroad Preparation I	2	Study Abroad Preparation II	2

(2) 必修英語クラスのクラス分けについて

入学直後に全員が受験した「TOEIC® (IP)」のスコアにより3レベルのクラス分けを行っています。具

体的には以下の通りです。

1組 初級
↓
8組 上級

皆さんは指定されたクラスで受講して下さい。クラス分けについては授業開始時にポータルサイト、掲示板に掲載します。また、皆さんの履修登録画面上に指定されたクラスはあらかじめ表示されています。

また、8月下旬ごろまでに最新の英語運用能力測定テストのスコアを提出し、そのスコアを基に後期のクラス分けを行います。

レベルダウンを希望する場合は、前期授業期間中にスーパーバイザーに相談してください。

(3) 各種英語テスト対策クラス（選択クラス）

留学先で求められる語学スコアの取得を目指して、各種クラスが選択して受講ができます。例えば、オーストラリアに留学を希望していて、参加条件が「IELTS5.5以上」であれば、IELTS対策クラスを受講して下さい。

1) TOEIC対策クラス

1年次対象	2年次対象
Business English through TOEIC (Basic A)	Business English through TOEIC (Advanced A)
Business English through TOEIC (Basic B)	Business English through TOEIC (Advanced B)

- ①前期と後期に同じ内容のクラスが開講されます。どちらで履修しても構いません。
- ②各クラスの受講条件については、ポータルサイトおよび、履修登録要領を確認して下さい。
- ③Basic A 以外を受講する学生は、第1回目授業時に担当教員にスコアのコピーを提出して下さい。

2) IELTS対策クラス

1年次対象	2年次対象
Academic English through IELTS (Basic A)	Academic English through IELTS (Advanced A)
Academic English through IELTS (Basic B)	Academic English through IELTS (Advanced B)

- ①前期と後期に同じ内容のクラスが開講されます。どちらで履修しても構いません。
- ②各クラスの受講条件については、ポータルサイトおよび、履修登録要領を確認して下さい。
- ③Basic A 以外を受講する学生は、第1回目授業時に担当教員にスコアのコピーを提出して下さい。

(4) Career English（選択クラス）

海外企業や外資系企業への就職、または海外大学への進学を目指す者に対し、英語でのC.V. (curriculum vitae /履歴書) 作成や、インタビュー対策などを専門に学べる科目として「Career English」クラスを設置しています。

(5) 必修外国語クラスの先修制と再履修について

「英語 (Reading) I」「Study Abroad Preparation II」などの必修外国語クラスは卒業するために必ず合格し、単位を取得しなくてはなりません。もし不合格になった場合は、再履修する事になります。

1) 再履修について

60点未満の場合は不合格となり、再履修の必要があります。その場合は次年度に開講されるクラスにて同じ科目を受講しなくてはなりません。不合格の場合は、指定されたクラスを履修登録し、受講して下さい。

2) 先修制について

必修外国語の科目には「I・II」といった数字がついています。先修制とは、IIを受講するにはIの合格が前提条件となる事ですが、グローバルスタディーズ学科の英語外国語科目は先修制ではありません。前期にIが不合格でも後期にIIを受講可能です。

3) 再履修受講のパターンについて

① 1年次前期でIが不合格になった場合

1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期
Iクラス受講	IIクラス受講	Iクラス受講
不合格	合格	合格・修了

② 1年次後期でIIが不合格になった場合

1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期
Iクラス受講	IIクラス受講	受講しない	IIクラス受講
合格	不合格		合格・修了

③ 1年次後期でIIが不合格になり、2年次前期に留学する場合

1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期
Iクラス受講	IIクラス受講	留学中	IIクラス受講
合格	不合格		合格・修了

④ 1年次前期でIが不合格になり、2年次前期に留学する場合

1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期
Iクラス受講	IIクラス受講	留学中	受講しない	Iクラス受講
不合格	合格			合格・修了

⑤ 1年次前期でI後期でIIが不合格になり、2年次後期に留学する場合

1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期
Iクラス受講	IIクラス受講	Iクラス受講	留学中	受講しない	IIクラス受講
不合格	不合格	合格			合格・修了

2. 英語運用能力測定テストの基準スコア提出

グローバルスタディーズ学科では、グローバル言語としての英語能力の習得を目指します。卒業後すぐに国際舞台上で活躍できるレベルとしてその目標スコアは以下のとおりです。

■目標値

	TOEIC® (IP含む)	TOEFL®PBT TOEFL ITP®	TOEFL iBT®	IELTS™
スコア	830以上	580以上	93以上	6.5以上 (Overall)

これらスコアを目指すためには、英語関連クラスを受講するだけでなく自主的な学習が必須です。和顔館グローバルcommons内にある自律型言語学習支援施設などをしっかり活用しましょう。

(1) 卒業要件としての基準スコア

卒業するためには4年次後期に以下の各種英語運用能力テストの基準スコアのいずれかを取得しておく必要があります。

	TOEIC® (IP含む)	TOEFL®PBT TOEFL ITP®	TOEFL iBT®	IELTS™
スコア	730以上	550以上	80以上	6.0以上 (Overall)

* 提出するスコアは受験日が入学後のものであれば全て有効とします。

①スコア提出

3ヶ月に一度、manaba courseを使ってスコアを提出します。1年次には、1年次の8月、1年次（留学前年）の11月にも提出します。

卒業年次は、卒業判定のために紙媒体での提出が必要です。

提出スコアはTOEIC® (IP含む)、TOEFL® PBT、TOEFL ITP®、TOEFL iBT®、IELTS™のいずれかです。

時期	目的	提出締切	1年次	2年次	3年次	4年次
A	1月～3月の成果報告	4月末		○	○	○
B	4月～6月の成果報告	7月末	○	○	○	○
C	7月～9月の成果報告	10月末	○	○	○	○
D	10月～12月の成果報告	1月末	○	○	○	
S1	後期英語クラス分けのため	8月末	○			
S2	提携留学先選考のため	11月末	○	○ (注1)	○ (注1)	
Z	卒業判定のため	1月末				○ (注2)

(注1) 原則として提携留学は2年次ですが、3年次以降に留学する場合は提出が必要です。

(注2) 紙媒体（スコア票の写し）の提出が必要です。

(2) 入学から卒業までの各種英語運用能力テストの受験について

グローバルスタディーズ学科では、卒業前だけでなく入学後すぐ計画的に各種テストを受験していく必要があります。入学後、まずは2年次の留学希望先がどのスコアを求めているのかを確認して、そのスコアアップを目指して行く必要があります。

例：留学希望先がUniversity of California, Berkeley

→TOEIC® 685以上が参加条件

→1年次からTOEIC®に照準を合わせて受験対策

①受験料大学負担による英語運用能力テスト

英語運用能力は定期的に各自による確認が必要ですが、以下の時期に受験料大学負担による受験機会を用意しています。

時期	試験種類	対象	目的
4月上旬	TOEIC® (IP)	1年次 3年次	英語クラス分け 留学成果の確認
9月中旬	TOEIC® (IP) TOEFL ITP® IELTS™	1年次	学習成果の確認
12月下旬	TOEIC® (IP) TOEFL ITP® IELTS™	4年次	卒業要件確認のため

その他、受験料は自己負担ですが、龍谷大学生生活協同組合（龍大生協）によるTOEIC® (IP) や一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会によるTOEIC® L&R Test（公開テスト）などを積極的に受験しましょう。

3. 必修科目の再履修

(1) 再履修について

履修した科目が不合格になった場合は卒業に必要な単位は修得できません。ただし、その科目が「必修科目」の場合は再履修し、合格するまで履修しなくてはなりません。

必修科目の再履修方法

科目分野	科目名	再履修方法
教養教育科目	仏教の思想A・B	次年度に開講するクラスから各自選択して登録のうえ受講
学科外国語科目	英語 (Reading) I・II	次年度に開講するクラスのうち、指定されたクラスで受講 (p.41参照)
	英語 (Writing) I・II	
	英語 (Oral Communication) I・II	
	Study Abroad Preparation I・II	
学科基礎科目	リサーチ方法論A・B	次年度に開講するクラスのうち、指定されたクラスで受講
	ITリテラシー A・B	次年度に開講する3クラスのうち、指定されたクラスで受講
	グローバルスタディーズA・B・C	次年度に開講するクラスを履修登録
演習科目	プロジェクト演習	次年度に開講するクラスを履修登録
	演習 I～IV	次年度に開講する演習を受講 (p.57参照)
留学科目	SNSを活用した異文化交流実践	次セメスターに開講するクラスのうち、指定されたクラスで受講。帰国している場合は国内で課題に取り組みます。

4. 開設科目一覧

○は開講時期を示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です(一部例外あり)。
(例：1年次配当科目であれば、2年次生～4年次生も受講可能)

■「仏教の思想」科目

◎は必修科目 ○は選択科目

授業科目名	単 位	1年次		2年次		3年次		備 考
		1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	
仏教の思想A	2	◎						2科目(4単位) 必修
仏教の思想B	2		◎					
歎異抄の思想Ⅰ	2			○				
歎異抄の思想Ⅱ	2				○			

■教養科目

○は選択科目

科目 区分	授業科目名	単 位	1年次		2年次		3年次		備 考
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	
人文科学系科目	哲学入門	2	○						
	哲学A	2	○						
	倫理学入門	2	○						
	倫理学A	2	○						
	クリティカル・シンキング	2	○						
	宗教学入門	4	○						
	宗教の世界A	2	○						
	宗教の世界B	2		○					
	中国の思想A	2	○						
	中国の思想B	2		○					
	日本の文学A	4	○						
	日本の文学B	4		○					
	中国の文学A	2	○						
	中国の文学B	2	○						
	西洋の文学A	2	○						
	西洋の文学B	2		○					
	文章表現法A	2	○						
	文章表現法B	2		○					
	言語と文化	2	○						
	日本の歴史A	4	○						
	日本の歴史B	4		○					
	アジアの歴史A	4	○						
	アジアの歴史B	4		○					
	西洋の歴史A	4	○						
	現代世界の歴史A	2	○						
	現代世界の歴史B	2		○					
	心理学	4	○						
	心の科学A	2	○						
	心の科学B	2		○					
	教育学のすすめA	2	○						
	教育学のすすめB	2		○					
	哲学B	2			○				
	倫理学B	2			○				
	論理学	2			○				
	芸術の世界A	2			○				
	芸術の世界B	2				○			
	日本の文学C	2			○				
	歴史学入門	2			○				
	日本の歴史C	4			○				
	日本の文化	4				○			
	アジアの文化	2			○				
	西洋の歴史B	2			○				
	西洋の歴史C	2				○			
	応用心理学A	2			○				
	応用心理学B	2				○			
現代社会と教育A	2			○					
現代社会と教育B	2				○				
教育原論A	2			○					
教育原論B	2				○				
学習・発達論A	2			○					
学習・発達論B	2				○				
人文科学セミナー	4			○					
大学論	2			○					

履修の心得
教育課程
諸課程
学修生活の
Q & A
教員付
録

科目区分	授業科目名	単位	1年次		2年次		3年次		備考
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
社会科学系科目	日本国憲法	2	○						
	法学のすすめ	2	○						
	政治学のすすめ	2	○						
	社会学のすすめ	2	○						
	地理学のすすめ	2	○						
	経済学のすすめ	2	○						
	経営学のすすめ	2	○						
	文化人類学のすすめ	2	○						
	社会調査のすすめ	2	○						
	社会統計学のすすめ	2	○						
	人権論A	2	○						
	人権論B	2		○					
	現代社会とメディア	2				○			
	現代社会と福祉	2				○	○		
	現代社会と法	2				○	○		
	環境と社会	2				○	○		
	平和学A	2				○	○		
	ジェンダー論	2				○	○		
	国際社会論	2				○	○		
	現代社会の諸問題	2				○	○		
	地域論	2				○	○		
	企業と会計	2				○	○		
	現代社会と労働	2				○	○		
社会思想史	2				○	○			
英語で学ぶ日本の社会A	2		○						
英語で学ぶ日本の社会B	2		○						
自然科学系科目	数学入門	2	○						
	数学への旅	2	○						
	確率・統計入門	2	○						
	宇宙の科学I	4	○						
	地球科学のすすめ	2	○						
	物理学の世界	4	○						
	時間と空間の科学	2	○						
	自然科学史I	2	○						
	生物科学のすすめ	4	○						
	生命科学のすすめ	2	○						
	生態学のすすめ	4	○						
	人類学のすすめ	4	○						
	環境学	4	○						
	情報科学入門	2				○			
	微分と積分	4	○						
	行列と行列式	4	○						
	数理統計学	4				○			
	数理と計算	2				○	○		
	数学の世界	4				○	○		
	数理と論証	2				○	○		
	宇宙の科学II	2				○	○		
	地球科学	2		○					
	エネルギー入門	2				○			
	自然科学史II	2				○			
	科学論	2				○			
	技術論	2					○		
	平和学B	2				○			
	里山学	2	○						
	生命科学	2		○					
	日本の自然	4	○						
	生命誌	2				○			
	植物の自然誌	2				○			
	動物の自然誌	2				○			
	民族の自然誌	2				○			
	人類進化学	2				○			
	人間の生物学I	2				○			
	人間の生物学II	2					○		
	自然誌実習	4				○			
	野外観察法	2				○			
	情報科学I	2					○		
情報科学II	2						○		
情報科学実習	4		○						

科目区分	授業科目名	単位	1年次		2年次		3年次		備考
			1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	
系科目 スポーツ科学	健康とスポーツ	2			○				
	現代社会とスポーツ	2		○					
	スポーツ技術学演習	2	○						
	人間とスポーツ	2	○						
	スポーツと人権・平和	2			○				
	スポーツ文化史	2			○				
	スポーツ科学最前線	2	○						
教養教育科目特別講義	2	○						4単位科目と2単位科目を複数開講するが、1科目(2単位/4単位)のみ卒業要件単位となる。 1年次生と2年次生のみ履修可	
教養教育科目特別講義	4	○							
海外英語研修	2		○						

(注1) 各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です。(一部例外あり)

(例：1年次配当科目であれば、2年次以降も受講可能)

(注2) 上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。

詳細は時間割冊子およびWeb履修登録画面で確認してください。

■学科外国語科目

分野等	授業科目名 (下段は英文授業科目名)	ナグ ンレ バイ ド	単 位	講 義 言 語	領 域	指 定 分 野	1年		2年		3年		4年		専 攻 科 目 種 類	備 考	
							1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
学 科 外 国 語 科 目	英語(Reading) I	G1101B	2	日+英	—		○										
	英語(Writing) I	G1102B	2	日+英	—		○										
	英語(Oral Communication) I	G1103E	2	英語	—		○										
	英語(Reading) II	G1104B	2	日+英	—			○									
	英語(Writing) II	G1105B	2	日+英	—			○									
	英語(Oral Communication) II	G1106E	2	英語	—			○									
	Study Abroad Preparation I	G1107B	2	英+日	—		○										
	Study Abroad Preparation II	G1108B	2	英+日	—			○									
	Business English through TOEIC(Basic A)	G1181B	2	日+英	—			○	○								
	Business English through TOEIC(Basic B)	G1182B	2	日+英	—			○	○								
	Academic English through IELTS(Basic A)	G1183B	2	日+英	—			○	○								
	Academic English through IELTS(Basic B)	G1184B	2	日+英	—			○	○								
	Business English through TOEIC(Advanced A)	G2181B	2	日+英	—					○	○						
	Business English through TOEIC(Advanced B)	G2182B	2	日+英	—					○	○						
Academic English through IELTS(Advanced A)	G2183B	2	日+英	—					○	○							
Academic English through IELTS(Advanced B)	G2184B	2	日+英	—					○	○							
Career English	G3101E	2	英語	—							○	○					

■学科基礎科目

分野等	授業科目名 (下段は英文授業科目名)	ナグ ンレ バ イ ド	単 位	講 義 言 語	領 域	指 定 留 学 実 践 分 野	専攻科目種類								備 考		
							1 年 1 セ メ	1 年 2 セ メ	2 年 3 セ メ	2 年 4 セ メ	3 年 5 セ メ	3 年 6 セ メ	4 年 7 セ メ	4 年 8 セ メ			
学 科 基 礎 科 目	リサーチ方法論 A	G1201J	2	日本語	—		○										
	リサーチ方法論 B	G1202J	2	日本語	—			○									
	ITリテラシー A	G1203J	2	日本語	—		○										
	ITリテラシー B	G1204J	2	日本語	—			○									
	グローバルスタディーズ A	G1211E	2	英語	C		○										
	グローバルスタディーズ B	G1221J	2	日本語	G		○										
	グローバルスタディーズ C	G1231B	2	日+英	E			○									

■学科専攻科目

分野等	授業科目名 (下段は英文授業科目名)	ナグ ンレ バ イ ド	単 位	講 義 言 語	領 域	指 定 留 学 実 践 分 野	専攻科目種類								備 考		
							1 年 1 セ メ	1 年 2 セ メ	2 年 3 セ メ	2 年 4 セ メ	3 年 5 セ メ	3 年 6 セ メ	4 年 7 セ メ	4 年 8 セ メ			
学 科 専 攻 科 目	会話分析入門 A	G2311B	2	日+英	C				○								専攻基礎
	会話分析入門 B	G2312B	2	日+英	C				○								専攻基礎
	言語習得論	G2313B	2	日+英	C					○							専攻基礎
	異文化間コミュニケーション論	G2371J	2	日+英	G+C+E	●			○								専攻基礎
	Contemporary Literature	G2314E	2	英語	C				○								専攻基礎
	Discussion & Debate	G2315E	2	英語	C				○	○							専攻基礎
	Advanced Writing Strategies	G2316E	2	英+日	C	●			○	○							専攻基礎
	Critical Reading	G2317E	2	英語	C				○	○							専攻基礎
	Introduction to Sociolinguistics	G2351B	2	英+日	C+E				○								専攻基礎
	心理言語学	G3354B	2	日+英	C+E						○						専攻応用
	応用言語学	G3355B	2	日+英	C+E							○					専攻応用
	言語教育政策論	G3372B	2	日+英	G+C+E							○					専攻応用
	通訳・翻訳研究 A	G3341B	2	日+英	G+C	●						○					専攻応用
	通訳・翻訳研究 B	G3342B	2	日+英	G+C	●							○				専攻応用
	English for Global Studies	G3319E	2	英語	C	●						○	○				専攻応用
	Global Englishes and Communication	G3373B	2	英+日	G+C+E	●							○				専攻応用
	英語教育特殊研究	G4371B	2	日+英	G+C+E									○			専攻応用
	国際関係入門	G2321E	2	英語	G					○							専攻基礎
	国際法入門	G2322J	2	日本語	G						○						専攻基礎
	政治思想概論	G2331B	2	日+英	E						○						専攻基礎
国際開発協力論	G2361J	2	日本語	G+E						○						専攻基礎	
グローバル・ヒストリー入門	G2323B	2	日+英	G							○					専攻基礎	

※「グロスタ」…「グローバルスタディーズ」の略

分野等	授業科目名 (下段は英文授業科目名)	ナグ レ バ イ ド	単 位	講 義 言 語	領 域	留 学 実 践 指 定 分 野	1年	2年	3年	4年	専 攻 科 目 種 類	備 考			
							1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ			5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ
学 選 科 扱 専 攻 科 目	Introduction to Cultural Anthropology	G2352E	2	英語	C+E					○		専攻基礎			
	Globalization of Education	G3341E	2	英語	G+C						○	専攻応用	「グロスタB」先修		
	Postcolonialism	G3331E	2	英語	E						○	専攻応用	「グロスタC」先修 選択必修		
	Sustainability Studies	G3371E	2	英語	G+C+E						○	専攻応用	「グロスタC」先修 選択必修		
	ナショナリズム研究	G3361B	2	日+英	G+E						○	専攻応用	「グロスタB」先修 選択必修		
	国際政治経済学	G3372B	2	英+日	G+C+E						○	専攻応用	「グロスタB」先修		
	多国籍企業論	G3362B	2	英+日	G+E						○	専攻応用	「グロスタB」先修		
	安全保障論	G3363B	2	日+英	G+E						○	専攻応用	「グロスタB」先修 選択必修		
	Applied Global Studies	G4395B	2	日+英	G+E+C						○	専攻応用	履修辞退不可 登録必修		
	文化遺産学	G2353B	2	日+英	C+E						○	専攻基礎			
	国際人権論	G3332J	2	日本語	E						○	専攻応用	「グロスタC」先修		
	グローバリゼーションとエシックス	G3364B	2	日+英	G+E						○	専攻応用	「グロスタC」先修		
	グローバル市民社会論	G3365B	2	日+英	G+E						○	専攻応用	「グロスタC」先修		
	南アジアの言語	G2318B	2	日+英	C						○	専攻基礎			
	グローバリゼーションとアフリカ	G2366B	2	日+英	G+E						○	専攻基礎			
	グローバリゼーションと東アジア	G2362E	2	英語	G+E						○	専攻基礎			
	グローバリゼーションと南アジア	G2363B	2	日+英	G+E						○	専攻基礎			
	グローバリゼーションとヨーロッパ	G2364B	2	日+英	G+E						○	専攻基礎			
	グローバリゼーションとラテンアメリカ	G2365B	2	日+英	G+E						○	専攻基礎			
	宗教文化学入門	G2332J	2	日本語	E						○	専攻基礎			
	グローバル化とキャリア形成	G2381B	2	日+英	キャリア						○	専攻基礎			
	インターンシップ・アブロード I	G3381B	2	日+英	キャリア	●					○	○	専攻応用	事前登録必要	
	インターンシップ・アブロード II	G3382B	4	英語	キャリア	●						○	○	専攻応用	事前登録必要 「インターンシップ・アブロードI」先修
	留学必修	SNSを活用した異文化交流実践	G2801E	2	英語	留学	●				○	○	留学	合格時「留学科目」優先認定	
	留学/選択	Study Abroad Project A	G3801B	6	英+日	留学	●				○		留学	合格時「留学科目」優先認定 事前登録必要	
		Study Abroad Project B	G3802B	6	英+日	留学	●				○		留学	合格時「留学科目」優先認定 事前登録必要	
海外研修		G1191E	4	英語	留学	●	○					留学			
必修	プロジェクト演習	G2490X	2	英+日	-					○	○	演習			
	演習 I	G3491X	2	別指定	-					○		演習	「リサーチ方法論 AまたはB」先修		
	演習 II	G3492X	2	別指定	-						○	演習	「リサーチ方法論 AまたはB」先修		
	演習 III	G4493X	2	別指定	-						○	演習	「リサーチ方法論 AまたはB」先修		
	演習 IV	G4494X	2	別指定	-						○	演習	「リサーチ方法論 AまたはB」先修		
選択	卒業論文	G4499B	4	別指定	-						○	専攻応用			

※「グロスタ」…「グローバルスタディーズ」の略

履修の心得
教育課程
諸課程
手学修引生活きの
Q & A
教員付録

履修の心得
 教育課程
 諸課程
 学修生活の
 Q & A
 教員
 付録

分野等	授業科目名 (下段は英文授業科目名)	ナグ レ バ イ ド	単 位	講 義 言 語	領 域	留 学 実 践 指 定 分 野	年								専 攻 科 目 種 類	備 考	
							1 年 1 セ メ	1 年 2 セ メ	2 年 3 セ メ	2 年 4 セ メ	3 年 5 セ メ	3 年 6 セ メ	4 年 7 セ メ	4 年 8 セ メ			
国 際	宗教学概論	C1208X	2	-	-	●	○										
	中東政治論	C2411X	2	-	-	●				○							
	比較宗教思想	C3422X	2	-	-	●				○							
	日本の経済と社会	C2508X	2	-	-	●			○								
	国際人口移動	C2509X	2	-	-	●			○								
	国際経済と日本	C3510X	2	-	-	●				○							
	海外における日本観	C2511X	2	-	-	●				○							
	オセアニアと日本	C2512X	2	-	-	●			○								
	パンパシフィックの移民	C3513X	2	-	-	●						○					
文 化 留 学 単 位 科 目	社会心理学	C1212X	2	-	-			○									
	English Workshop A	C2301X	2	-	-				○								
	English Workshop B	C2302X	2	-	-				○								
	English Workshop C	C2303X	2	-	-					○							
	English Workshop D	C2304X	2	-	-					○							
	Advanced English A	C3307X	2	-	-						○						
	Advanced English B	C3308X	2	-	-							○					
	Advanced English C	C3309X	2	-	-								○				
	Advanced English D	C3310X	2	-	-									○			
	多文化交流論A	C2403X	2	-	-					○							
	多文化交流論B	C2404X	2	-	-						○						
	環境保全論	C2409X	2	-	-						○						
	NGO/NPO論	C2419X	2	-	-							○					
	都市計画論	C3421X	2	-	-								○				
	英語外書講読A	C3425X	2	-	-									○			
	英語外書講読B	C3426X	2	-	-										○		
	比較言語学	C3427X	2	-	-											○	
	日本の社会	C3514X	2	-	-								○				
	日本の思想	C2519X	2	-	-									○			
	日本の近現代と国際関係	C2520X	2	-	-										○		
世界と日本の民俗	C3522X	2	-	-											○		
世界と日本の文学	C2526X	2	-	-												○	
自然人類学概論	C1209X	2	-	-				○									
環境人類学	C2408X	2	-	-							○						
フィールド実習	C2410X	2	-	-												○	
言語とところA	C2416X	2	-	-													○
言語とところB	C2417X	2	-	-													○

■注釈

- ①「演習Ⅰ～Ⅳ」および「卒業論文」は所属する担当教員により使用言語が決定します。詳細は演習募集時の要項で確認して下さい。
- ②講義言語について
「日+英」・・・講義では主に日本語を使用しながら、英語も使用して行う講義
「英+日」・・・講義では主に英語を使用しながら、日本語も使用して行う講義
- ③留学単位読替認定可能科目について
2年次以降の留学において留学先取得単位科目を龍谷大学の科目に読み替えて認定するための科目です。履修を実際に行う科目ではないので注意して下さい。
- ④領域について
G・・・Globalization領域 C・・・Communication領域 E・・・Ethics領域
G+C・・・GlobalizationとCommunicationの複合領域（C+E、E+G、G+C+Eも同様）
- ⑤留学実践指定分野について
留学先科目で不合格などがあり、「留学科目」（卒業要件22単位）が未修得となる場合、修得することで「留学科目」単位となる科目です。
- ⑥各印は配当セメスターを示しています。ただし、それ以上の学年・セメスターであれば受講可能です。（一部例外あり）
（例：1年次配当科目であれば、2年次以降も受講可能）
- ⑦上記配当セメスターにかかわらず、開講セメスターは年度により変更することがあります。また、年度により不開講となることがあります。
詳細は時間割冊子およびWeb履修登録画面で確認してください。

<参考> グローバルスタディーズ学科 英文科目名一覧

分野等	授業科目名（英文）	授業科目名（和文）	グレード ナンバー
外国語	English (Reading) I	English (Reading) I	G1101B
	English (Writing) I	English (Writing) I	G1102B
	English (Oral Communication) I	English (Oral Communication) I	G1103E
	English (Reading) II	English (Reading) II	G1104B
	English (Writing) II	English (Writing) II	G1105B
	English (Oral Communication) II	English (Oral Communication) II	G1106E
	Study Abroad Preparation I	Study Abroad Preparation I	G1107B
	Study Abroad Preparation II	Study Abroad Preparation II	G1108B
	Business English through TOEIC (Basic A)	Business English through TOEIC (Basic A)	G1181B
	Business English through TOEIC (Basic B)	Business English through TOEIC (Basic B)	G1182B
	Academic English through IELTS (Basic A)	Academic English through IELTS (Basic A)	G1183B
	Academic English through IELTS (Basic B)	Academic English through IELTS (Basic B)	G1184B
	Business English through TOEIC (Advanced A)	Business English through TOEIC (Advanced A)	G2181B
	Business English through TOEIC (Advanced B)	Business English through TOEIC (Advanced B)	G2182B
	Academic English through IELTS (Advanced A)	Academic English through IELTS (Advanced A)	G2183B
	Academic English through IELTS (Advanced B)	Academic English through IELTS (Advanced B)	G2184B
	Career English	Career English	G3101E
学科基礎	Research Methods A	リサーチ方法論 A	G1201J
	Research Methods B	リサーチ方法論 B	G1202J
	IT Literacy A	ITリテラシー A	G1203J
	IT Literacy B	ITリテラシー B	G1204J
	Global Studies A	グローバルスタディーズ A	G1211E
	Global Studies B	グローバルスタディーズ B	G1221J
	Global Studies C	グローバルスタディーズ C	G1231B
学科専攻	Introduction to Conversation Analysis A	会話分析入門 A	G2311B
	Introduction to Conversation Analysis B	会話分析入門 B	G2312B
	Language Acquisition	言語習得論	G2313B
	Intercultural Communication	異文化間コミュニケーション論	G2371J
	Contemporary Literature	Contemporary Literature	G2314E
	Discussion & Debate	Discussion & Debate	G2315E
	Advanced Writing Strategies	Advanced Writing Strategies	G2316E
Critical Reading	Critical Reading	G2317E	

履修の心得
教育課程
諸課程
手学
引生活
きの
Q
&
A
教
員
付
録

分野等	授業科目名 (英文)	授業科目名 (和文)	グレード ナンバー
学科専攻	Introduction to Sociolinguistics	Introduction to Sociolinguistics	G2351B
	Psycholinguistics	心理言語学	G3354B
	Applied Linguistics	応用言語学	G3355B
	Language Education Policy Studies	言語教育政策論	G3372B
	Interpreting and Translation Studies A	通訳・翻訳研究 A	G3341B
	Interpreting and Translation Studies B	通訳・翻訳研究 B	G3342B
	English for Global Studies	English for Global Studies	G3319E
	Global Englishes and Communication	Global Englishes and Communication	G3373B
	Teaching English as a Foreign Language	英語教育特殊研究	G4371B
	Introduction to International Relations	国際関係入門	G2321E
	Introduction to International Law	国際法入門	G2322J
	Political Thought	政治思想概論	G2331B
	International Development and Cooperation	国際開発協力論	G2361J
	Introduction to Global History	グローバル・ヒストリー入門	G2323B
	Introduction to Cultural Anthropology	Introduction to Cultural Anthropology	G2352E
	Globalization of Education	Globalization of Education	G3341E
	Postcolonialism	Postcolonialism	G3331E
	Sustainability Studies	Sustainability Studies	G3371E
	Nationalism Studies	ナショナリズム研究	G3361B
	International Political Economy	国際政治経済学	G3372B
	Multinational Corporations	多国籍企業論	G3362B
	Security Studies	安全保障論	G3363B
	Applied Global Studies	Applied Global Studies	G4395B
	Cultural Heritage Studies	文化遺産学	G2353B
	International Human Rights	国際人権論	G3332J
	Globalization and Ethics	グローバリゼーションとエシックス	G3364B
	Global Civil Society	グローバル市民社会論	G3365B
	South Asian Languages	南アジアの言語	G2318B
	Globalization and Africa	グローバリゼーションとアフリカ	G2366B
	Globalization and East Asia	グローバリゼーションと東アジア	G2362E
	Globalization and South Asia	グローバリゼーションと南アジア	G2363B
	Globalization and Europe	グローバリゼーションとヨーロッパ	G2364B
	Globalization and Latin America	グローバリゼーションとラテンアメリカ	G2365B
	Introduction to Religious Cultural Studies	宗教文化学入門	G2332J
	Globalization and Career Development	グローバル化とキャリア形成	G2381B
	Internship Abroad I	インターンシップ・アブロード I	G3381B
	Internship Abroad II	インターンシップ・アブロード II	G3382B
	Overseas Cross-Cultural Practice through SNS	SNSを活用した異文化交流実践	G2801E
	Study Abroad Project A	Study Abroad Project A	G3801B
	Study Abroad Project B	Study Abroad Project B	G3802B
	Overseas Study Trip	海外研修	G1191E
	Project-based Seminar	プロジェクト演習	G2490X
Thesis Seminar I	演習 I	G3491X	
Thesis Seminar II	演習 II	G3492X	
Thesis Seminar III	演習 III	G4493X	
Thesis Seminar IV	演習 IV	G4494X	
Graduation Thesis	卒業論文	G4499B	

分野等	授業科目名 (英文)	授業科目名 (和文)	グレード ナンバー
国際文化 化学科提供科目	Introduction to Religious Studies	宗教学概論	C1208X
	Middle Eastern Politics	中東政治論	C2411X
	Comparative Religion	比較宗教思想	C3422X
	Japanese Economy and Society	日本の経済と社会	C2508X
	International Migration	国際人口移動	C2509X
	International Economy and Japan	国際経済と日本	C3510X
	Overseas Views of Japan	海外における日本観	C2511X
	Oceania and Japan	オセアニアと日本	C2512X
	Pan-Pacific Migration	パンパシフィックの移民	C3513X
	Social Psychology	社会心理学	C1212X
	English Workshop A	English Workshop A	C2301X
	English Workshop B	English Workshop B	C2302X
	English Workshop C	English Workshop C	C2303X
	English Workshop D	English Workshop D	C2304X
	Advanced English A	Advanced English A	C3307X
	Advanced English B	Advanced English B	C3308X
	Advanced English C	Advanced English C	C3309X
	Advanced English D	Advanced English D	C3310X
	Multicultural Exchange A	多文化交流論A	C2403X
	Multicultural Exchange B	多文化交流論B	C2404X
	Environmental Conservation	環境保全論	C2409X
	Third Sector Studies	NGO/NPO論	C2419X
	Introduction to City Planning	都市計画論	C3421X
	Intensive English Reading A	英語外書講読A	C3425X
	Intensive English Reading B	英語外書講読B	C3426X
	Comparative Linguistics	比較言語学	C3427X
	Societies in Japan	日本の社会	C3514X
	Japanese Thought	日本の思想	C2519X
	Japanese Modern Era and International Relations	日本の近現代と国際関係	C2520X
	Folklore of the World and Japan	世界と日本の民俗	C3522X
	World and Japanese Literature	世界と日本の文学	C2526X
	Introduction to Natural Anthropology	自然人類学概論	C1209X
	Environmental Anthropology	環境人類学	C2408X
	Fieldwork	フィールド実習	C2410X
	Language and Mind A	言語とこころA	C2416X
	Language and Mind B	言語とこころB	C2417X

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きのQ
&
A

教員

付録

VII 卒業の要件

卒業は大学が定める教育課程の修了であり、国際学部グローバルスタディーズ学科では、「学士（グローバルスタディーズ）」の学位が授与されます。この認定証が卒業証書（学位記）です。

卒業するためには、以下の要件を満たさなければなりません。

1. 所定在学年数

本学の教育課程を修了するには、4年以上在学しなければなりません。これは、単なる在籍期間ではなく、学籍期間が4年以上必要ということです。したがって、休学等による学籍中断の期間はこの在学期間に加えません。

2. 所定単位の修得

本学の教育課程（カリキュラム）は、授業科目の区分ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目、随意科目の別を指定していることは前述のとおりです。この指定と異なる履修をした場合には、いかに多くの単位を修得したとしても卒業の認定を受けることはできません（詳細はP.7「5. 卒業要件単位および学士号」にある表を参照）。

〈参考〉卒業要件とフリーゾーンの流れ

科目区分	仏教思想	必修外国語	選択外国語	学科基礎	専攻基礎	専攻応用	演習	留学	フリーゾーン	合計
単位数	4	16	4	14	20	14	10	22	20	124
余剰単位はフリーゾーンで認定										

3. 1 セメスター以上の英語圏への留学

グローバルスタディーズ学科では、1セメスター以上の英語圏への留学を必修としています。留学する時期は原則として2年次ですが、交換留学制度を利用する場合は、3年次になる場合もあります。

4. 英語運用能力測定テストの基準スコア提出

4年次後期に以下の各種英語運用能力テストの内、基準スコアのいずれかの取得が必要です。

種別	TOEIC L&R® (IP含む)	TOEFL® PBT TOEFL ITP®	TOEFL iBT®	IELTS™
スコア	730以上	550以上	80以上	6.0以上 (Overall)

提出方法や時期については、「英語運用能力測定テストの基準スコア提出 (p.44)」を確認して下さい。

Ⅷ 演習および卒業論文の履修

1. プロジェクト演習

(必修科目)

2年次に配当されているプロジェクト演習は必修科目です。卒業するためには必ず履修し、単位を取得しなくてはなりません。前期・後期共に開講されていますので、留学していない時期に履修して下さい。

(1) 授業の形態

「プロジェクト演習（2単位）」は通常の授業と異なり、1クラスに3名の教員が担当者としています。3名はそれぞれ、「グローバルゼーション領域」「コミュニケーション領域」「エシックス領域」から選出されています。皆さんは授業の中で興味のある領域を中心に少人数グループに分かれ、自分でたてた問いかけに対してフィールドワークや文献調査を通して自発的な議論を行います。講義では日本語と英語の両言語が使用されます。

このプロジェクト演習での学修を通して、皆さんは3年次から所属するゼミでの研究の素養を身につけます。

(2) 2年次に1年間留学する場合

留学先で修得した科目に応じて、「プロジェクト演習（2単位）」として単位認定が可能です。あらかじめスーパーバイザーに単位認定を希望する旨を相談しておきましょう。そして帰国後の単位認定の際に「プロジェクト演習（2単位）」での認定を希望して下さい。

但し、留学先での学修結果によっては認定を受けられない場合もあります。

留学先で科目の合格が無い場合など、「プロジェクト演習（2単位）」での認定を受けられなかった場合は3年次以降にプロジェクト演習を履修します。

2. 演習（ゼミ）

(必修科目)

3～4年次に配当されている「演習Ⅰ～Ⅳ（各2単位）」は学部での学びの拠点として調査・研究の核となり「卒業論文（4単位）」を作成するためのベースとなります。必修科目ですので、卒業までに必ず「演習Ⅰ」～「演習Ⅳ」までの計8単位を修得しなくてはなりません。また、演習Ⅰ～Ⅳを履修するためには、先修科目である「リサーチ方法論AまたはB」を修得する必要があります。

(1) 演習の募集について

①演習の募集時期

2年次後期（10月中旬頃）です。詳しい日程に関しては掲示板やWebポータルサイトでお知らせします。

②演習募集説明

演習の履修および応募・選考方法に関する説明は、プロジェクト演習のなかで実施します。

③演習の応募方法

Manabaを利用して、「希望する学問エリア」「希望の担当教員」「志望動機と研究計画」を提出します。

④選考方法

学科会議において、各学生の所属演習を決定します。

⑤演習クラスの変更

演習クラスの変更を希望する場合、その受付時期は3年次の前期終了時および後期終了時となります。演習クラス変更の申し出があった場合は、当該の学生および所属する演習担当教員、変更希望先の演習

担当教員の三者で面談の上、変更の可否を決定します。

(2) 演習が不合格になった場合

演習の成績は通常のクラスと異なり、「演習Ⅰ～Ⅱ」「演習Ⅲ～Ⅳ」でそれぞれまとめて成績がでます。つまり毎年度末に成績評価がなされます。残念ながら不合格になった場合は再履修することになります。

①「演習Ⅰ～Ⅱ」が不合格になった場合

4年次に「演習Ⅰ～Ⅱ」を再履修します。受講する演習（ゼミ）は原則同じ担当者とします（注1）。なお、4年次は「演習Ⅰ～Ⅱ（再履修）」と演習「Ⅲ～Ⅳ」を同時に受講する事になります。就職活動の予定にも影響がある事に留意しておいて下さい。

（注1）「演習Ⅰ～Ⅱ」が不合格になった際、別の演習への変更を希望する場合は、4年での卒業はできませんが、変更が可能です。希望する場合は国際学部教務課まで相談下さい。

②「演習Ⅲ～Ⅳ」が不合格になった場合

留年し5年生として「演習Ⅲ～Ⅳ」を履修します。なお、再履修の際に別の演習を選択することは出来ません。既に「演習Ⅰ～Ⅱ」を履修しており途中から演習を変更する事は学修効果が認められないためです。

3. 卒業論文

(選択科目)

グローバルスタディーズ学科では卒業論文は選択科目です。そのため、必ず履修する必要はなく、選択しない場合は「学科専攻科目（専攻応用）」から4単位を代わりに修得して卒業に必要な単位を満たす事となります。履修については、演習担当教員と事前に相談する必要があります。

①卒業論文の履修登録

4年次の初めに、当該年度の他の科目と一緒に履修登録します。

②卒業論文作成の基本ルール

卒業論文の指導教員は演習担当者を原則としますが、必要に応じて、学生、演習担当教員、卒業論文指導担当教員の合意のもとに、演習担当者以外を卒業論文指導担当とすることができます。

(1) 卒業論文執筆および提出要項

①原稿作成スタイル・提出方法等については履修者を対象としてmanabaやポータルを使って連絡を行います。

②卒業論文は、文書作成ソフト（Microsoft Word等）を用いて執筆するものとします。

③卒業論文は、日本語または英語を用いて書くものとします。

どの言語で作成するかについては指導教員にしっかり相談しましょう。

④卒業論文の長さは、日本語の場合、12,000字以上16,000字程度までとします。英文の場合、6,000words以上8,000words程度までとします。なお、字数にはレファレンスを含みます。

⑤卒業論文の提出スケジュールは、manabaもしくはWebポータルサイトで確認してください。

⑥卒業論文提出後に、口頭試問が実施されます。

⑦卒業論文のフォーマット等については、履修者に別途連絡を行います。

注意事項

卒業論文について、既存文書からの不正な転用等が認められたときは、「卒業論文」を無効扱いとし、その学期に履修登録をした全科目の単位認定を行いません。

Ⅷ その他の教育課程・教育プログラム

国際学部の教育課程の他にも、みなさんが受講できる多様な教育課程・教育プログラムがあります。詳細は、ホームページ、配布冊子などで確認するとともに、各担当窓口にお問い合わせください。

1. 留学／国際交流プログラム・単位互換制度・各種インターンシッププログラム

留学／国際交流プログラムについて	担当窓口・関係情報
<p>龍谷大学では、国際社会で活躍できるグローバル人材の育成及び「多文化共生キャンパスの実現」を目的として、学生の海外派遣及び外国人留学生の受入を積極的に推進するため、様々な留学制度や国際交流プログラムを整備しています。交換留学や私費留学に加えて、龍谷大学の海外拠点であるRUBeC (Ryukoku University Berkeley Center) で展開されるBIE (Berkeley Intercultural English) プログラムや短期海外派遣プログラム等の多様なプログラムが展開されています。また、グローバルコモンズにおいては、英会話レッスン、英語ディスカッション等さまざまな英語学習プログラムを提供しています。</p> <p>経済、社会、文化、政治などあらゆる局面でグローバル化が急速に進む現在、海外の大学での学修、国内外での異文化交流を通して広い視野と柔軟な発想を学ぶことは、みなさんにとって有意義な経験となることでしょう。</p>	<p>(担当窓口) グローバル教育推進センター 深草学舎 和顔館1階／瀬田学舎 智光館2階 ※単位認定に関する相談は国際学部教務課 深草学舎 和顔館1階 留学サポートデスク</p> <p>(関係情報) ・「留学ガイド」グローバル教育推進センターで配布 ・グローバル教育推進センター ホームページ (URL) https://intl.ryukoku.ac.jp (QRコード) </p> <p>・龍谷大学グローバル教育推進センター 交換留学マンスリーレポート (URL) http://www.mrepo.jp/ (QRコード) </p>
大学コンソーシアム京都「単位互換制度」	担当窓口・関係情報
<p>大学コンソーシアム京都では、京都地域の約50の大学・短期大学が協定を締結し、各大学の科目を履修できる「単位互換授業」の制度を設置しています。</p> <p>一部の科目は、京都駅前の「キャンパスプラザ京都」で開講されます。</p> <p>なお、出願については、ポータルサイトの「大学コンソーシアム京都 単位互換申請」より行ってください。大学コンソーシアム京都のHPより出願しても無効となりますのでご注意ください。</p>	<p>(担当窓口) 国際学部教務課 深草学舎 紫英館1階 ※単位認定できる科目、出願資格・手続きなど、まずは、国際学部教務課で確認してください。</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・大学コンソーシアム京都 単位互換制度特設サイト (URL) https://www.consortium.or.jp/special/tani_gokan/index.html</p>

協定型インターンシッププログラム	担当窓口・関係情報
<p>本学では、学生の自立とキャリア形成を支援する実践的な教育プログラムとして全学共通の協定型インターンシップを展開しています。このインターンシップは、建学の精神にもとづくきめ細かな事前・事後学修を展開する、本学独自の特色のあるインターンシッププログラムです。また、20講以上に及ぶ事前・事後学修では、グループワークを中心として進行し、課題発見力や主体性、発信力や傾聴力といった社会で求められる様々な能力を身につけることができます。</p>	<p>(担当窓口) インターンシップ支援オフィス 深草学舎 5号館1階／瀬田学舎 1号館1階</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・「インターンシッププログラム リーフレット」 (インターンシップ支援オフィスにて配布) ・インターンシップ支援オフィス (URL) https://career.ryukoku.ac.jp/internship/internship.html</p>
大学コンソーシアム京都 「インターンシップ・プログラム」	担当窓口・関係情報
<p>大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラムは、就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラム(コーオプ教育)として、1998年度より全国に先駆けて開始しています。単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、社会人基礎力を育成するカリキュラムを持ったキャリア教育として、受講生からも高い満足度を得ています。</p>	<p>(担当窓口) 【単位認定に関する問い合わせ】 国際学部教務課 深草学舎 紫英館1階 【プログラムに関する問い合わせ】 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業推進室 〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下ル キャンパスプラザ京都内 TEL：075-353-9106</p> <p>(履修に関する情報) 本学履修要項WEBサイトで確認してください。 (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p> <p>(関係情報) ・「インターンシップ・プログラム実習生募集ガイド」(インターンシップ支援オフィスにて配布 深草学舎5号館1階／瀬田学舎1号館1階) ・大学コンソーシアム京都 インターンシップサイト (URL) http://www.consortium.or.jp/project/intern</p>

第3部 諸課程

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録

I 諸課程

1. 諸課程

教職課程	担当窓口・関係情報
<p>教職課程は、教員免許状の取得を目指す学生を対象とした課程です。教科等に関する確かな専門的知識はもちろん、広く豊かな教養、人間の成長・発達への深い理解、生徒に対する教育的愛情、教育者としての使命感を基盤とした、実践的な指導力を養成することを目的に設置しています。</p>	<p>(担当窓口) 教職センター 深草学舎 紫英館1階 大宮学舎 西餐1階 瀬田学舎 3号館1階</p> <p>(関係情報) 『教職課程ガイドブック』 教職センター HP (URL) https://www.ryukoku.ac.jp/faculty/kyoshoku</p>
本願寺派教師資格課程	担当窓口・関係情報
<p>浄土真宗本願寺派教師（住職）となるための資格です。本願寺派教師資格として必要な科目を履修することで取得できます。</p>	<p>(担当窓口) 国際学部教務課 深草学舎 紫英館1階</p> <p>(関係情報) ・履修要項WEBサイト (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p>
博物館学芸員課程	担当窓口・関係情報
<p>資料の収集・保管・展示および調査研究等の業務に携わり、博物館の事業全般をサポートする博物館学芸員を養成します。</p>	<p>(担当窓口) 国際学部教務課 深草学舎 紫英館1階</p> <p>(関係情報) ・履修要項WEBサイト (URL) https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</p>

2. 特別研修講座・各種講座・試験

課程	目的・内容	担当部署
国際伝道者養成課程	広く国際的な素養として英語で仏教・浄土真宗を学修することや、海外の仏教事情に関心を持つ方を対象にした課程であり、また同時に、将来、浄土真宗本願寺派の海外開教区で伝道者として活躍できる人材養成を目的とした講座です。	(大宮) 文学部教務課
矯正・保護課程	刑務所、少年院、少年鑑別所などで働く矯正職員や、犯罪をおかしたり非行をおこなった人たちの社会復帰を手助けする保護観察官等の専門職やボランティアを養成するために、実務に即した教育プログラムを提供しています。	矯正・保護総合センター事務部 深草学舎至心館1階 〈各学舎申し込み窓口〉 (深草) 法学部教務課 深草学舎 紫英館1階 (大宮) 文学部教務課 大宮学舎 西翼1階 (瀬田) 社会学部教務課 瀬田学舎 6号館1階
法職課程	各種公務員試験(国家一般職、地方上級等)の合格や法科大学院進学を目指す学生に対し、法律科目を体系的かつ効率的に学習できる講座や最新の試験情報などを提供することで、志望先への合格・進学を目的としています。	法学部教務課 深草学舎 紫英館1階
教員採用試験対策講座	教員採用試験突破のための基礎力・実践力を養成する講座です。	教職センター 深草学舎 紫英館1階 大宮学舎 西翼1階 瀬田学舎 3号館1階
キャリア支援講座 ※受講希望者が少ない場合、開講できないことがあります。 ※開講する学舎が限定されている講座があります。	将来のキャリアアップのための資格試験対策や就職活動のサポート、公務員試験対策などを目的とした各種講座を開講。信頼と実績のある専門学校等と提携し、学生の一人ひとりの目標や夢の実現をバックアップしています。 〈資格系・就職対策〉 FP技能士講座(3級・2級AFP) / 宅地建物取引士講座 / 旅行業務取扱管理者講座 / エアライン就職対策講座 / 秘書検定講座(2級・準1級対策) / 色彩検定講座(3級・2級対策) / 介護職員初任者研修講座 / MOS講座(Excel2016、Word2016) / 社会福祉士国家試験講座 / ITパスポート試験対策講座 / 基本情報技術者試験対策講座 / CAD利用技術者講座(2級) 〈語学系〉 TOEIC®講座 〈公務員試験対策〉 公務員講座	キャリアセンター 深草学舎 5号館1階 大宮学舎 東翼2階 瀬田学舎 1号館1階

<p>生涯学習講座</p>	<p>〈RECコミュニティカレッジ〉 「RECコミュニティカレッジ」は、一般向けの公開講座で、「仏教・こころ」「文化・歴史」「文学」「自然・環境」「くらしと健康」「現代社会」「外国語」の計7コースで様々な講座を開講しており、年間延べ1万人余りの方々が学ばれています。 本学学生は、REC会員価格で受講できます。教養を深め、また、年配の方々と交流する機会として是非ともご利用ください。 詳しくはREC（京都・滋賀）の窓口で配布している『RECコミュニティカレッジパンフレット』をご覧ください。 〈龍谷講座〉 「龍谷講座」は、市民を対象にした公開講座で、現代社会の要請に応え、本学における研究の成果を地域社会に還元し、大学の社会的使命の一端を果たすことを目的としています。1977（昭和52）年から開講しており、時代のニーズに応じたテーマを取り上げ、現在、半期3～4講座を開講しています。受講料は無料ですので、気軽に受講してください。</p>	<p>REC事務部 深草学舎 紫光館5階 瀬田学舎 RECホール</p>
---------------	--	--

第4部 学修生活の手引き

I 窓口事務・保健管理センター・障がい学生支援室

1. 窓口事務

各学部教務課の窓口事務については、履修要項WEBサイトに掲載していますので、確認してください。
(<https://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/>)

主に次の情報を掲載しています。

- (1) 窓口取扱時間
- (2) 届出書・願書および各種証明書
- (3) 各種証明書の交付について
- (4) 裁判員制度に伴い裁判員（候補者）に選任された場合の手続きについて

2. 保健管理センター

保健管理センターの利用については、本学HP『保健管理センター』に掲載しています。(<https://www.ryukoku.ac.jp/hoken/index.php>)

毎年、4月には学生の定期健康診断が実施されますので、日程をHPで確認するようにしてください。

その他、主に次の情報を掲載しています。

- (1) 緊急時には
- (2) 学校感染症に罹患した場合には
- (3) カウンセラーに相談したい
- (4) 保健師・看護師に相談したい
- (5) 医師の診療を受けたい
- (6) 急な怪我をした
- (7) タバコをやめたい
- (8) 健康チェックをしたい
- (9) 健康診断
- (10) 健康診断証明書・健康診断書発行について
- (11) AEDについて知りたい

3. 障がい学生支援室

障がい学生支援室は、すべての学生が社会参加に向けて主体的に取り組むことを支援するという視点に立ち、障がいのある学生の学修や学生生活上の困難に対し、様々な相談、支援を行っています。また、障がいのある学生とサポートをする学生、その他すべての学生や教職員が互いに理解し、尊重し合える関係づくりを目指し、サポーター養成や研修会、交流会などにも取り組んでいます。詳しくは、本学HP『障がい学生支援』に掲載しています。(<https://www.ryukoku.ac.jp/support/index.php>)

HPでは主に次の情報を掲載しています。

- (1) 障がい学生支援室について
- (2) 支援を希望される方へ（支援の内容、支援の申し出方法、障がい学生支援室の紹介）
- (3) 支援をしたい方へ（学生スタッフ募集）
- (4) よくある質問（Q&A）

Ⅱ 授業等の休講措置に関する取扱基準

(自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱について)

自然災害及び交通機関不通時の授業及び定期試験の取扱については、「授業等の休講措置に関する取扱基準」によります。

○授業等の休講措置に関する取扱基準:

https://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/support/classinfo/disaster.html

「授業等の休講措置に関する取扱基準」に定める自然災害及び交通機関不通時の授業等の実施有無については、以下の4つの方法で確認することができます。

確認方法	説明
(1) 龍谷大学ホームページ https://www.ryukoku.ac.jp/	トップページに「重要なお知らせ」として授業実施の有無を記載します。
(2) ポータルサイト https://portal.ryukoku.ac.jp	ポータルサイトのログイン画面に、ホームページと同様の情報を記載します。
(3) 公式Twitter「龍谷大学（緊急連絡用）」 https://twitter.com/Ryukoku_univ (@Ryukoku_univ)	大学全体に関わる緊急情報の速報発信を目的として、本学公式Twitterアカウントを開設しています。ここからホームページと同様の情報を発信します。 WebブラウザのURL入力欄に左記URLを直接入力し、サイトを閲覧してください（事前にお気に入り登録しておくとう便利です）。
(4) 公式Facebook「龍谷大学」 https://www.facebook.com/RyukokuUniversity	大学全体の特色等を発信することを目的として、本学公式Facebookページを開設しています。緊急時には本アカウントからも、ホームページと同様の情報を発信します。 WebブラウザのURL入力欄に左記URLを直接入力し、サイトを閲覧してください（事前にお気に入り登録しておくとう便利です）。

※緊急時は、大学ホームページおよびポータルサイトへのアクセスが集中し、サイトを閲覧できなくなる可能性がありますので、「公式Twitter」と「公式Facebook」の利用を推奨します。

Ⅲ 学籍の取り扱い

1. 学籍とは

「学籍」とはその学校の在学者としての身分を意味する用語です。学籍は入学によって発生し、入学は大学が行った入学許可に対して学生の入学諸手続きが完了することにより成立します。学籍は卒業により消滅します。

2. 学籍簿

(1) 学籍番号

入学と同時に、各個人に記号と数字を組み合わせた7桁の学籍番号が与えられます。在学中の学内における事務取扱は、すべてこの学籍番号により処理されます。学籍番号は卒業後も変わらない当人固有の番号であり、本学在学中は身分証明書（学生証）の番号でもありますから、正確に記憶し、記入が必要な場合は省略せずに記入してください。

学籍番号の仕組み

X	19	0	001
L : 文学部	入学年度（西暦）の下2桁	学生区分（主たる学生区分を記す）	学部内における個人番号
E : 経済学部		学部生 : 0~7	
B : 経営学部		編転入生 : 8	
J : 法学部		再入学生 : 9	
T : 理工学部		修士課程 : M	
C : 社会学部		博士後期課程 : D	
W : 国際文化学部		短大専攻科生 : A	
H : 政策学部		専門職学位課程生 : F	
U : 国際学部		研究生 : R	
N : 農学部		特別専攻生 : S	
S : 短期大学部		科目等特別履修生 : U	
M : 実践真宗学研究科		科目等履修生 : V	
R : 留学生別科		外国人特別留学生・交換留学生 : Y	

このような仕組みになっているので、同姓同名者がいたとしても混同を防ぐ機能を持っています。

頭のアラビア数字（学部等をあらわす）が記入されないと、他学部の学生と区別ができませんので注意してください。

(2) 学籍簿

学籍取得により、大学における在学関係を明確にするものとして、**学籍簿**（入学手続き時に各自がWeb入学手続にて登録）が編成されます。学籍簿に登録される事項（本人の現住所、保証人の現住所、学費の請求先等）は、基本的には本人であることの確認に必要な事項に限定されています。これら記載事項に変更が生じたときには直ちに国際学部教務課窓口へ届け出てください。

3. 学生証

学生証は、本学の学生であるという身分を証明するとともに、学生生活での諸手続きに際して本人であることを証明する大切なものです。

- (1) 学生証は常に携帯し、次の場合はこれを提示しなければなりません。
 - ① 学業成績表を受領するとき。
 - ② 試験を受けるとき。
 - ③ 各種証明書の発行を受けるとき。
 - ④ 通学定期乗車券の購入および学割証の交付を受けるとき。
 - ⑤ 龍谷大学保健管理センターを利用するとき。
 - ⑥ 図書館を利用するとき。
 - ⑦ その他、本人であることを確認することが必要なとき。

- (2) 入学時に交付した学生証は、卒業するまで使用しますので大切に扱ってください。ただし、在籍を証明する「在籍確認シール」は毎年学年始めに配付します。新しい「在籍確認シール」を受け取ったら、速やかに前年度のシールと貼り替えてください（新入生は、住所欄に現住所を正確に記入し、学生証の指定された場所に各自貼ってください）。

なお、シールを重ねて貼ると、カードに登録されている情報が認識されず、図書館に入館できないなどのトラブルが発生することがあります。必ず、前年度のシールをはがしたうえで、新しいシールを貼ってください。

また、当該年度の「在籍確認シール」が貼られていない学生証は無効として取り扱いますので注意してください。

- (3) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに国際学部教務課窓口はその内容を届け出てください。

- (4) 学生証を破損または紛失した場合は、直ちに国際学部教務課窓口へ届け出てください。届け出は所定の「学生証再交付願」（紛失・破損届）に必要事項を記入・捺印のうえ提出してください。なお、紛失した場合は、直ちに最寄りの警察署（交番）・生協事務室に紛失届等の提出をしてください。

- (5) 学生証の再交付については、1,000円の手数料が必要です。証明書自動発行機より学生証再交付願を出力できますので、所定の手続きを国際学部教務課窓口にて行ってください。また、学生証の再交付には、2日以上を要するので注意してください。

- (6) 学生証を折り曲げたり汚したり磁気に近づけたりしないでください。

- (7) 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。

- (8) 卒業・退学の場合または有効期限が過ぎた学生証は、速やかに国際学部教務課窓口へ返納してください。

4. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失（本学の学生でなくなる）する場合としては、退学と除籍の2種類があり、さらに退学はその内容により依願退学と懲戒退学に区分されます。

(1) 退学

① 依願退学

依願退学は、学生自身の意志により学籍を喪失（本学の学生でなくなる）することです。

依願退学は、学生の意志によるものであることから、いつでも願い出ることができますが、次の諸手続きが必要です。

ア 大学所定の書式により、退学理由を明記し、保証人と連署により願い出てください。

イ 当該該学期分の学費を納入していること（学費の納入と学籍の取得は対価関係にあり、学費の納入の無い者は本学学生と見なすことができず、したがって退学を願い出る資格もありません。なお、学期当初に退学をする場合は、学部で個別に対応しますので相談してください）。

また、休学期間中の者も退学を願い出ることができますが、除籍となった者は、退学を願い出ることができません。

② 懲戒退学

懲戒退学は、学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した場合、その内容、軽重等を考慮し、別に定める学生懲戒規程により、在学契約を解消することです。

(2) 除籍

「懲戒」という概念になじまない事由であっても、大学が一方的に在学契約を解消する必要のある場合があります。このため本学ではこれを除籍として処理しています。しかし、除籍といえども本学学生としての身分を失う点では、退学と同じ結果となるので、その事由は学則により明記されています。

本学学則において定められている除籍の事由は、次のとおりです。

- ① 定められた期間に所定の学費を納入しないとき。
- ② 在学し得る年数（通常の場合は8年間）以内に卒業できないとき。
- ③ 休学期間を終えても復学できないとき。

なお、死亡の場合も除籍とします。

5. 休学と復学

学生が疾病またはその他の事情により、3ヶ月以上修学を中断しようとするときは、休学を願い出ることができます。

(1) 休学の願出

休学には、次の諸手続きが必要です。

- ① 大学所定の書式により願い出ること。
- ② 休学の必要性を証明する書類（診断書等）を添付すること。
- ③ 保証人と連署で願い出ること。

(2) 休学期間

① 休学期間は、1学年間または1学期間のいずれかです。

1年間あるいは第1学期（前期）休学希望者は6月30日まで、第2学期（後期）休学希望者は12月31

日までに国際学部教務課窓口で大学所定の書類を提出してください。なお、受付は窓口の開室日に限ります。

- ② 休学期間の延長の必要がある場合は、さらに1学年間または1学期間の休学期間の延長を願い出ることができます。
- ③ 休学期間は連続して2年、通算して4年を越えることはできません。

(3) 休学中の学費

休学者は、学費として休学する学期の休学在籍料を納入しなければなりません。

(4) 復学の願い出

休学者の休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。復学できる時期は、教育課程編成との関係で、学期の始め（第1学期（前期）または第2学期（後期）の開始日）に限定されています。復学の願い出は、学期開始日の前1ヶ月以内になければなりません。

6. 再入学

- (1) 学則第19条により退学した者が再び入学を願い出たときは、その事情を調査の上、原年次またはそれ以下の年次に、入学を許可することがあります（学則第14条）。ただし、再入学を願い出たときに、退学した年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (2) 学則第20条第1項第1号により除籍された者が再び入学を願い出たときは、原年次に入学を許可することがあります（学則第14条第2項）。ただし、再入学を願い出たときに除籍された年度を含めて4年以上の場合は学科試験を課します。
- (3) 休学期間の満了するまでに退学を願い出て許可された者は、再入学を願い出ることができます。
- (4) 再入学を願い出る時は、学費等納入規程に定める受験料を納め、所定の期間内に手続きをしなければなりません。なお、出願期間、出願書類等については入試部に問い合わせてください。

7. 編入学・転入学

本学の他学部（学科・専攻）、他大学への編入学・転入学をすることになった場合は、その旨を国際学部教務課窓口で速やかに報告してください。

なお、本学学内での編入学・転入学に関する学則は以下のとおりです。

- (1) 本学の第3年次および第2年次に転入学または編入学を希望する者については、選考の上これを許可することがあります。（学則第13条）
- (2) 入学志願者は、所定の書式にしたがい、入学願書、履歴書および修学証明書を提出しなければならない。（学則第15条）
- (3) 他の大学へ転学を希望する学生は、学長に願い出てその許可を受けなければならない。（学則18条の3）

8. 9月卒業

第1学期（前期）末（9月30日）で卒業要件（修得単位・在学期間）を充足することとなる学生が、届出期間内に9月卒業の希望申込をした場合には、9月30日付で卒業の認定を受けることができます（要件充足者について、自動的に卒業認定を行うことはありません）。詳細については国際学部教務課窓口で相談してください。

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教員

付録

第5部 Q & A

登録・履修・試験について

Q 1年次で開講されている科目は、2年次以上でも履修できるのですか。

A 履修できます。各科目を受講できる学年はp.47～p.52の開設科目を参照してください。「1年」に○があれば「1年次以上から卒業年次まで」、「2年」に○があれば「2年次から卒業年次まで」受講することができます。

Q 予備・事前登録はどのようにおこなうのでしょうか。

A 本学のポータルサイトにログインし「予備・事前登録」より予備・事前登録をおこなってください。（日程は国際学部掲示板等で各自確認してください）。

結果については、以下のとおりポータルサイトで発表します。

- ◆当該科目が受講許可された場合
→履修登録（本登録）の登録画面上で、「履修確定」として結果が表示されます。
- ◆当該科目が受講許可されなかった場合
→表示されません。

受講許可された場合に限り、履修登録（本登録）および受講が可能となります。

受講許可がされなかった場合や、予備・事前登録を行わなかった場合は、理由のいかんに関わらず、一切登録・受講を認めません。

また、当該科目が受講定員に満たなかった場合、追加募集をおこなうことがあります。実施の有無については、国際学部教務課掲示板およびポータルサイトに掲載します。

なお、追加募集は国際学部教務課窓口でのみ受け付けます（Webでは登録できません）。

Q 予備・事前登録で受講許可が出た科目は、改めて履修登録しなければなりませんか。

A 受講許可が出た科目は、必ず履修登録期間中に履修登録をしてください。そのままでは登録されません。履修登録をしないと、「受講登録確認表」にエラーが表示されます。

Q 予備・事前登録した科目が受講許可された場合、必ず履修しなければなりませんか。取消はできますか。

A 一旦許可された予備・事前登録科目は、必ず履修しなければなりません。よって**取消は認めません**。予備登録をする前に履修要項やシラバスをよく読んで、今までの成績表を確認しながら、履修計画をきちんと立てておく必要があります。また、予備・事前登録をした科目は「履修辞退」もできません。

Q 予備・事前登録期間に手続きができませんでした。後日手続きはできますか。

A 予備登録は予備・事前登録期間中のみ受け付けています。ただ、予備・事前登録結果発表の際に受講者の上限に余裕がある場合に限り、「追加募集」をおこなうことがあります。それに該当する科目であれば、登録は可能です。その際、登録は国際学部教務課窓口にて受け付けます。いずれにせよ、事前に予備・事前登録期間および科目を掲示板で確認することが大切です。

Q 再履修はどのクラスを受講すればよいですか。

- A**
- ① 「リサーチ方法論A・B」について
それぞれ指定された1学年下のクラスを受講してください。クラス指定に関しては、国際学部掲示板を確認してください。
 - ② 「ITリテラシー A・B」について
次年度に開講する3クラスのうち指定されたクラスを登録のうえ受講してください。
 - ③ 「必修外国語」について
次年度に開講する1学年下のクラスのうち、指定されたクラスを登録し、受講してください。
 - ④ 「仏教の思想A・B」について
再履修者は正規クラスを再度登録・受講することができます。

Q 留学先で修得した授業科目の単位は、いつの成績表に記載されますか。

- A** 春期休暇中に短期留学に参加した場合の単位認定の結果については、次年度後期に配布される成績表に評価を記載します。夏期休暇中に短期留学に参加した方の単位認定の結果については、次年度前期に配布される成績表に評価を記載します。
各自、ポータルサイトのお知らせで認定結果を確認してください。

Q 「フリーゾーン」を満たすにはどの科目を履修すればよいですか。

- A** 「フリーゾーン」は「学科外国語科目」「学科基礎科目」「留学科目」「教養教育科目」「専攻科目」「国際文化学科提供科目」の修得単位の余剰分を指します。
この「フリーゾーン」については、個々人の関心とニーズに応じて多様な選択ができるように設けられています。教養知識を身につけたい学生は「教養教育科目」で充足してください。専門知識を身につけたい学生は「学部専攻科目」で充足してください。どの分野の科目を選択するかはみなさん次第です。また、国際文化学科が提供する科目を履修した場合も「フリーゾーン」で認定されます。

Q クラス指定や予備・事前登録のない科目は、どの先生の授業を履修してもよいのですか。

- A** 担当教員によって講義の内容が異なります。シラバスを参考にして、自分の興味がある内容の講義を履修することができます。クラス指定されている科目については、掲示板で自分のクラスを確認してください。
なお、同一科目であれば、たとえ担当者や開講曜講時が異なる場合でも、一度単位を修得した科目は再度履修登録できませんので注意してください。

Q 昨年度、不合格や履修辞退した科目は、今年度も履修登録できますか。

- A** 履修登録できます。なお、一度単位を修得した科目は再度履修登録できません。

Q 「サマーセッション」はいつ履修登録すればよいのですか。履修登録制限単位に含まれますか。

- A** サマーセッションを利用して開講される科目は、前期の履修登録時に登録してください。登録できる科目は2科目までとなります。
履修登録制限単位に含める必要はありません。(その他の履修登録制限単位に含まれない科目については、P.10を参照してください)
なお、単位認定は後期に行います。

Q 履修登録後、登録間違いに気づきました。修正することはできますか。

A 履修登録期間中であれば、修正は可能です。万一、登録に疑問または誤りがあれば登録修正期間中に国際学部教務課まで申し出てください。

履修登録期間終了後の修正は、履修辞退期間中に履修辞退を申し出る場合を除き、一切出来ませんので、シラバス・時間割を熟読のうえ登録をおこなってください。

※登録確認を怠ったために、登録不備等により卒業延期等の重大な不利益を被った例が生じています。確認は1科目ずつ慎重に行ってください。履修登録後は必ず受講登録確認表を印刷（プリントアウト）してください。

Q 受講登録確認表の合計単位数に「サマーセッション」「随意科目」が含まれていませんが、正しく登録されていますか。

A 受講登録確認表の合計単位数には、履修登録制限単位数に含まれる科目のみ換算されます。「サマーセッション」「随意科目」は履修登録制限単位数に含みません（「サマーセッション」は卒業要件単位数には含まれます）ので、表示されません。上記の科目については、科目名・担当者名が正しく記載されているかを確認し、誤りがなければ正しく登録されています。

Q 卒業年次生ですが、今まで修得した単位数について、国際学部教務課でチェックしてもらえますか。

A 原則として、国際学部教務課で成績のチェックはしません。成績表については、成績配付期間に直接学生本人に配付します。履修要項を熟読し、自分の修得した単位数が卒業要件単位数を満たしているかの確認は各自の責任でおこなってください。

その上で疑問点等がありましたら、国際学部教務課まで来てください。

Q 授業を欠席してしまいました。何か必要な手続はありますか。

A 授業を欠席した旨を担当教員に申し出るための「講義欠席届」をお渡しします。学生本人が、国際学部教務課まで受け取りに来てください。なお、国際学部教務課から担当教員への欠席連絡は一切おこなっていません。学生本人から直接教員へ申し出てください。

Q 授業に遅刻する場合は、どうすれば良いですか。

A 公共交通機関の遅延により、遅刻する場合は、駅などで遅延証明書を受けとり、その裏面に「遅延が発生した日時」「遅延区間」「遅延時間」「学籍番号：氏名」「遅刻した科目」を明記し、第三者が客観的に遅延状況を判別できる状態で教員へ提出し、遅刻を申し出てください。

Q 定期試験の時間割は、いつ、どこで発表されますか。

A 試験開始日の原則14日前に、国際学部掲示板およびポータルサイト（MY定期試験時間割）で発表します。

Q 定期試験をやむを得ない理由で欠席してしまったのですが、どうすれば良いですか。

A 欠席理由を証明できるものと印鑑を持参のうえ、試験日を含め4日以内（土・日・祝日は含めない。ただし土曜日が試験日の場合は、試験当日を含む4日以内）に国際学部教務課にて追試験受験申込手続をしてください。追試験の受験料は、1科目1,000円です。

ただし、追試験は必ず受験できるわけではありません。寝坊など本人の過失の場合は、追試験の対象になりません。詳細は、P.20を参照してください。

Q 定期試験に学生証を持ってくるのを忘れてしまいました。どうすれば良いでしょうか。

A 国際学部教務課で試験用臨時学生証を借りてください。ただし、試験用臨時学生証は、その日の試験が終わり次第、速やかに国際学部教務課まで返却してください。

Q 成績評価に納得できません。どうすれば良いですか。

A 「成績に関する意味・内容がはっきりしないこと、疑わしいこと」に対し授業担当者に再確認を願い出る」ための成績疑義制度があります。定められた期間以内に国際学部教務課まで申し出てください。主観や感覚で「点数が低い」と感じたことを疑義の対象として受け付けることはできません。出席やレポート提出など必要な条件をすべて満たし、正当な理由と思われる疑義のみが受付対象となります。

スーパーバイザー・メンターについて

Q スーパーバイザーとは何ですか。

A スーパーバイザー (Supervisor) とは学修上の相談から留学先の選択まで、グローバルスタディーズ学科で学ぶ上でどんなことでも相談できる担当教員の事です。1人の学生に2名のスーパーバイザーが付きます。1名は主担当、もう1名は副担当です。

Q 自分のスーパーバイザーが誰だか分かりません。

A 入学後すぐは1年次に受講する「リサーチ方法論」クラスの担当者がスーパーバイザーとなります。3年次からは演習の担当者がスーパーバイザーです。詳しくはp.89を確認しましょう。

Q スーパーバイザーには何が相談できるのですか。

A 大きく分類すると「留学先の選定」「外国語学習」「履修相談」「学生生活全般」などを相談してください。相談内容によっては「なんでも相談室」や、「こころの相談室」(共に深草学舎4号館1F)の利用方法について助言します。

Q スーパーバイザーは変更できますか。

A 3年次に所属する演習が変更になるとスーパーバイザーも変更となりますが、それ以外は基本的に変更しません。どうしても希望する場合は、変更したい2名いるスーパーバイザーのうち、変更希望しない方のスーパーバイザーに相談してください。

Q メンターとは何ですか。

A 学修上の悩みがある場合や壁にぶつかった時に、相談できる先輩がメンター (Mentor) です。

Q 自分のメンターが誰だか分かりません。

A 入学直後、4月上旬～中旬までの間に、「リサーチ方法論A」の授業がある週の昼休みにすべての1年生とMentorが集まって最初の顔合わせを行っています。その場で連絡先を交換した先輩2名がメンターです。

Q メンターには何が相談できるのですか。

A 「外国語学習方法」「留学先選定」「学生生活」など全般です。

Q メンターは変更できますか。

A 「自分のメンターが相談にのってくれない。」などの場合はスーパーバイザーに相談してください。スーパーバイザーは相談を受けてメンターに指導・助言をおこないます。それでも改善されない場合は、メンターの交替を検討しますが、基本的には変更はおこないません。

Q メンターの連絡先を忘れてしまいました。

A メンターはペアで4名のグループのMenteeを指導しています。つまりあなたの他に3名が同じメンターから指導を受けその連絡先を知っているはずです。同じグループ内で聞いてみましょう。

語学スコアの提出について

Q 一定の語学スコアをとらないと卒業できないって本当ですか。

A 本当です。
卒業するためには4年次後期に以下の各種英語運用能力テストの基準スコアのいずれかを取得しておく必要があります。

	TOEIC® (IP含む)	TOEFL® PBT TOEFL ITP®	TOEFL iBT®	IELTS™
スコア	730以上	550以上	80以上	6.0以上 (Overall)

Q 卒業のためのスコアはいつ提出すれば良いのですか。

A 原則として3ヶ月に1度、学習成果を提出します。
詳細なスケジュールはP.44を参照してください。

Q どうしてもスコアが上がりません。

A 複数の解決方法があります。

- ①スーパーバイザーに相談する
- ②メンターに相談する
- ③学科外国語科目のうち各種テスト対策講座を受講する
- ④グローバルcommonsを活用する

相談する場合は、あなたの「どこがウィークポイント」を示すためにも、直近のスコアを持参しましょう。

⚠ 相談のタイミングは早ければ早いほうが望ましいです。4年次後期になって慌てて相談しても時間は限られてしまいます。3年次の早い段階で条件スコア取得が見込めない場合は相談を始めましょう。

Q 指定されているスコア以外でも卒業要件として認められますか (例えば英検)。

A 指定されている4種類のみを認めます。

Q 1年生の時に取得したスコアでも卒業要件に認められるのですか。

A 入学後であれば有効です。ただし、しっかりと学習を続けていれば学年が上がるほどスコアは上昇するはずですが、早い段階で基準スコアを満たしたからといって満足しているようでは、学科が想定する進路先で苦勞する事になります。またはそのような進路には進めないでしょう。

Q 取得したスコアは就活でも使えるのですか。

A 当然使えます。むしろ積極的にアピールしましょう。

留学制度について

Q 留学をしたいのですが、誰に相談すれば良いですか。

A 和顔館1Fに「留学サポートデスク」があります。専門の職員が留学についてアドバイスをおこなっています。実際に留学した先輩の体験談「帰国報告書」や、現在留学中の学生によるレポート「留学月報」も開架しており、自由に閲覧可能です。HPからオンラインで閲覧できる「帰国レポート」もあります。

Q 国際学部の留学制度について知りたいです。どこで教えてもらえますか。

A 「Study Abroad Handbook」を参照してください。また、グローバル教育推進センター発行「留学ガイド」も参照してください。こちらは龍谷大学グローバル教育推進センターで入手可能です。HPからオンラインで閲覧できる、「帰国レポート」もあります。

Q 留学から帰国しました。単位認定を受けたいのですが、シラバスやアウトラインとは何ですか。

A 授業の内容がわかるものです。
シラバスとアウトライン両方ではなく、自分が受講した授業内容がわかるものです。
受講した期間・レベルの内容・授業の計画・評価の仕方（Assessment）などの項目です。
学校によってそれぞれ形式が違いますので、第三者が見て授業内容や評価方法などがわかる資料を提出してください。

Q 留学から帰国しました。単位認定を受けたいのですが、学校からシラバスなどが発行されない場合はどうすれば良いですか。

A 留学先学校に直接交渉してください。
授業内容がわかるものが一切発行されない場合は、「発行していない」という公式文書を留学先からもらってください。もし、シラバス等を作成してもらえるのであれば、前述した項目を含ませ、作成してもらうようにして下さい。

Q 留学から帰国しました。単位認定を受けたいのですが、成績表・修了書がもらえない場合はどうすれば良いですか。

A これらは必ず提出してください。修了書や成績表がないと単位認定できません。万が一、学校から発行できないと言われた場合は、帰国前に必ずメールにて「留学サポートデスク」までご相談ください。

証明書について

Q 「英文証明書」が必要です。どこで発行できますか。

A 国際学部教務課で発行します。証明書自動発行機で証明書交付願を出力のうえ、国際学部教務課にて申し出てください。なお、「英文証明書」の発行には1週間必要です。日数に余裕をもって申し込んでください。

Q 就職活動のために「卒業見込証明書」「成績証明書」「健康診断証明書」が必要です。いつから発行してもらえますか。

A 「成績証明書」は、常時、証明書自動発行機にて発行可能です。
「卒業見込証明書」は、卒業年次生が5月上旬から証明書自動発行機にて出力できます。ただし、履修登録を完了していない場合や登録修正をしていない場合、卒業の見込がたないことがあります。その場合は、至急、国際学部教務課で登録状況の確認をしてください。
「健康診断証明書」も5月上旬から証明書自動発行機にて発行可能です。ただし、4月の定期健康診断を受けていない場合や、健診項目を1つでも受診していない場合は発行できません。必ず定期健康診断を受検してください。

Q 証明書を厳封して提出しなければなりません。どこで厳封してもらえますか。

A 国際学部教務課にて厳封します。証明書自動発行機から出力した場合は、証明書を持参のうえ、国際学部教務課に来てください。証明書交付願を出力し、国際学部教務課で申し込む場合は、その際に厳封の依頼をしてください。

Q 今までに単位を落とした科目や履修辞退した科目があります。証明書に記載されますか。

A 単位を落とした科目および履修辞退した科目については、科目と評価ともに記載されません。証明書に記載されるのは当該学期までに単位を修得した科目と評価です。評価方法は、点数ではなくS・A・B・Cによる記載です。
(詳細はP.17の「成績評価の基準」を参照して下さい)

Q 提出先に3ヵ月前に発行した証明書を提出しても良いですか。(証明書に期限はありますか。)

A 証明書の期限は3ヵ月を目安にしています。従って、留学手続に必要な場合や就職活動の際に企業に提出する場合、または大学院進学などの手続の際には再度最新のものを発行してください。

Q 証明書を間違えて出力してしまいました。返金してもらえますか。

A 返金は可能です。間違えて出力した証明書、もしくは証明書交付願を持参のうえ、国際学部教務課で返金依頼書に記入後、経理課(紫英館2F)にて返金手続をおこなってください。

Q 瀬田学舎にある証明書自動発行機からも証明書(交付願)は出力できますか。

A 学舎を問わず、いずれの発行機でも発行が可能です。ただし、証明書交付願等の受付は国際学部教務課のみです。

Q 調査書の依頼は演習担当教員に直接しても良いのでしょうか。

A 調査書は、証明書と同様に発行手数料が必要です。証明書自動発行機で「調査書」の交付願を出力し、国際学部教務課にて申込手続きをしてください。ただし、調査書の推薦文等は、演習担当教員が記入します。国際学部教務課で手続きをおこなう前に、次の2点を必ず各自で演習担当教員に伝えてください。

- ①調査書の推薦文を書いていただくよう依頼をする
 - ②出願締切日および作成締切日の打ち合わせをする
- 必ず出願期間の締切日を確認し、日数に余裕をもって申し込んでください。

学籍について

Q 休学（退学）を考えています。

A まずは国際学部教務課までご相談ください。理由をうかがった後に所定の用紙をお渡しします。詳細な手続については、P.72「休学と復学」を参照してください。

Q 今年度後期から来年度前期までの1年間の休学は可能ですか。

A 可能です。ただし、年度をまたがっての休学申請は不可能なため、今年度後期と来年度前期でそれぞれ休学手続をとる必要があります。詳細は、国際学部教務課までご相談ください。

Q 休学中の在籍料を除いた学費の余剰分は返金されるのでしょうか。

A 次学期の学費に繰り越されますので、返金はされません。次学期の学費は、当該学期の学費からその余剰分を差し引いた金額が請求されます。

Q 1年次後期（2セメスター）を休学した場合、次年度前期には2年次の科目は登録できますか。

A まず、復学の手続が必要です。復学の手続が完了した後で、今までに修得した単位数、これから履修したい科目によっては登録できる場合があります。復学手続の際に、今後の履修計画を立て、国際学部教務課までご相談ください。

Q 「現住所」「氏名」「保証人」「緊急連絡先」「学費請求先」の登録内容が変わりました。必要な手続は何ですか。

A 本学所定の各種変更届を国際学部教務課でお渡しします。印鑑を持参のうえ国際学部教務課までお越しください。なお、書類によっては書類添付や保証人の連署捺印が必要な場合があります。

Q 学生証を紛失してしまいました。再発行はできますか。

A 学生証の再発行は可能です。紛失した場合は学生部・最寄りの警察署（交番）・生協事務室に紛失届を提出し、ただちに国際学部教務課にて再発行の手続をおこなってください。その際、再発行手数料として1,000円が必要です。なお、学生証の再発行には、2日以上を要するので注意してください。

また、紛失でなくても、破損や顔写真が見えない場合は、必ず再発行してください。

Q 学生証の磁気が弱くなりました。再発行しなければなりませんか。

A 磁気入力をおこないますので学生証を持参のうえ、国際学部教務課まで来てください。ただし、磁気入力が不可能な場合は再発行する必要があります。

Q 学生証の再発行中に証明書の発行および図書館利用は出来ますか。

A ①証明書の発行について

証明書の発行は可能です。国際学部教務課にて手続きをおこなってください。

②図書館利用について

図書館への入館、図書の閲覧・返却は可能です。ただし、原則として貸出は認めていません。入館の際には図書館入口で学生証の再発行中であることを係の者に申し出てください。

Q 瀬田学舎でサークルに所属しています。自宅から深草学舎までの通学定期券とは別に家から瀬田までの通学定期券を買いたいのですが、できますか。

A 自宅から瀬田学舎までの通学定期券の購入はできません。通学定期券は大学（所属学舎）の最寄駅と自宅の最寄駅の最短経路、区間に限り購入可能です。よって深草学舎から自宅までの通学定期券のみ購入可能となります。

学生生活について

Q 情報処理自習室はいつ、どの場所で使用できますか。

A 情報メディアセンターの掲示板で確認してください。

なお、自習教室の開室状況は、下記URLより参照できます。

<https://www.media.ryukoku.ac.jp/>

Q 全学統合認証パスワード（Webポータルサイト・メール・証明書自動発行機のパスワード）を忘れてしまいました。どこで教えてもらえますか。

A 全学統合認証パスワードは、情報メディアセンターで管理しています。各自で直接申し出てください。

Q ゼミやサークルで教室を使用したいのですが、どこでどのような手続きをすれば良いですか。

A ゼミや一般同好会等の自主活動の場として、教室貸出をしています。教室を使用したい場合は、代表者（あるいはそれに代わる者）が学生証および印鑑を持参して、学生部にて手続きをおこなってください。申込受付は1週間ごとにおこなっていますが、臨時の教室変更等で使用できない場合もあります。

また、土曜日の教室貸出は15時までです。日曜、祝日の貸出はおこなっていません。

Q 先生と連絡を取りたいのですが、連絡先（住所・電話番号・メールアドレス）を教えてください。

A 教員の連絡先は、国際学部教務課で教えることは出来ません。必要な場合は、直接教員に確認してください。なお、多くの教員はホームページ等で連絡先を公開しているので、まずは確認してください。

Q 先生へ伝えたいことがあります。国際学部教務課から伝えてもらえますか。

A 国際学部教務課から教員への伝言は一切受け付けていません。講義時等を利用して直接学生本人から先生に伝えてください。レポートや課題等も国際学部教務課で受け付けることはありません。

Q 掲示板はどこにどのような情報が掲示されているのですか。

A 6号館1階に国際学部掲示板があります。(詳細は「大学からの連絡・通知の掲示」を参照してください)

教室変更、休講、学生呼び出し、留学情報、単位互換科目などに関する情報および学生生活に関する様々な情報や、講義関係の情報(講義担当者からの連絡事項等)を掲示しています。

学生への連絡・通知はすべて掲示によっておこないますので、毎日登下校の際に必ず確認してください。

Q ゼミ等の連絡で掲示したいことがあるのですが、掲示板を使用してもいいですか。

A ゼミ等の連絡に関する掲示をすることはできません。講義における連絡事項等は、講義時に伝えるようにしてください。

なお、やむを得ない場合は、担当教員から国際学部教務課まで掲示の依頼が必要となります。

Q 奨学金の申込をしたいのですが、手続場所はどこですか。

A 奨学金は「貸与」と「給付」の大きく2種類に分けられます。選考は奨学金の種類によって基準が異なります。出願に関しては、説明会や掲示板、および学生部で配付される各要項を確認してください。

Q 学費の納入期限に間に合わないかもしれません。どうすれば良いですか。

A 期日までに納入できない場合は、学費延納・分納の制度があります。学生部にて書類の配付・受付をしています。

Q 学費が10万円だけ足りません。大学での貸付制度はありますか。

A やむを得ない事情がある場合、短期貸付制度があります。他に方法が無い場合は国際学部教務課までご相談ください。

Q ケガをしてしまい、車で通学したいのですができますか。

A 医療機関が発行する診断書を持参のうえ、国際学部教務課までご相談ください。

こんな場合には？

こんなとき		ここで	こうする
講義関係で	短期間欠席する	国際学部教務課	事前または事後ただちに届け出る。(印鑑必要)
	3ヵ月以上欠席する	国際学部教務課	保証人と連署で、休学を願い出、許可を受ける。(印鑑必要)
	休講・教室等講義に関係することが知りたい	国際学部教務課	毎日登下校時に、学部掲示板を見る。不明な点は国際学部教務課に問い合わせる。なお、休講情報は大学のホームページ上でも確認できる。
	教員と面談したい	国際学部教務課	学部掲示板・ホームページで教員のオフィスアワーを確認する。 または、国際学部教務課に問い合わせる。
	登録に際し、不明な点がある	国際学部教務課	履修要項熟読の上、登録日までに照会・相談する。
	成績に疑義・質問がある	国際学部教務課	掲示された所定期間に申し出る。(印鑑必要)
学業・修学についてわからないこと、知りたいことがある。		国際学部教務課	随時、照会・相談する。
試験関係で	突発事由で試験に欠席して追試を願い出たい	国際学部教務課	欠席後その科目の試験日を含め4日以内(土・日・祝日は含めない。ただし土曜日が試験日の場合は、試験当日を含む4日以内)に届け出る。(診断書等理由を証明できるもの、印鑑必要)
	試験の日時を知りたい	国際学部教務課	試験開始日の原則14日前に掲示・発表される。
	受験に際し、学生証の不携帯に気がついた	国際学部教務課	試験用臨時学生証の交付を受けて受験し、受験後ただちに国際学部教務課に返却する。
交通機関ストライキ・台風等の場合の授業は？			授業休止の取扱基準の欄を参照のこと。(p.69)
学籍関係で	現住所を変更した	本人	国際学部教務課 変更内容をただちに届け出、学生証の住所を変更する。(印鑑必要)
		保証人	国際学部教務課 変更内容をただちに届け出る。(印鑑必要)
	氏名を変更した	本人	国際学部教務課 変更内容をただちに届け出、学生証の氏名を変更する。(住民票記載事項証明書・印鑑必要)
		保証人	国際学部教務課 変更内容をただちに届け出る。(印鑑必要)
	保証人を変更するとき		国際学部教務課 変更内容をただちに届け出る。(印鑑必要)
	休学したい	国際学部教務課	事前に相談のうえ、期限内に保証人と連署で休学を願い出、許可を受ける。(理由書又は診断書添付・印鑑必要)
	復学したい	国際学部教務課	保証人と連署で学期開始日1ヵ月前までに復学を願い出、許可を受ける。(印鑑必要)
	退学したい	国際学部教務課	事前に相談のうえ、期限内に保証人と連署で退学を願い出、許可を受ける。 (理由書または診断書と学生証添付・印鑑必要)
	編・転入試験を受けたい	国際学部教務課	随時、照会・相談する。
再入学したい	国際学部教務課	国際学部教務課で相談の上、入試部に問い合わせる。	

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きのQ
&
A教
員

付

録

	こんなとき	ここで	こうする
証 明 書	学生証の交付を受ける	国際学部教務課	入学時に交付を受け、卒業まで使用する。但し、「在籍確認シール」を毎年学年始めに配布する。
	学生証を紛失した	国際学部教務課	紛失後ただちに届け出る。最寄りの警察へも届け出る。
	学生証の再交付を受ける	国際学部教務課	発行機にて「学生証再交付願」（再交付手数料1,000円）の交付を受け、提出する。顔写真を変更希望する場合は写真が必要。（印鑑必要）
関 係 で	通学定期券を購入したい	各交通機関	学生証を各交通機関の窓口で提示した上、購入する。通学証明書が必要な場合は国際学部教務課で交付を受けた上、各交通機関で購入する。
	学割証がほしい	証明書自動発行機	各種証明書の交付の欄を参照。
	団体旅行割引証がほしい	国際学部教務課	クラス・ゼミの場合、必要時に申し込む。即日交付。
経 済 生 活 の 面 で	各種証明書がほしい	発行機	窓口事務各種証明書の交付の欄を参照。
	アルバイトの紹介	学生部	紹介物件を掲示板で確認し、各自窓口に申し込む。
	奨学金を希望するとき	学生部	学生手帳「奨学金」の欄を参照。
	授業料の納入がおけると き	学生部	延納一括・分納最高3回分割の制度があるので、学生部へ所定の期間内に申し出ること。期日については学生手帳で確認すること。（印鑑が必要）
課 外 活 動 の こ と	生活費の支弁が困難なとき	学生部	学生手帳「短期貸付制度」の欄を参照
	団体を結成するとき（同好会・県人会など）	学生部	前もって課外活動担当者の相談を受け、所定用紙に必要事項を記入し、提出する。（印鑑が必要）
	課外活動諸団体への入部	各団体	直接各団体に申し込む。学生手帳「課外活動のすすめ」の欄を参照。
	課外活動でのいろいろな問題	学生部 学生相談室	各団体の長や先輩に相談する。相談できない時は、部長・顧問の先生または学生部・学生相談室で相談する。
	集会をする時	学生部	前もって学生部で所定の手続きをして、会場等の調整を計ること。
施 設 の 利 用	合宿をするとき	学生部	所定の用紙で合宿の10日前までに届け出る。
	大学指定合宿施設を利用するとき	学生部	学生手帳「大学指定合宿施設」の欄を参照。
	教室を借用したいとき	学生部	所定の用紙で願い出ること。
員 付 録	学友会館のホール・会議室等を利用したいとき	学友会館 事務室	所定の用紙で願い出ること。学生手帳「学友会館」の欄を参照。
	ものを紛失・拾得または盗難にあったとき	学生部 国際学部教務課	ただちに学生部または、国際学部教務課に申し出る。
	種々の問題で悩んでいる時	学生相談室 国際学部教務課	学生手帳「学生相談室」の欄を参照。 悩んでいること、困っていることは遠慮せず早目に相談すること。
	障がいにより大学生活に困難を有し支援を希望するとき	障がい学生 支援室	学生手帳「障がい学生支援」の欄を参照
	正課または正課外において災害事故にあったとき	学生部	学生手帳「学生災害事故療養費等給付」の欄を参照。
	健康相談、診療および応急処置をうけたいとき	保健管理 センター	学生手帳「保健管理センター」の欄を参照。

第6部 教員

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教員

付録

国際学部 専任教員名簿

	教員氏名	Name	所属 学科	所属コース	研究室	
あ	泉 文明	IZUMI, Fumiaki	IC	世界と日本	和-410	
	磯江 源	ISOE, Gen	IC	多文化共生	和-409	
か	カルドネル シルヴァン	CARDONNEL, Sylvain	IC	芸術・メディア	和-411	
	カルロス マリア レイナルース	CARLOS, Maria Reinaruth	IC	世界と日本	和-415	
さ	河合 沙織	KAWAI, Saori	GS		和-426	
	斎藤 文彦	SAITO, Fumihiko	GS		和-434	
	佐野 東生	SANO, Tosei	IC	多文化共生	和-408	
	サルズ ジョナ	SALZ, Jonah	IC	芸術・メディア	和-403	
	澤西 祐典	SAWANISHI, Yusuke	IC	芸術・メディア	和-421	
	史 彤嵐	SHI, Tonglan	IC	世界と日本	和-406	
	清水 耕介	SHIMIZU, Kosuke	GS		和-431	
	杉本バウエンス ジェシカ	SUGIMOTO-BAUWENS, Jessica	IC	芸術・メディア	和-429	
	徐 光輝	XU, Guanghui	IC	世界と日本	和-418	
	壽崎 かすみ	SUSAKI, Kasumi	IC	多文化共生	6-426	
	鈴木 滋	SUZUKI, Shigeru	IC	多文化共生	和-412	
	た	瀧口 順也	TAKIGUCHI, Junya	GS		和-432
		瀧本 真人	TAKIMOTO, Masato	GS		和-436
		嵩 満也	DAKE, Mitsuya	IC	世界と日本	和-413
ターヒュン ノエル		TERHUNE, Noel	IC	多文化共生	和-402	
チャプル ジュリアン		CHAPPLE, Julian	GS		和-437	
陳 慶昌		CHEN, Ching-Chang	GS		和-433	
デブナール ミロシュ		DEBNÁR Miloš	IC	世界と日本	和-405	
友永 雄吾		TOMONAGA, Yugo	IC	世界と日本	和-401	
な		長尾 明子	NAGAO, Akiko	GS		和-427
		中根 智子	NAKANE, Satoko	GS		和-435
は	林 則仁	HAYASHI, Norihito	IC	多文化共生	和-430	
	朴 炫国	PARK, Hyunkuk	IC	世界と日本	和-428	
	久松 英二	HISAMATSU, Eiji	IC	多文化共生	和-420	
	ピゴット ジュリアン	PIGOTT, Julian	GS		和-438	
	ファーマノフスキー マイケル	FURMANOVSKY, Michael	IC	芸術・メディア	和-416	
	福山 泰子	FUKUYAMA, Yasuko	GS		和-425	
	二葉 晃文	FUTABA, Terufumi	IC	多文化共生	6-408	
	ブラドリー ウィリアム	BRADLEY, William	GS		和-440	
	古川 秀夫	FURUKAWA, Hideo	IC	多文化共生	和-419	
	ま	松居 竜五	MATSUI, Ryugo	IC	芸術・メディア	和-423
松村 省一		MATSUMURA, Shoichi	GS		和-439	
三谷 真澄		MITANI, Mazumi	IC	世界と日本	和-414	
や	八幡 耕一	YAWATA, Koichi	IC	芸術・メディア	和-417	
ら	劉 虹	LIU, Hong	IC	世界と日本	和-404	
わ	脇田 博文	WAKITA, Hirofumi	GS		和-424	

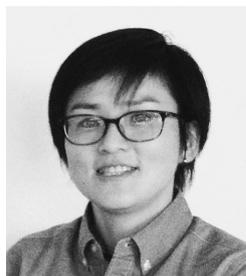
IC … Intercultural Communication (国際文化学科)

GS … Global Studies (グローバルスタディーズ学科)

和 …和顔館

6 ……6号館 (紫英館)

グローバルスタディーズ学科教員詳細



河合 沙織
KAWAI, Saori

Variety's the very
spice of life.
-William Cowper

生年月・出身	10月生 愛知県
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	講師
学歴・学位	神戸大学大学院 国際協力研究科 博士（学術）
専門分野	ラテンアメリカ経済、ブラジル地域研究
研究分野	社会科学、経済学、経済政策
主な担当科目	グローバリゼーションとラテンアメリカ、多国籍企業論
研究テーマ	ブラジルの地域経済開発と制度・地域主体・参加型イニシアチヴ
研究キーワード	ラテンアメリカ、ブラジル、地域経済、地域間格差、貧困、開発
主な研究活動等	「コモディティ・ブーム後のブラジル経済：課題と展望」、'A New "Order and Progress" in Brazilian Economy'
一言コメント	ラテンアメリカ、とくにブラジルをフィールドに研究を行っています。「万事機嫌よく」をモットーに、教育・研究活動に取り組みたいですと考えています。
E-mail	kawai@world.ryukoku.ac.jp
URL	



斎藤 文彦
SAITO, Fumihiko

One child, one
teacher, one book and
one pen can change
the world.
- Marara Yousafzai

生年月・出身	1961年12月生 京都府
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	教授
学歴・学位	龍谷大学経済学博士 アメリカ・イェール大学大学院国際関係論修士 アメリカ・アマーフト大学アメリカ研究学士 同志社大学法学士
専門分野	国際開発
研究分野	社会科学
主な担当科目	Sustainability Studies、国際開発協力論
研究テーマ	アフリカ地域研究・国際協力・持続可能性
研究キーワード	国際開発研究・アフリカ・国際協力
主な研究活動等	平成16年度日本国際開発学会賞著作部門受賞 個人研究室のページをご覧ください http://www.world.ryukoku.ac.jp/~fumis96/
一言コメント	中高年の成功には体力が欠かせない！
E-mail	fumis96@world.ryukoku.ac.jp
URL	http://www.world.ryukoku.ac.jp/~fumis96/

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付

録



清水 耕介
SHIMIZU, Kosuke

There is no facts,
only interpretations
-Friedrich Nietzsche

生年月・出身	1965年10月生 佐賀県
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	教授
学歴・学位	ニュージーランド国立ヴィクトリア大学政治学国際関係学大学院博士課程修了、博士 (Ph.D)
専門分野	国際関係、国際政治経済学、政治思想
研究分野	社会科学、政治学、国際関係論
主な担当科目	Applied Global Studies、国際政治経済学
研究テーマ	国際関係の変化のプロセスと暴力・文化の関係
研究キーワード	国際関係、文化論、暴力論、政治思想
主な研究活動等	Multiculturalism and Conflict Reconciliation (共編著, Palgrave 2014), Materialising the Non-Western (CRIA) online (Routledge 2014) 他 Sir Desmond Todd Prize (VUW)
一言コメント	国際関係の中で「考える」ということについて考えてきました。最近は「考える」ことを考えることに疲れて、「考える」ことを考えないようにと考えています。
E-mail	shimizu@world.ryukoku.ac.jp
URL	http://blog.zaq.ne.jp/caatc105/



瀧口 順也
TAKIGUCHI, Junya

You find yourself only
by looking to what you
are not.
-from Moon Palace by
Paul Auster

生年月・出身	1980年8月生 兵庫県明石市
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	准教授
学歴・学位	明治大学政治経済学部 (学士: 2003年) マンチェスター大学人文学研究科 (MA in Modern European History 2004; PhD in History 2009)
専門分野	歴史学、地域研究
研究分野	人文学、史学、史学一般
主な担当科目	ナショナリズム研究、グローバル・ヒストリー入門
研究テーマ	ソ連史、国際共産主義史
研究キーワード	ロシア・ソ連史、近現代ヨーロッパ史、政治文化史、プロパガンダ
主な研究活動等	「スターリニズムの表象と大衆動員」『ロシア革命とソ連の世紀』(4巻) 2017; 「共産党の支配」『ロシアの歴史を知るための50章』2016; 'Projecting Bolshevik Unity, Ritualising Party Debate', Acta Slavica Iaponica, 2012
一言コメント	主にヨーロッパ・ロシア近現代史研究に従事してきました。今後は、対象地域を広げ、より幅広い視野から近現代史に取り組みたいと考えています。
E-mail	takiguchi@world.ryukoku.ac.jp
URL	



瀧本 真人
TAKIMOTO, Masato

It takes courage to
grow up and bcome
who you really are.
— e.e. coummings

生年月・出身	1961年7月生 兵庫県神戸市
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	教授
学歴・学位	モナシュ大学（オーストラリア）大学院人文社会科学研究所博士課程修了（Ph.D.）
専門分野	通訳・翻訳研究、応用言語学
研究分野	人文学、言語学
主な担当科目	通訳・翻訳研究、異文化間コミュニケーション
研究テーマ	通訳研究、翻訳研究、異文化間コミュニケーション、英語教育、日本語教育
研究キーワード	function of interpreters, translation of culture, intercultural communicaiton, intercultural learning, teaching English/Japanese as a foreign language, internationalisation of Japan
主な研究活動等	Interpreter's involvement in multi-party interaction: The nature of participation as listener and speaker, 「AUSIT 倫理規定と通訳者の行動—ビジネス分野におけるダイアログ通訳の場合」等。
一言コメント	四半世紀ちかく英語圏で生活し、日本に帰国しました。これまで、大学に勤務するかたわら、会議通訳者・翻訳者としても経験を積んできました。日本のよさを再認識するとともに、日本の学生との学びを楽しんでいます。
E-mail	takimoto@world.ryukoku.ac.jp
URL	



チャプル ジュリアン
CHAPPLE, Julian

It's not the mountain
we conquer but
ourselves.
— Sir Edmund Hillary

生年月・出身	1971年7月生 ニュージーランド
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	教授
学歴・学位	ニュージーランド国立ヴィクトリア大学大学院政治科学学科博士課程修了博士（Ph.D.）
専門分野	国際政治学
研究分野	社会科学、政治学、国際関係論
主な担当科目	Global Englishes and Communication
研究テーマ	・在日外国人の人権（教育問題など）と現代日本の社会問題（少子化など） ・ニュージーランドと日本との歴史や交流 ・国際移住とそれが及ぼす文化・経済・政治的影響 ・言語教育政策
研究キーワード	Internationalisation, Globalisation, Migration, Human Rights, Education, Global Society & Citizenship issues
主な研究活動等	『Japan's Policy of Internationalisation』、『The Dilemma Posed by Japan's Population Decline』、『Accepting and Educating 'Others': A Possible Population Solution for Japan?』
一言コメント	趣味はジョギング、旅行。 モットーは「死ぬまで勉強」
E-mail	julian@world.ryukoku.ac.jp
URL	

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教
員

付
録



陳 慶昌

CHEN, Ching-Chang

"A fo ben, bid bont"
(He who would be a leader, let him be a bridge)-old Welsh proverb

生年月・出身	1976年4月 台湾
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	准教授
学歴・学位	英国アベリストウイス大学大学院国際政治研究科博士課程修了 (Ph.D International Politics)
専門分野	政治学、国際関係学
研究分野	国際関係理論、批判的安全保障論、外交政策分析
主な担当科目	国際関係入門、グローバリゼーションと東アジア、安全保障論
研究テーマ	Theories and practices of international relations at the margins
研究キーワード	discourse analysis threat perceptions, national identity, territorial disputes and history issues in East Asia
主な研究活動等	The North Korea Crisis and Regional Responses (East-West Center), China and International Theory
一言コメント	No pain, no gain.
E-mail	chen@world.ryukoku.ac.jp
URL	https://ryukoku.academia.edu/ChingChangChen



長尾 明子

NAGAO, Akiko

… the process we are interested in is that of producing and understanding text in some context of situation, perhaps the most distinctive form of activity in the life of man.
Halliday and Hasan (1985:14)

生年月・出身	
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	講師
学歴・学位	熊本大学大学院博士後期課程修了 (Ph.D.)
専門分野	英語教育学
研究分野	外国語教育、人文学
主な担当科目	英語 (Reading)、英語 (Writing)、Advanced Writing Strategies
研究テーマ	Classroom-based action research, "learning as socialisation experiences and language as a social semiotic (Halliday: Mikan)"
研究キーワード	languages pedagogy, academic literacies, communities of practices, genre-approach of language learning
主な研究活動等	The Japan Association of College English Teachers, The Japan Association for Language Teaching, 日本質的心理学会
一言コメント	備えあれば憂いなし.
E-mail	nagao@world.ryukoku.ac.jp
URL	



中根 智子
NAKANE, Satoko

You must be the
change you want to
see in the world.
-Mahatma Gandhi

生年月・出身	5月生 福岡県
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	講師
学歴・学位	博士（国際関係学）
専門分野	国際関係学・南アジア地域研究
研究分野	
主な担当科目	インターンシップ・アブロード I・II、グローバル市民社会論
研究テーマ	途上国の貧困と人々の暮らし
研究キーワード	子どもの貧困 途上国都市の貧困・児童労働・ストリートチルドレン インドの貧困とNGO・インドの貧困とジェンダー
主な研究活動等	「インド人の子ども観と子どもをめぐる格差—ストリートチルドレンへの支援から」（NIHUプログラム「現代インド地域研究」2012年度国内全体集会2012/11/23）など
一言コメント	趣味は、マイナーな博物館や、記念館へ行くことです。 座右の銘：真に自由な魂は他者が自由であることを許す。
E-mail	
URL	



ピゴット ジュリアン
PIGOTT, Julian

If you're going through
hell, keep going.
-Sir Winston Churchill

生年月・出身	1978年7月生 イギリス
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	准教授
研究分野	言語教育、教育政策、メディア
研究テーマ	Significant incidents and language learning, Ideology and the media.
研究キーワード	motivation, Significant incidents, media, ideology
主な研究活動等	Anagnorisis and narrative incorporation: How significant incidents affect language-learning behavior. SSLT 8 (3) (2018)
一言コメント	Read books
E-mail	pigott@world.ryukoku.ac.jp
URL	

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q

&

A

教

員

付

録



福山 泰子
FUKUYAMA, Yasuko

'First time' comes only once. So, enjoy it to the fullest.

生年月・出身	1975年2月生 香川県
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	教授
学歴・学位	名古屋大学大学院文学研究科博士課程満期修了 中部大学准教授を経て、龍谷大学博士（文学） 〔名古屋大学〕
専門分野	美術史
研究分野	南アジア美術史（宗教美術）
主な担当科目	文化遺産学、南アジアの言語、宗教文化学入門
研究テーマ	インド美術史、文化遺産保護
研究キーワード	アジャンター石窟寺院、南アジアの宗教美術、南アジアにおける文化遺産保存
主な研究活動等	『アジャンター後期壁画の研究』（単著、中央公論美術出版、2014年）、『スリランカ北部、東北部における文化財保存と活用』（共著、文化遺産国際協力コンソーシアム、2015）
一言コメント	仏教説話図や多様な装飾文様で荘厳されたインドの石窟寺院や仏教寺院建造物が当時どのような機能を有していたのか、美術史の観点から研究しています。
E-mail	yfukuyama@world.ryukoku.ac.jp
URL	



ブラドリー ウィリアム
BRADLEY, William

It's no use, Mr. James-it's turtles all the way down (World Turtle Myth, attributed to William James).

生年月・出身	アメリカ、コネチカット州
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	教授
学歴・学位	アリゾナ大学大学院博士課程卒業 Ph.D. [アリゾナ大学]
専門分野	教育学、人類学、社会言語学
研究分野	社会科学 教育学 教育社会学
主な担当科目	Introduction to Cultural Anthropology, Globalization of Education
研究テーマ	「リスク」の理論的構築と社会技術問題。研究例としては、狂牛病、原子力発電、及びリスク組織としての高等（大学）教育などが抱える社会問題です。
研究キーワード	リスク、文化イメージ、グローバリゼーション、高等教育改革
主な研究活動等	Comparative and International Education Society, American Anthropological Association, Anthropology of Japan in Japan, American Educational Research Association
一言コメント	新しい社会問題を教材に使用するとき、同じ研究をする友人たちと討論した上で講義をすること。
E-mail	william@world.ryukoku.ac.jp
URL	



松村 省一
MATSUMURA, Shoichi

"Knowing is not enough; we must apply. Willing is not enough; we must do."

Johann Wolfgang von Goethe
(1749-1832)

生年月・出身	
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	教授
学歴・学位	ブリティッシュコロンビア大学大学院 (Ph.D. 言語教育学)
専門分野	英語教育学、教育心理学
研究分野	人文学 言語学 外国語教育
主な担当科目	会話分析入門、心理言語学
研究テーマ	1. Interlanguage pragmatic development 2. Language testing and assessment 3. Research methods in SLA 4. Language teacher cognitions and practices 5. Foreign language education policy analysis
研究キーワード	Interlanguage pragmatics, Japanese learners of English as a foreign language, latent growth modeling (LGM), structural equation modeling (SEM), item response theory (IRT), language teacher professionalism.
主な研究活動等	「Language Learning」(Blackwell)、「Applied Linguistics」(Oxford University Press)、「Modern Language Journal」(Blackwell)、「Intercultural Pragmatics」(Mouton de Gruyter)などに論文掲載。
一言コメント	趣味は競泳、仲間との楽しい飲み会。自然の中で遊ぶことが好きで、卒業生と沢登り隊を結成。モットーは、「仕事はほどほどに、遊びは真剣に。人生、悠々と急ぐ。」
E-mail	shoichi@world.ryukoku.ac.jp
URL	



脇田 博文
WAKITA, Hirofumi

Seize the day!

生年月・出身	1951年11月生 京都府
学部・学科・専攻	国際学部 グローバルスタディーズ学科
職名	教授
学歴・学位	京都府立大学文学部文学科西洋文学専攻卒業、龍谷大学文学部文学研究科博士課程前期英文学専攻修了
専門分野	言語政策、英語教育、比較教育
研究分野	人文学 言語学 外国語教育
主な担当科目	英語科教育法、英語教育特殊研究、教職実践演習
研究テーマ	EU及び東アジアの言語政策、学校教育に係る諸課題
研究キーワード	言語政策、多文化・多言語主義、EU・東アジア、英語教育、教員養成
主な研究活動等	《著書》『言語とパワー』（共訳）、『EUの言語教育政策』（共著）、『Teaching English Language and Literature Home and Abroad』（共著）等 《論文》「ナショナリズムと言語政策—スロバキアのハンガリー少数民族—」、「スロベニア共和国—国家理念としての多文化・多言語主義」 「Quality Assurance of English Language Teachers: A Missing Paradigm in Teacher Education」等
一言コメント	志は高く、歩みは着実に。
E-mail	wh2440@world.ryukoku.ac.jp
URL	

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q

&

A

教

員

付

録

履修の心得

教育課程

諸課程

学生生活の手引き

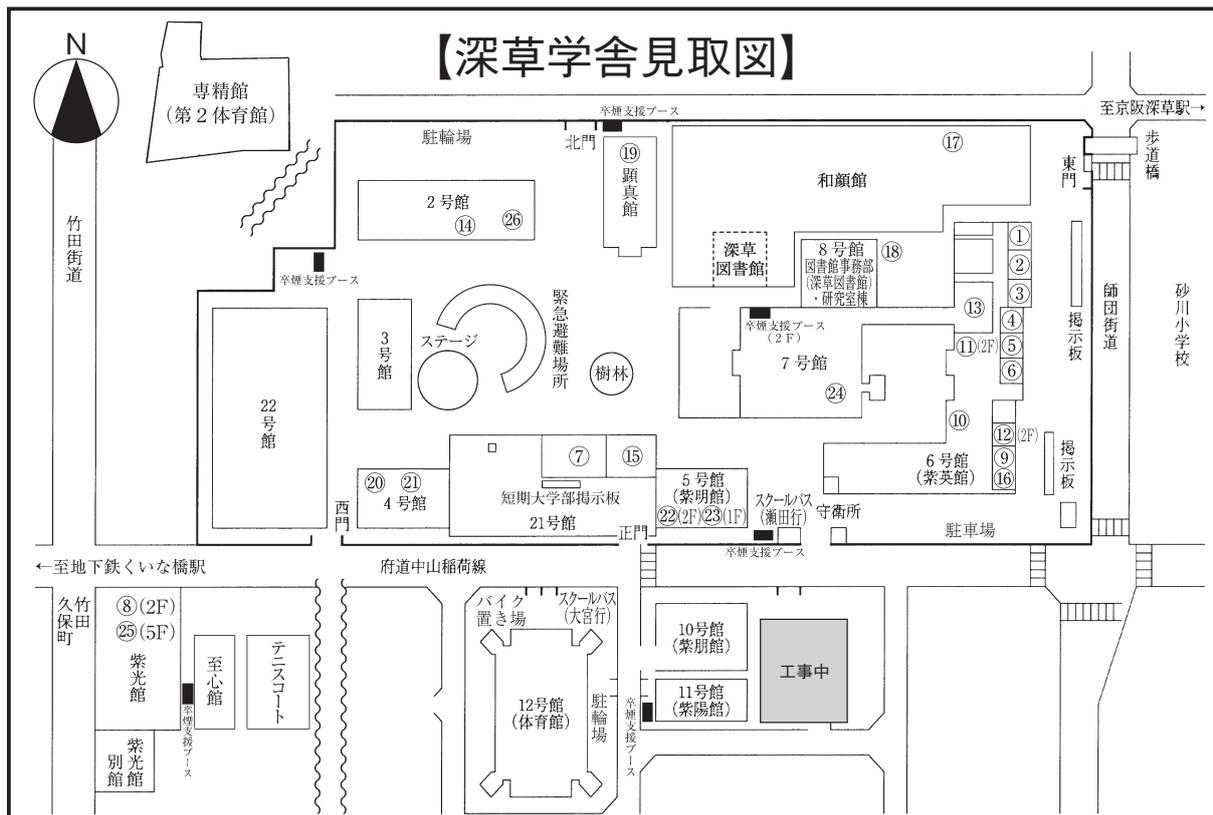
Q & A

教員

付

録

第7部 付 録



深草学舎 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL 075-642-1111 (代表)

◆主な事務室連絡先

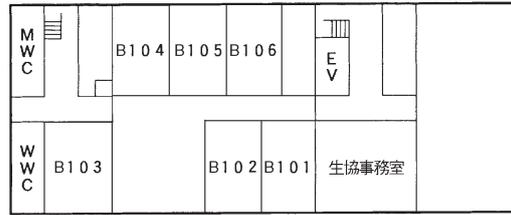
市外局番は「075」です。

番号	部署名	事例	ダイヤルイン	FAX
①	政策学部教務課	政策学部の科目に関する事	645-2285	645-2101
②	法学部教務課	法学部の科目に関する事	645-7896	643-9901
③	経営学部教務課	経営学部の科目に関する事	645-7895	643-9901
④	国際学部 (国際文化学部) 教務課	国際学部(国際文化学部)の科目に関する事	645-5648	645-6444
⑤	経済学部教務課	経済学部の科目に関する事	645-7894	645-6444
⑥	文学部教務課	文学部の科目に関する事	645-7893	645-5639
⑦	短期大学部教務課 短期大学部実習指導室 短期大学部社会活動センター	短期大学部の科目・実習・社会活動に関する事	645-7897 645-7906	645-2825
⑧	法科大学院修了生支援室	法科大学院修了生の支援に関する事	645-2070	645-2071
⑨	教育学部 教養教育センター事務部 教職センター	深草・大宮学舎の教養教育科目に関する事 教室に関する事 教職課程に関する事	645-7891	643-5021
⑩	教材作成室	印刷が必要な教材作成に関する事	645-7891	643-5021
⑪	研究部(深草) [2階]	各種研究支援に関する事	645-7922	645-2033
⑫	総務部人事課 [2階]	人事・給与に関する事	645-7874	645-8685
⑬	講師控室(6号館)	大学からの通知・連絡		
⑭	講師控室(2号館)			
⑮	障がい学生支援室	障がい学生支援に関する事	645-5685	645-2825
⑯	学修支援・教育開発センター	教育活動の支援に関する事	645-2163	645-2190
⑰	グローバル教育 推進センター事務部	留学・国際交流に関する事	645-7898	645-2020
⑱	図書館事務部(深草)	図書館利用に関する事	645-7885	645-8691
⑲	宗教部	宗教教育・宗教行事に関する事	645-7880	645-7939
⑳	学生部(深草) スポーツ・文化活動 強化センター	学生生活に関する事	645-7889	644-2988
㉑	保健管理センター	診察、健康診断、健康相談に関する事	645-7879	643-9909
㉒	情報メディアセンター [2階]	情報実習室、メディア機器の利用に関する事 メディア教材作成に関する事	645-2108	645-2109
㉓	キャリアセンター	学生の就職支援及びキャリア開発に関する事	645-7878	645-5556
㉔	龍谷大学ボランティア ・NPO活動センター	教育研究活動とボランティア・NPO活動との連携に関する事	645-2047	645-2064
㉕	REC事務部(京都)	地域社会との交流、「産・官・学」連携による教育・研究活動の推進に関する事	645-7892	645-9222
㉖	生活協同組合	購買(書籍・文具・チケット等)	642-0213	643-7774

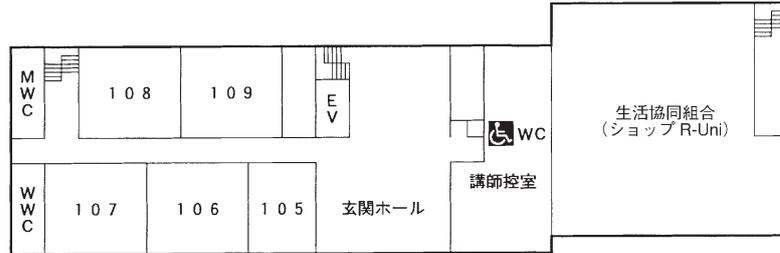


〈深草学舎〉 2 号 館

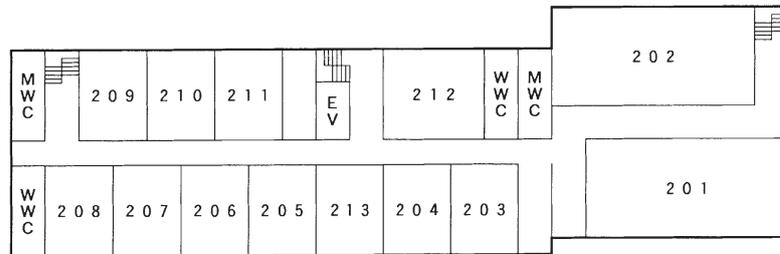
地 階



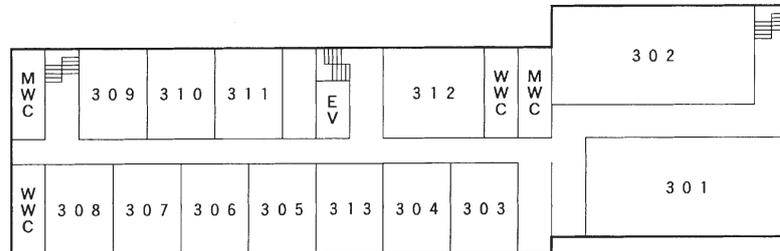
1 階



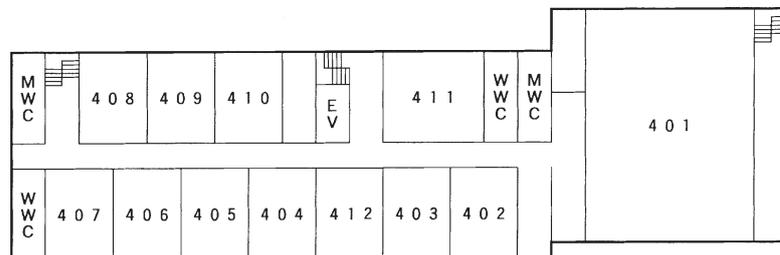
2 階



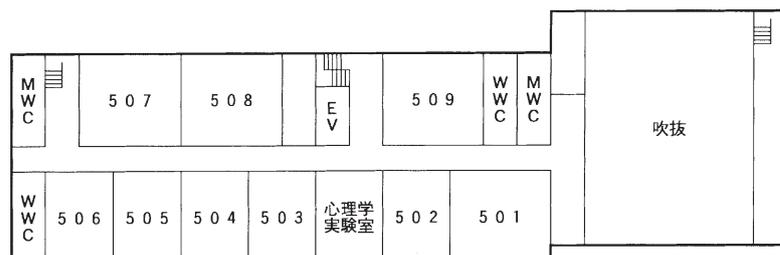
3 階



4 階



5 階



履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教

員

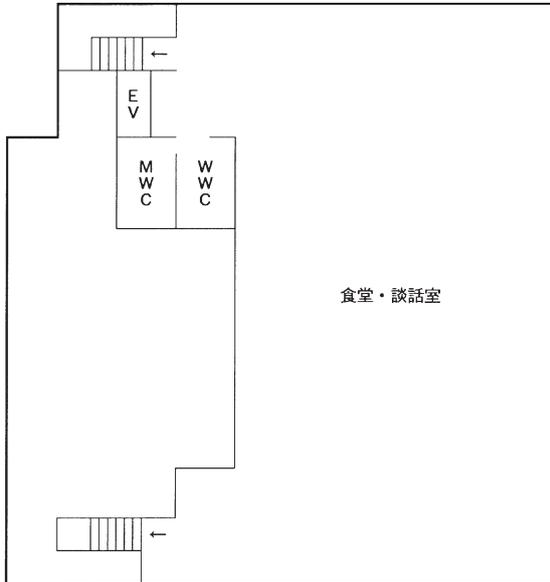
付

録

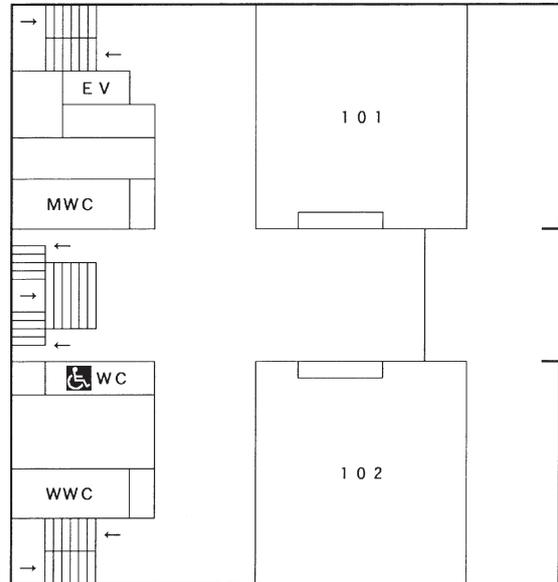


〈深草学舎〉 3号館

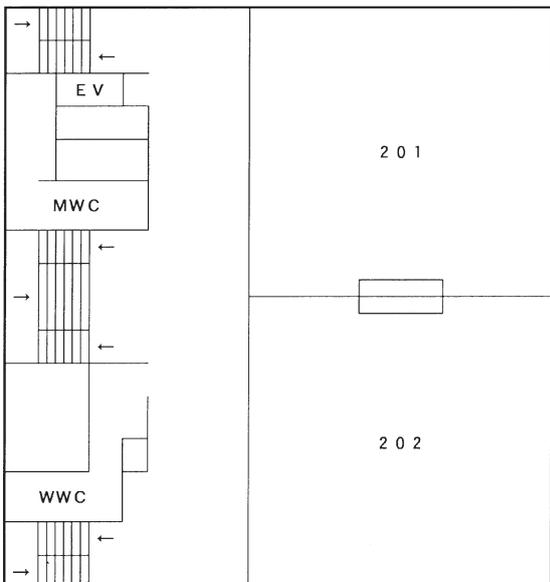
地階



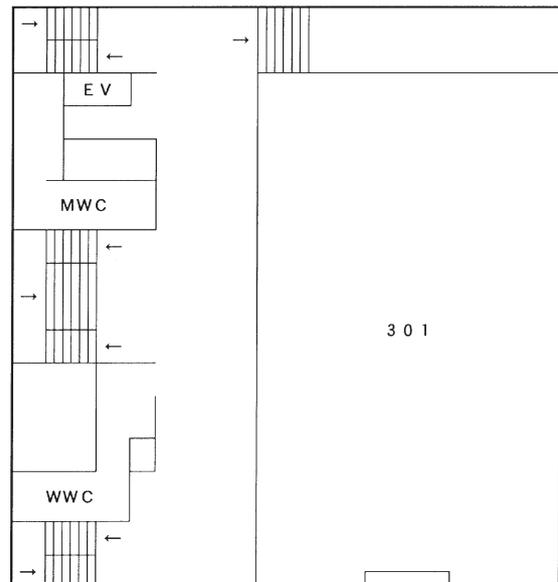
1階



2階



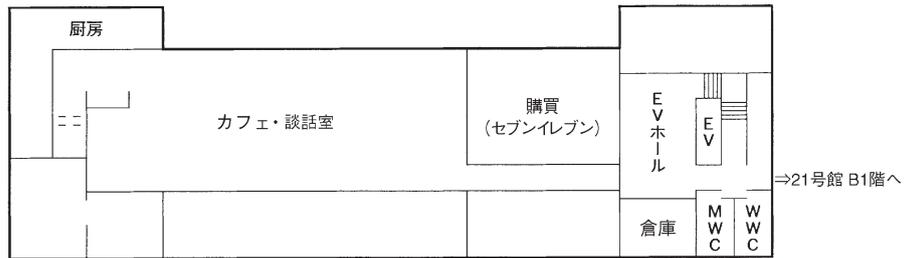
3階



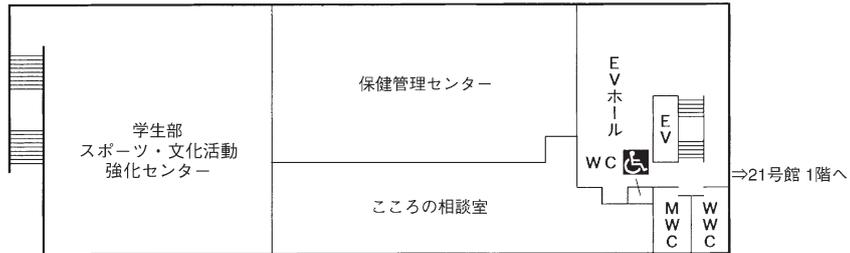


〈深草学舎〉 4 号 館

地 階



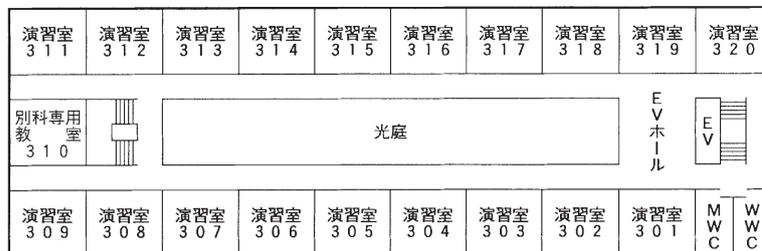
1 階



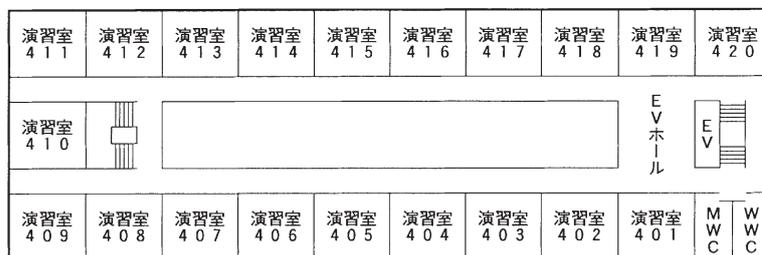
2 階



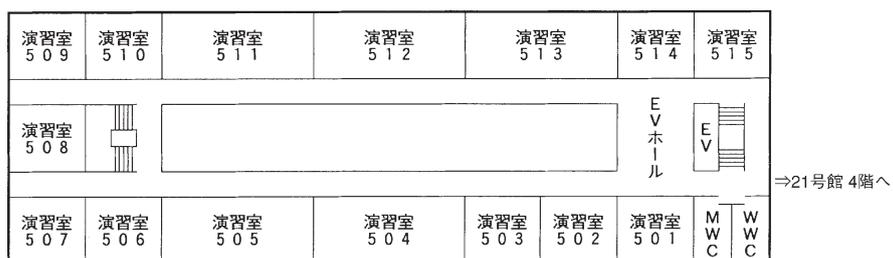
3 階



4 階



5 階



履修の心得

教育課程

諸課程

手学修引生活の

Q

&

A

教

員

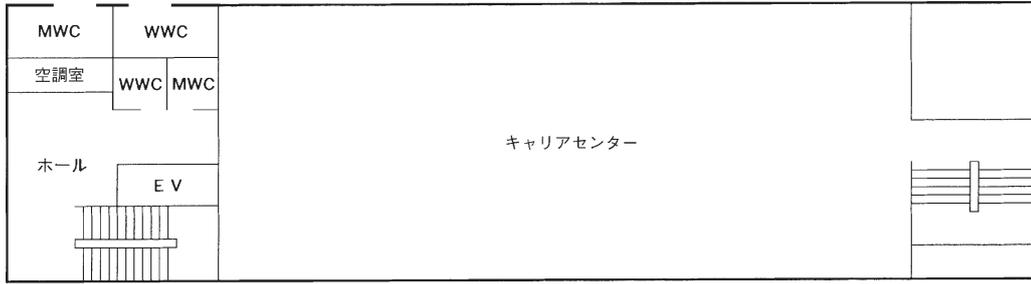
付

録

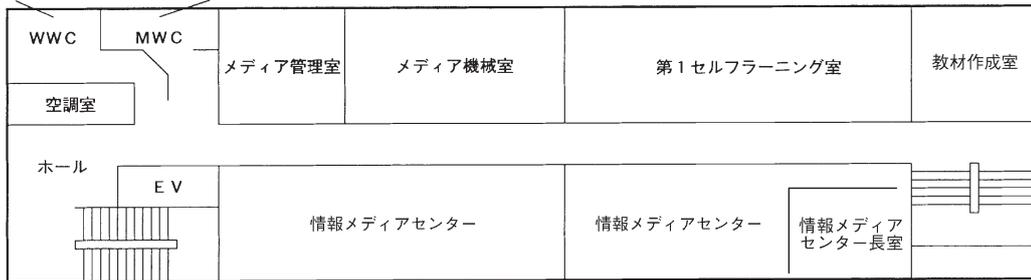
〈深草学舎〉 5 号 館 (紫明館)



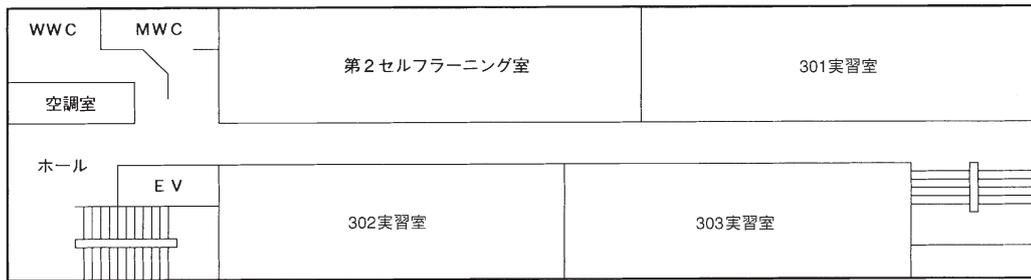
1 階



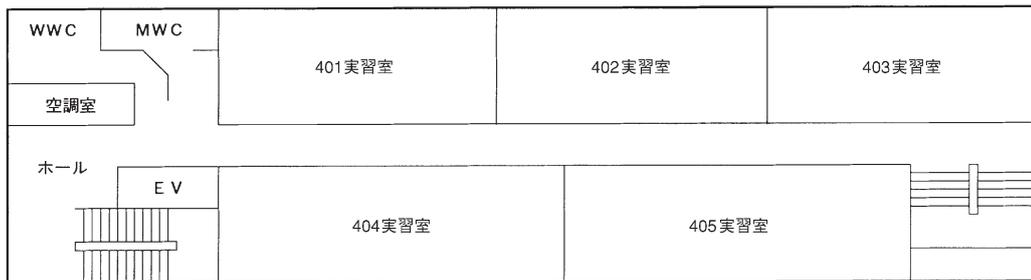
2 階



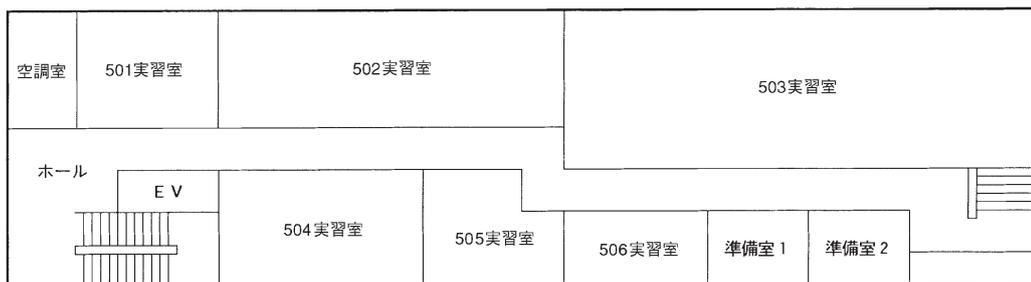
3 階



4 階



5 階



21号館 4階へ←

履修の心得

教育課程

諸課程

学修
引生活
きの

Q
&
A

教

員

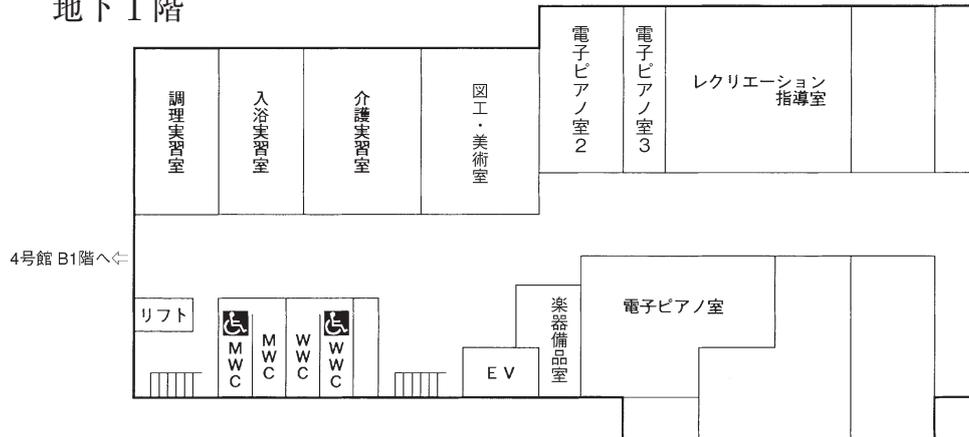
付

録

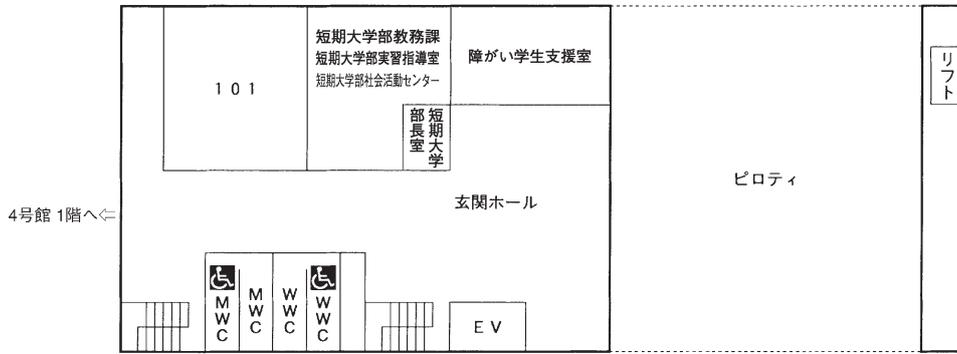


〈深草学舎〉 21 号 館

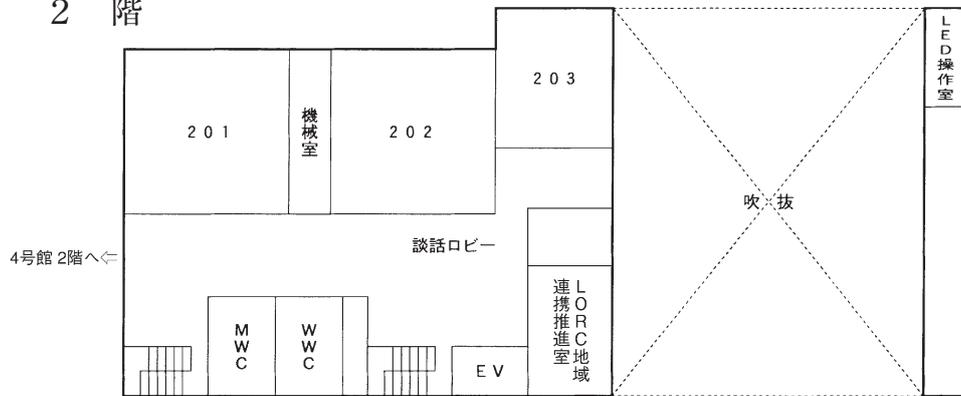
地下1階



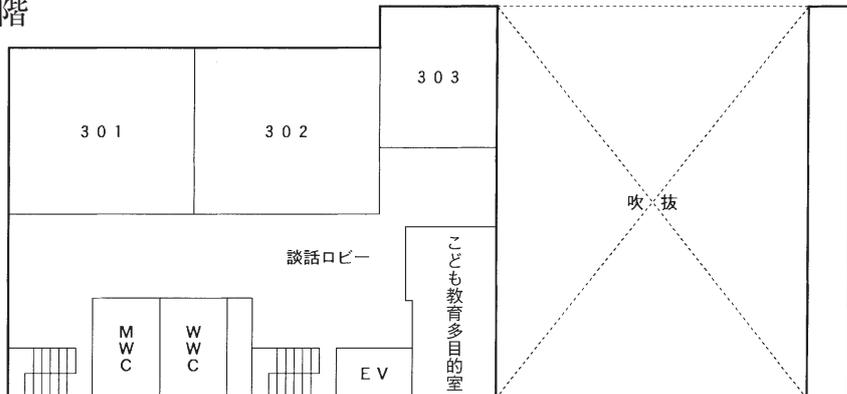
1 階



2 階



3 階



履修の心得

教育課程

諸課程

学修生活の
手引き

Q

&

A

教

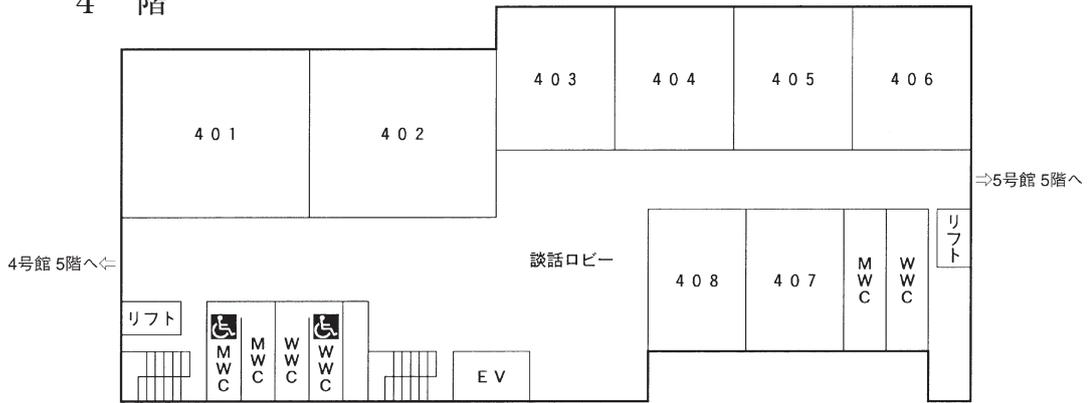
員

付

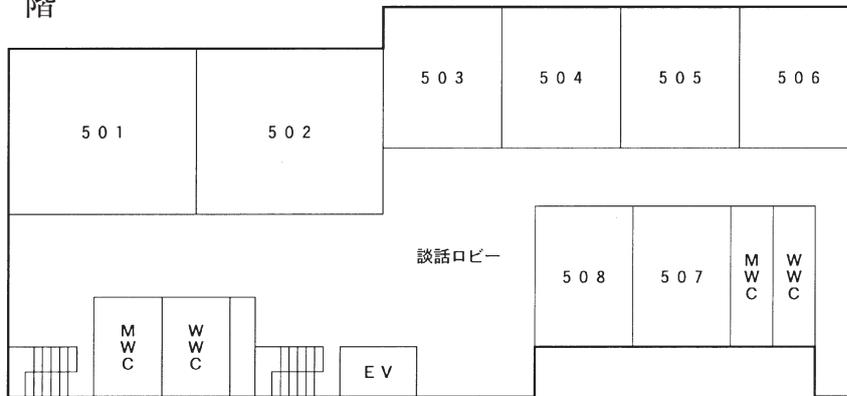
録



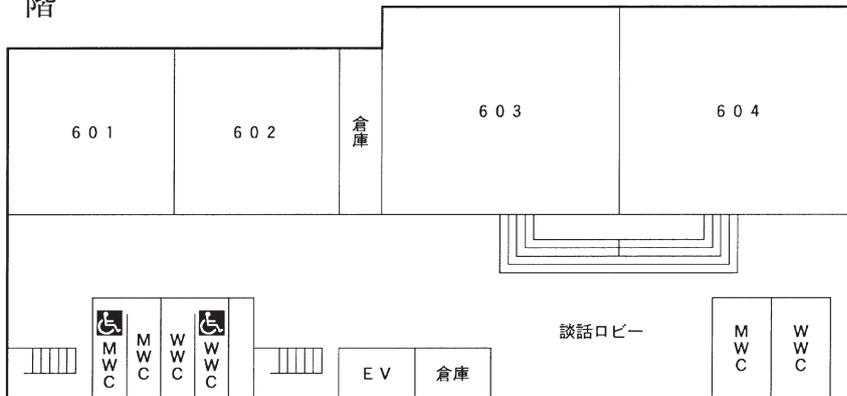
4 階



5 階



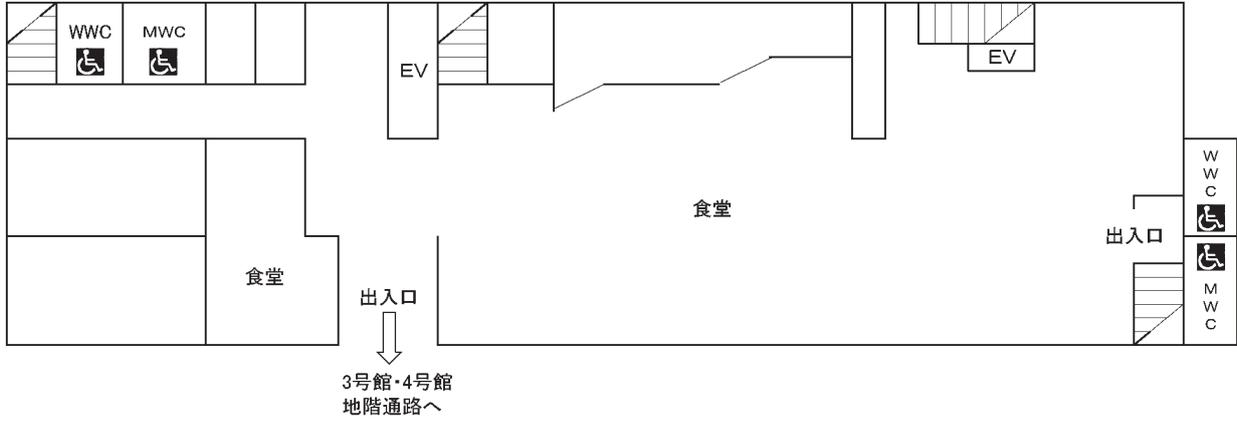
6 階



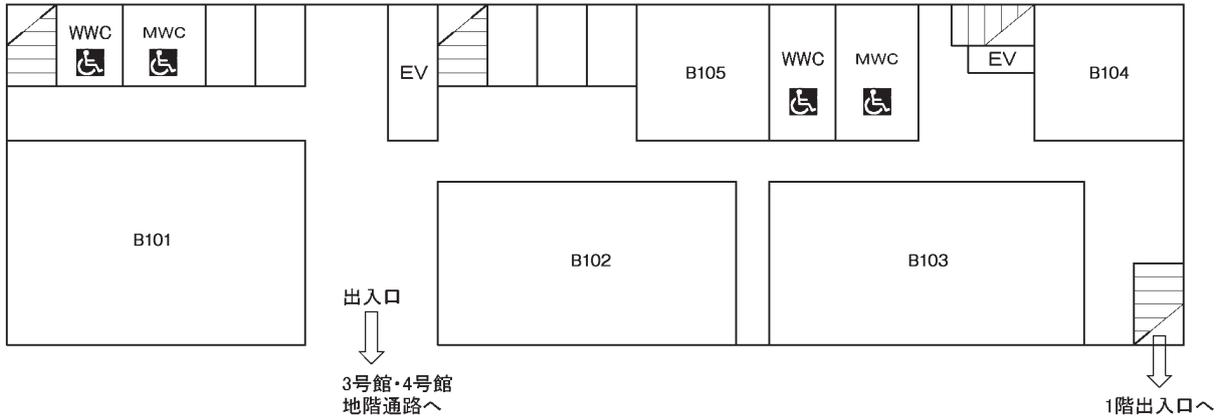


〈深草学舎〉 22 号 館

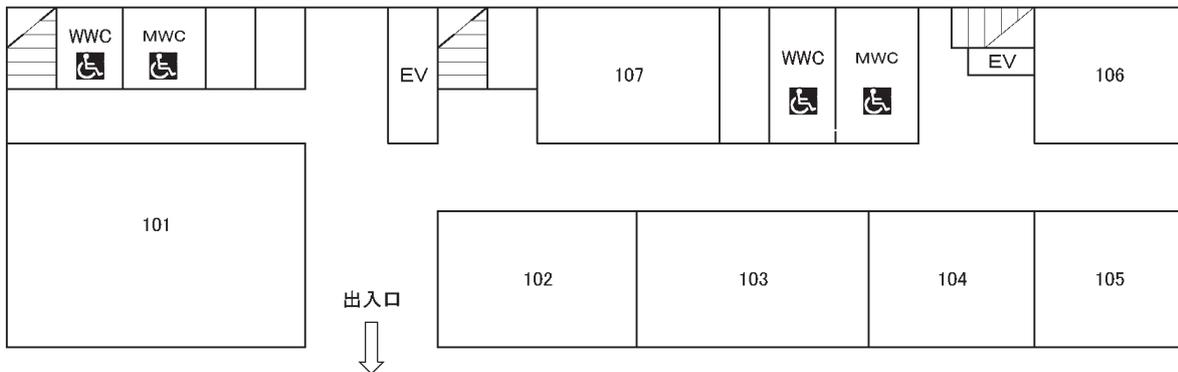
地下 2 階



地下 1 階



1 階



履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教

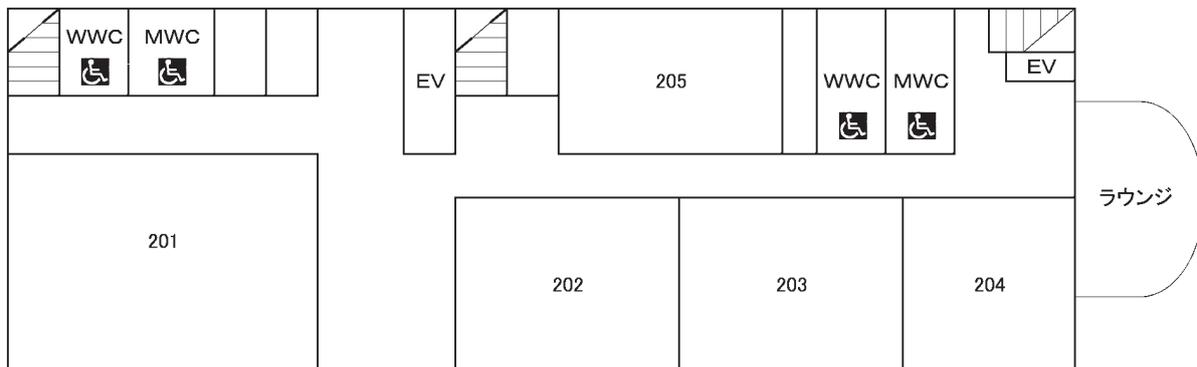
員

付

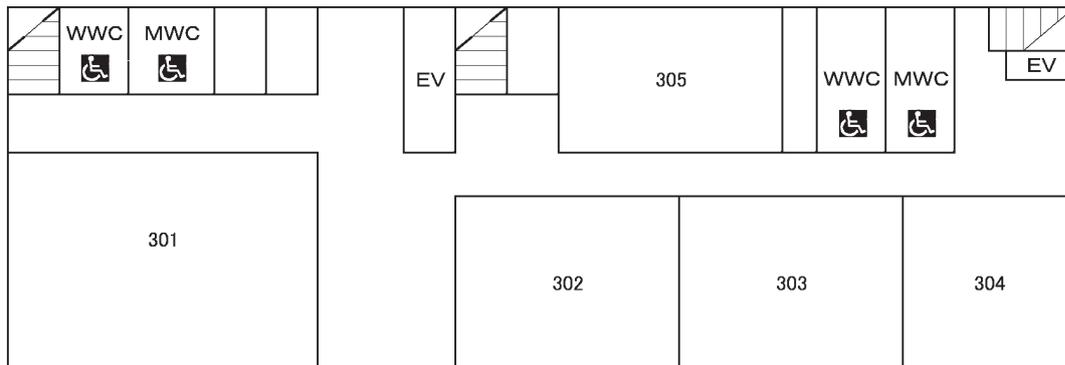
録



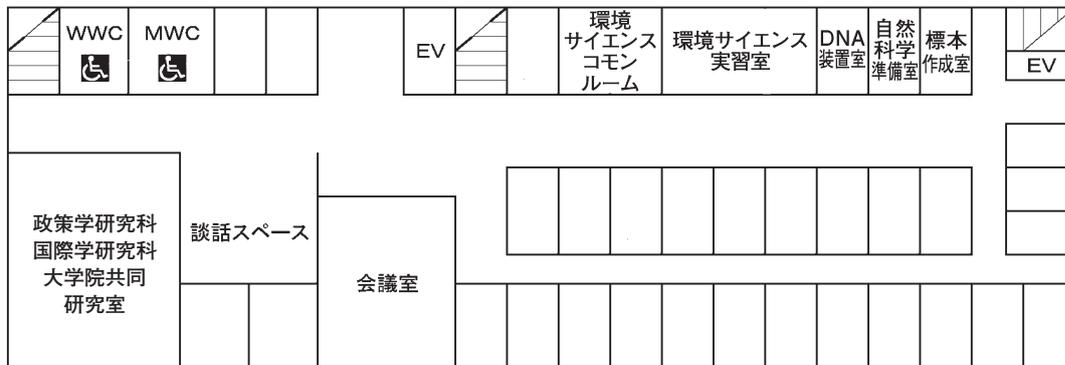
2 階



3 階



4 階





〈深草学舎〉 和 顔 館

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

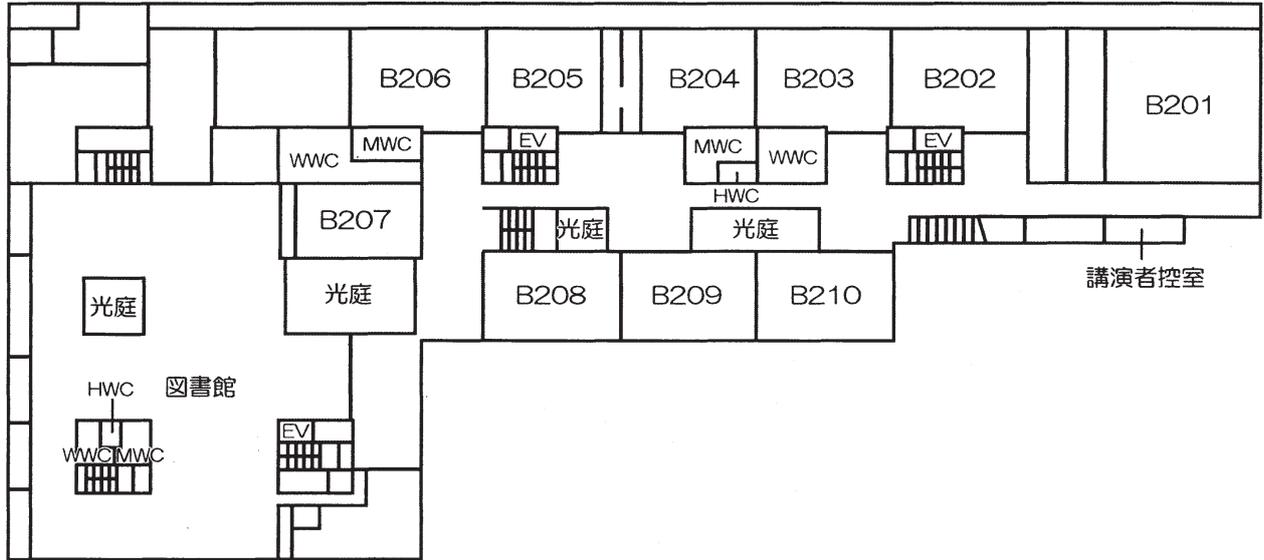
教

員

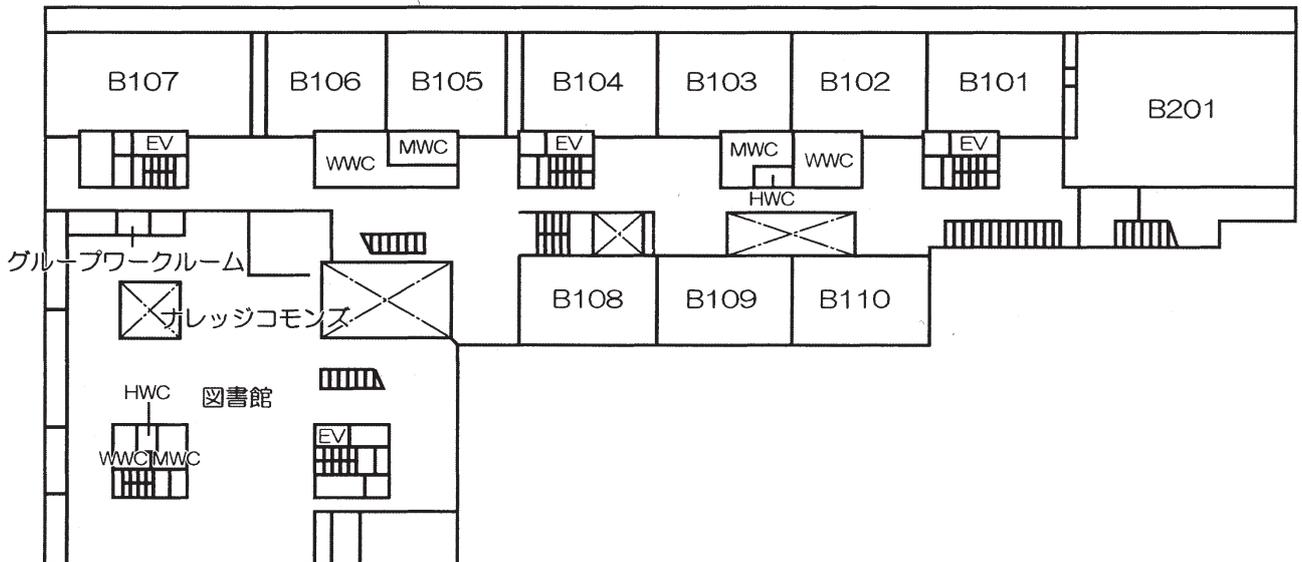
付

録

地下2階



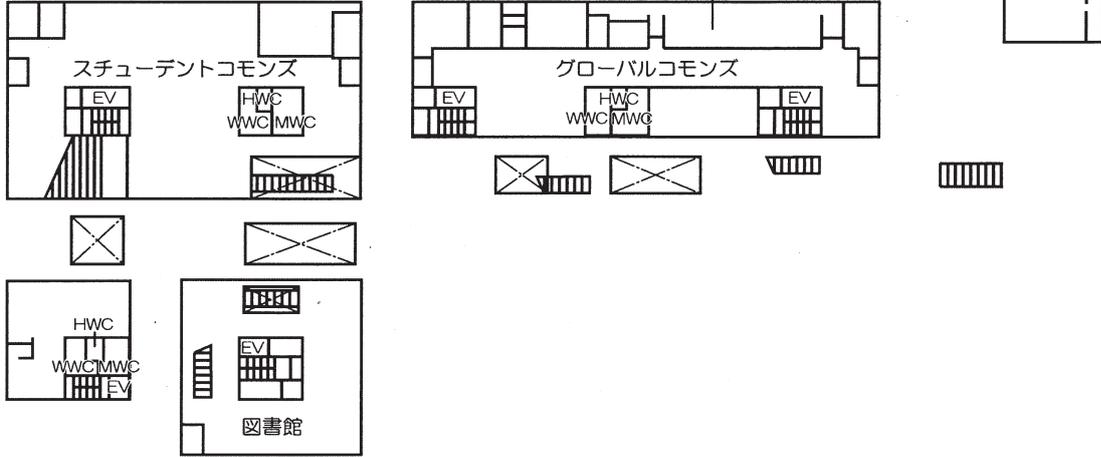
地下1階



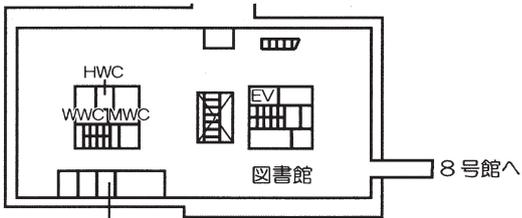
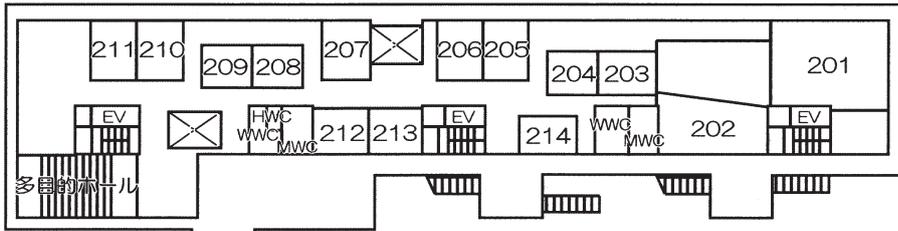


1 階

グローバル教育推進センター事務部
Center for the Promotion of Global Education Office
(R-Globe)

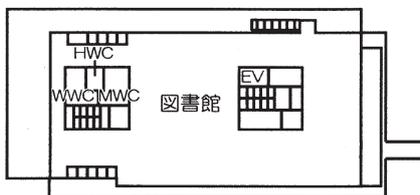
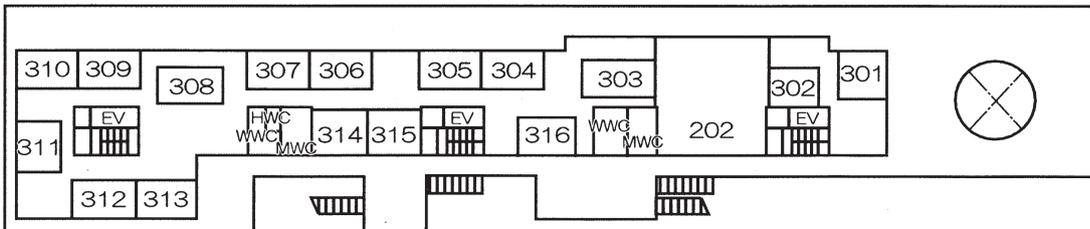


2 階



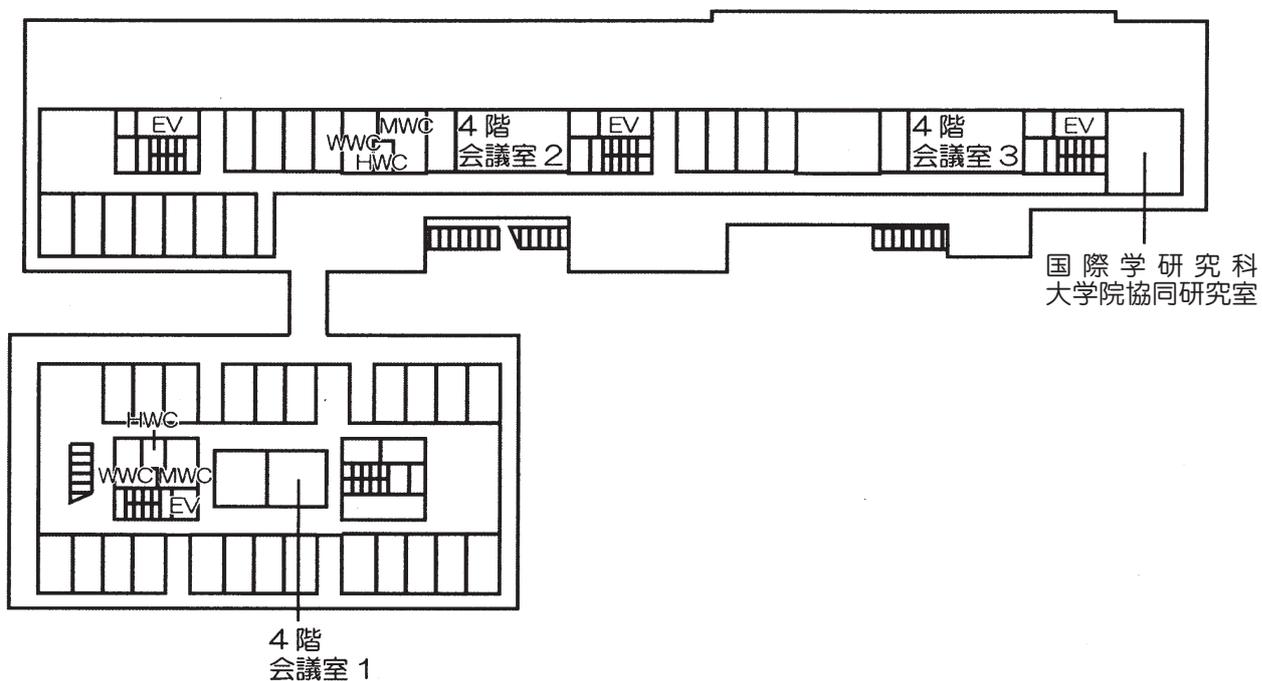
グループワークルーム(ナレッジcommons)

3 階

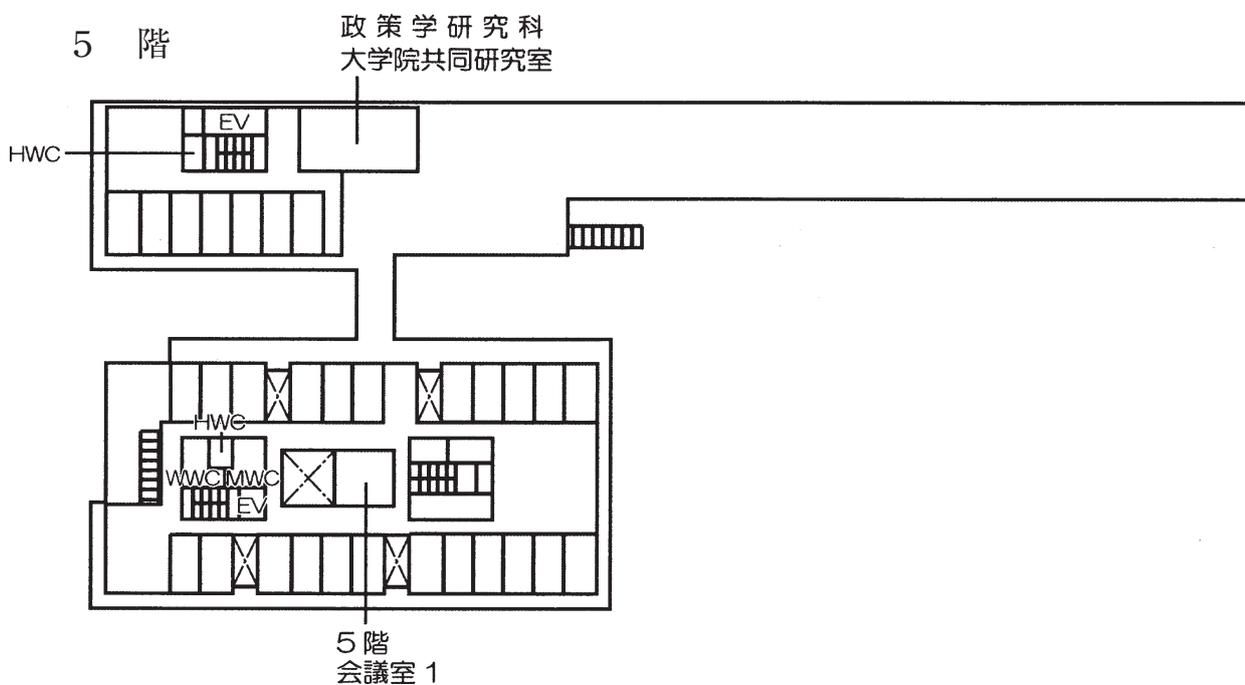




4 階



5 階



履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

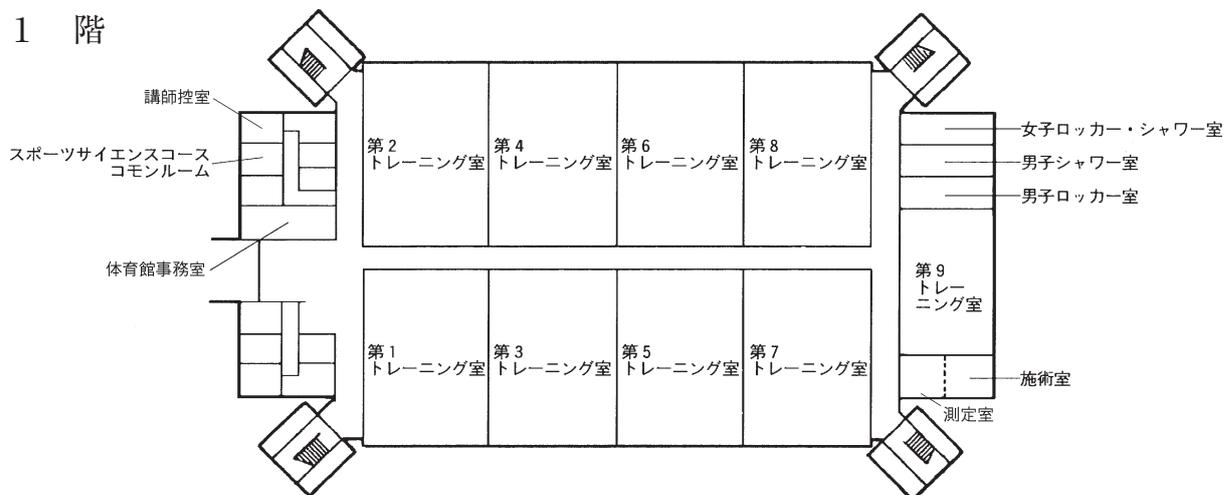
教
員

付
録

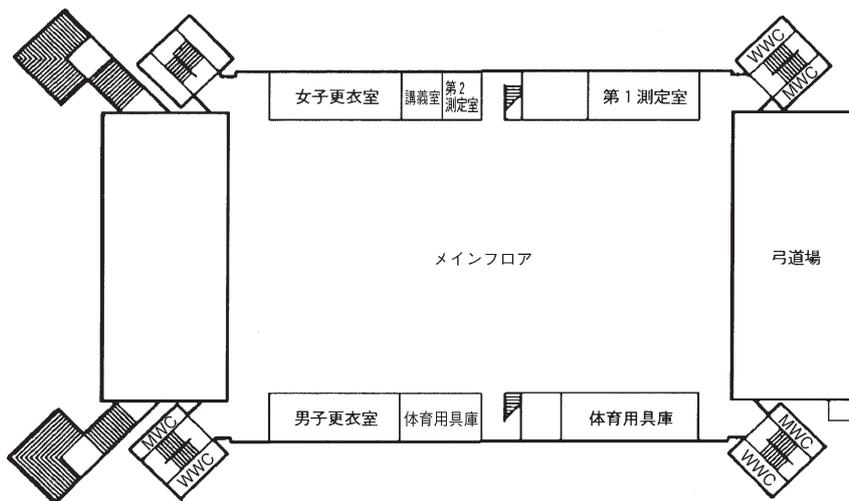


〈深草学舎〉 12 号 館 (体育館)

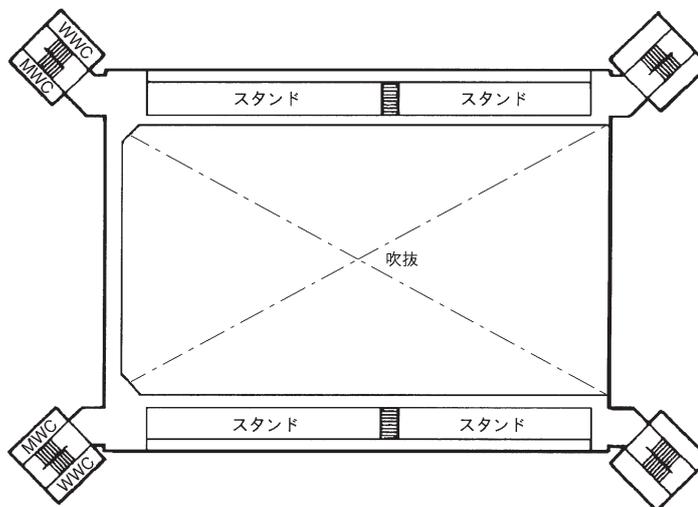
1 階



2 階



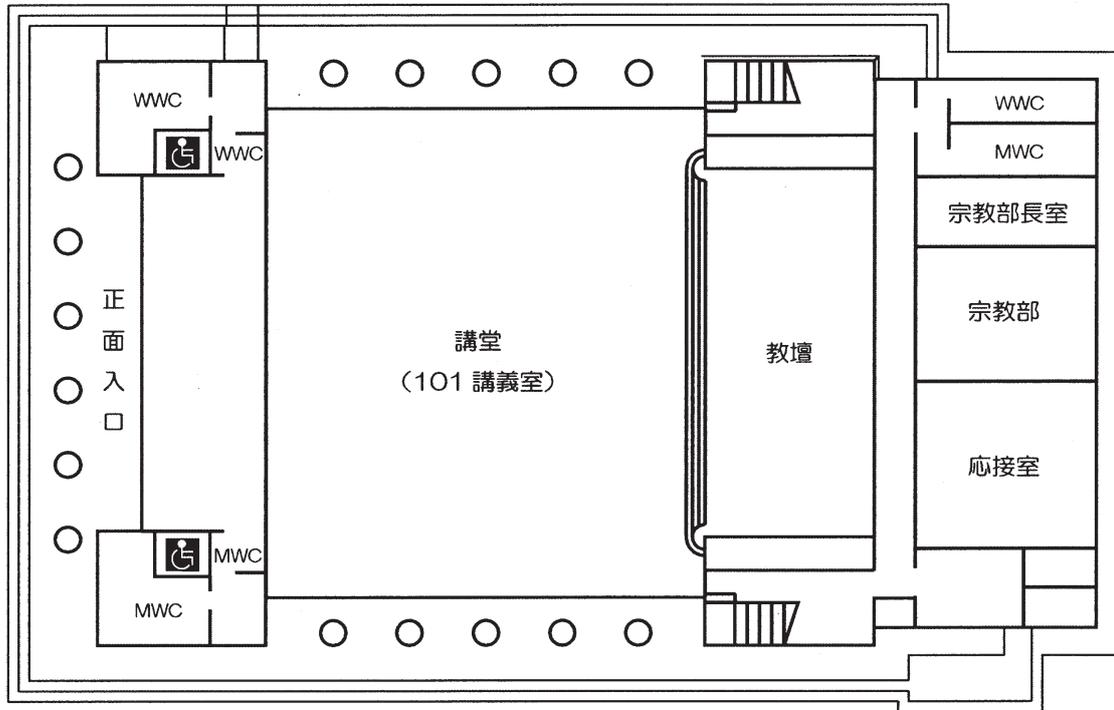
3 階



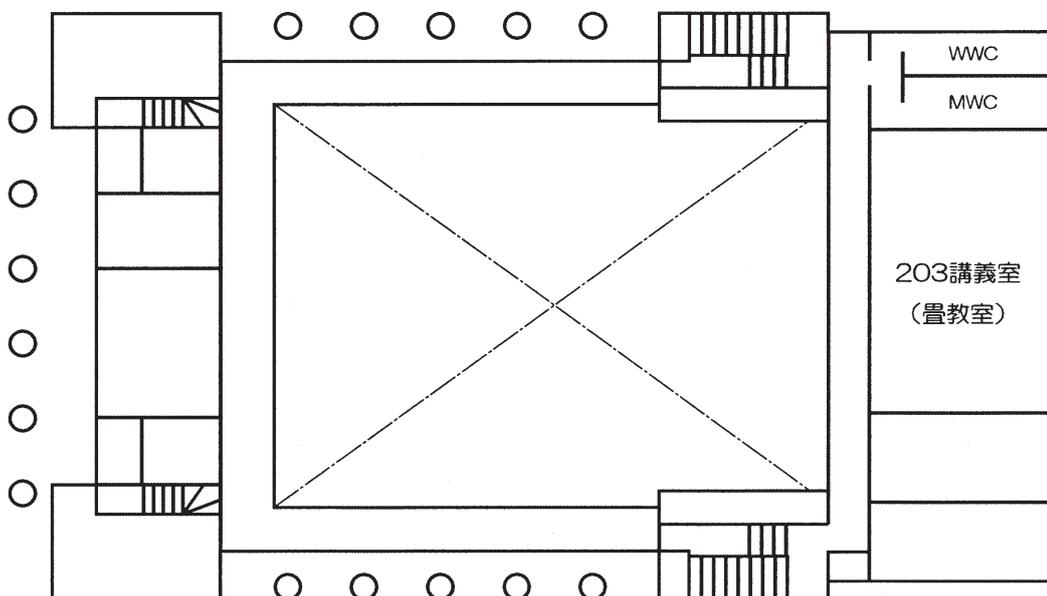


〈深草学舎〉 顕真館

1 階



2 階



履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教

員

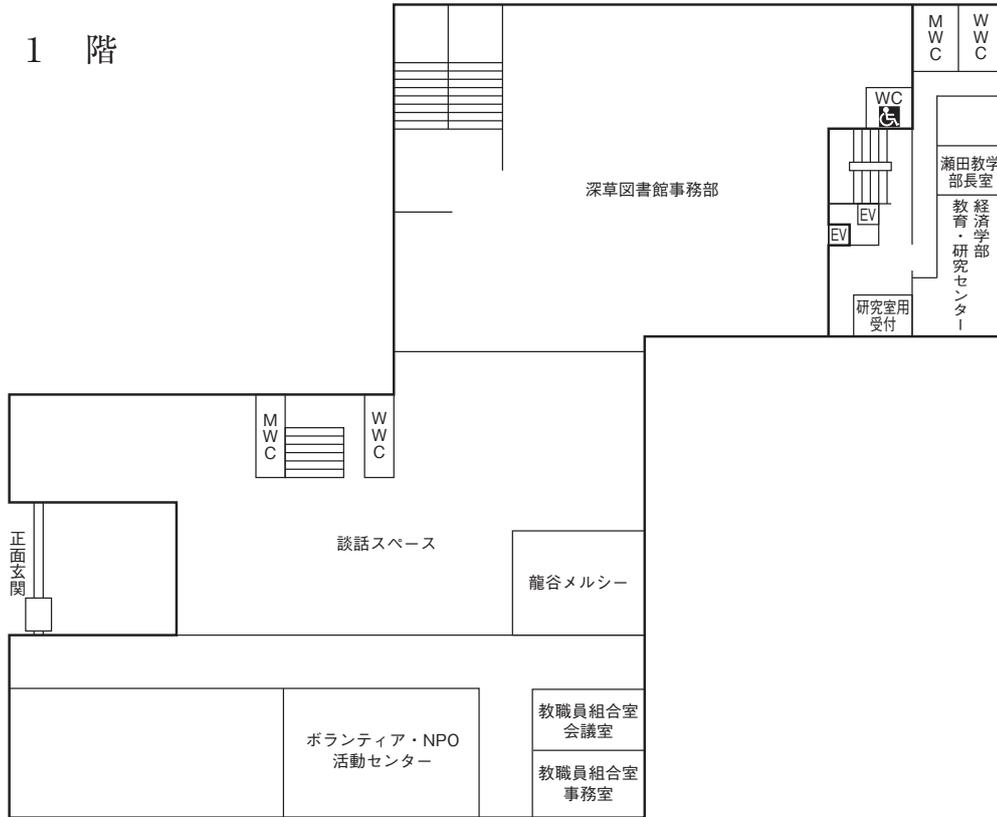
付

録

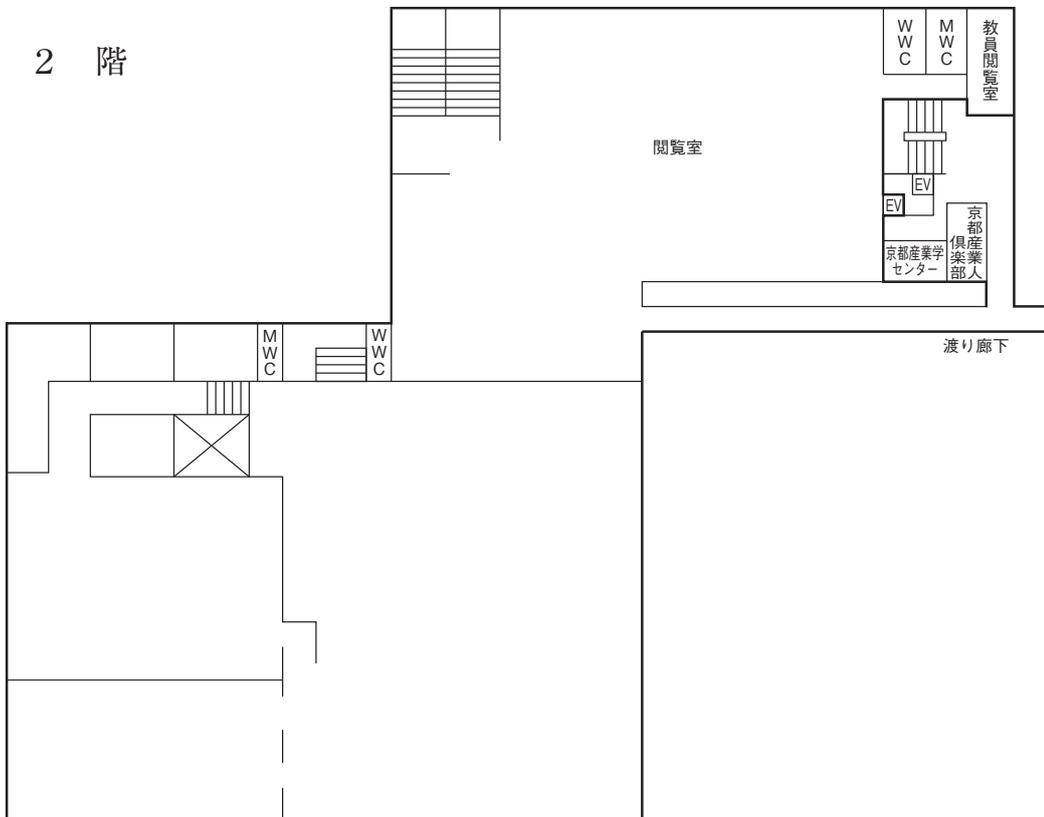
〈深草学舎〉 7 号 館・8 号 館



1 階



2 階



履修の心得

教育課程

諸課程

手学
引生活
きの

Q

&

A

教

員

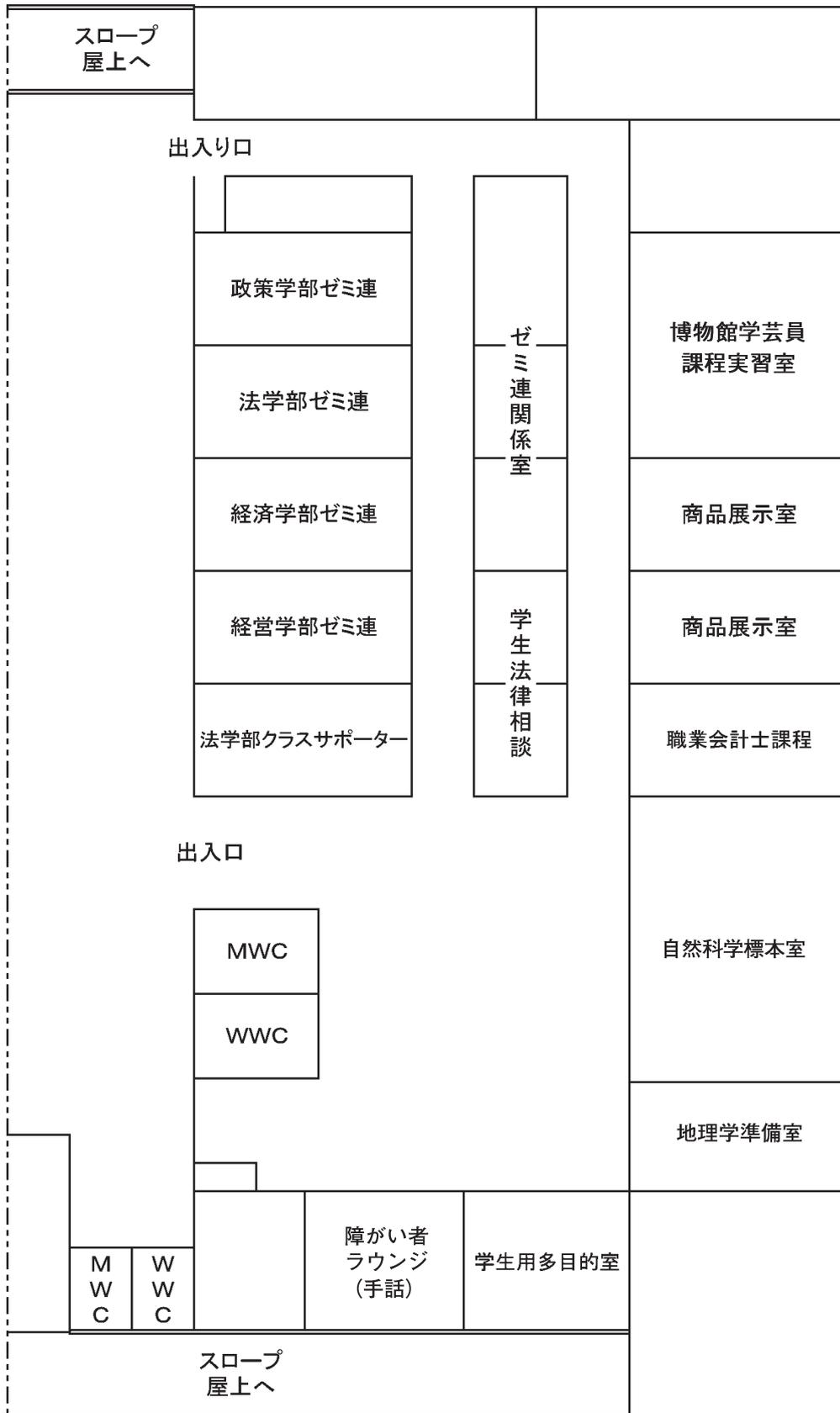
付

録



〈深草学舎〉 紫光館別館

国道
24
号
線



履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教

員

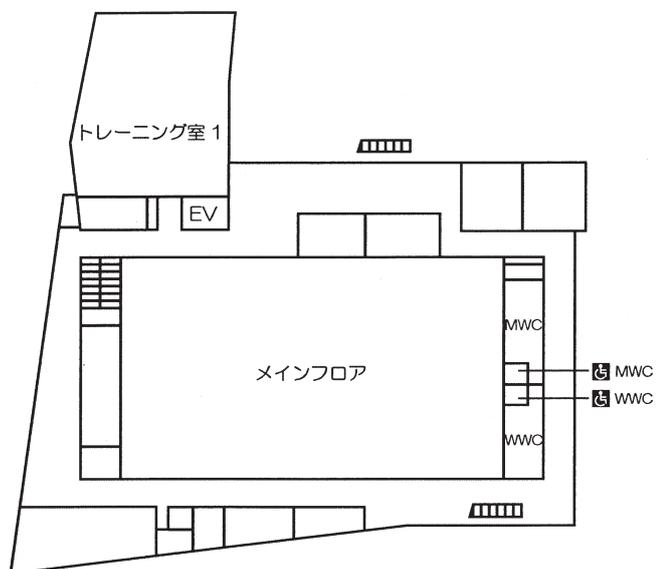
付

録

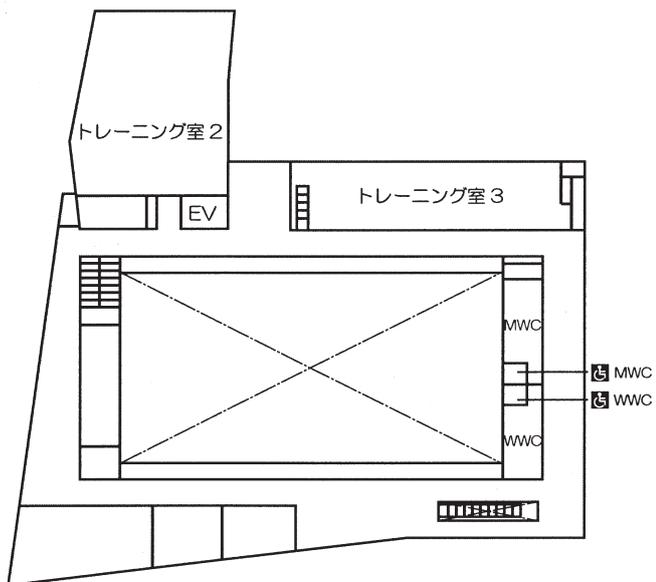


〈深草学舎〉 専 精 館

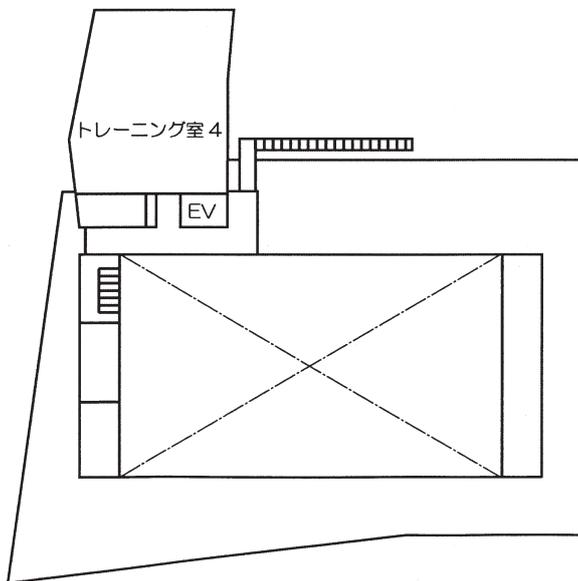
1 階



2 階



3 階





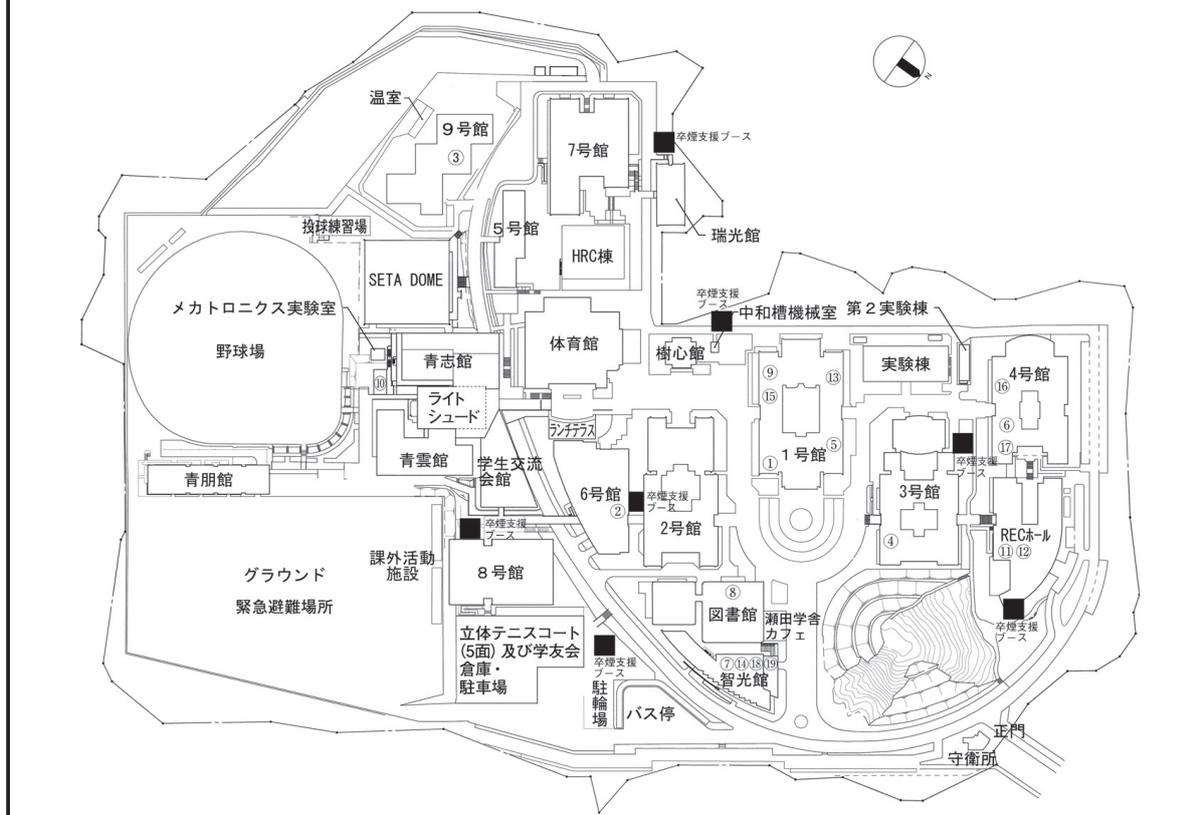
大宮学舎 〒600-8268 京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1
TEL 075-343-3311 (代表)

◆主な事務室連絡先

市外局番は「075」です。

	部署名	事例	ダイヤルイン	FAX
①	文学部教務課	文学部の科目に関すること 教材作成に関すること	343-3317	343-4302
②	講師控室	大学からの通知・連絡	343-3311 (代表)	343-3319
③	図書館事務部 (大宮図書館)	図書館の利用に関すること	343-3318	343-3345
④	キャリアセンター (大宮)	学生の就職支援及びキャリア開発に関すること	343-3484	343-3485
⑤	保健管理センター	診察、健康診断、健康相談に関すること	343-3322	343-3490
⑥	生活協同組合	購買(書籍、文具、チケット等)	352-3981	343-6428
⑦	情報メディアセンター (大宮)	情報実習室、メディア機器の利用に関すること	366-0612	366-0613
⑧	世界仏教研究センター 事務部		343-3308	343-3309
⑨	龍谷ミュージアム事務部		351-2500	351-2577

【瀬田学舎見取図】



瀬田学舎 〒520-2194 大津市瀬田大江町横谷1-5
TEL 077-543-5111 (代表)

◆主な事務室連絡先

市外局番は「077」です。

	部署名	事例	ダイヤルイン	FAX
①	理工学部教務課	理工学部の科目に関する事	543-7730	543-7749
②	社会学部教務課	社会学部の科目に関する事	543-7760	543-7615
③	農学部教務課	農学部の科目に関する事	599-5601	599-5608
④	瀬田教育学部 教養教育センター事務部 教職センター(瀬田)	瀬田学舎の教養教育科目に関する事。教職に関する事。教室に関する事。教材作成に関する事	543-7739	543-7674
⑤	講師控室	大学からの通知・連絡	543-7770	-
⑥	学生部(瀬田)	学生生活に関する事	543-7734	543-7889
⑦	情報メディアセンター(瀬田) (メディア教材作成室)	情報処理実習室、メディア機器の利用に関する事 メディア教材作成に関する事	544-7287	544-7289
⑧	瀬田図書館 (図書館事務部)	図書館の利用に関する事	543-7751	543-7769
⑨	研究部(瀬田)	各種研究支援に関する事	543-7741	544-7195
⑩	ボランティア ・NPO活動センター事務部(瀬田)	教育研究活動とボランティア・NPO活動との連携に関する事	544-7252	544-7261
⑪	REC事務部(瀬田)	地域社会との交流、「産・官・学」連携による教育・研究活動の推進に関する事	543-7743	543-7771
⑫	知的財産センター事務部	知的財産に関する事	544-7270	544-7263
⑬	キャリアセンター(瀬田)	学生の就職支援及びキャリア開発に関する事	543-7735	543-7780
⑭	グローバル教育推進センター(瀬田)	留学・国際交流に関する事	543-7672	544-7251
⑮	瀬田事務部	瀬田学舎全般に関する事	543-7709	543-7729
⑯	保健管理センター(瀬田)	診察、健康診断、健康相談に関する事	543-7781	543-7783
⑰	障がい学生支援室	障がい学生支援に関する事	544-7216	543-7889
⑱	生活協同組合	購買(文具、チケット等)	544-4111	544-4114
⑲	丸善	購買(書籍)	543-7777	543-5135

留学サポートデスクについて

グローバル教育推進センター(和顔館1F)には、
国際学部留学サポートデスクがあります。
留学経験のある日本人アドバイザー4名が担当しており、
様々なサポートをおこなっています。
わからないこと、不安なことがあれば、何でも気軽に相談してください。



留学アドバイザー からのメッセージ

日本を離れ、新しい世界に飛び込むのはとても勇気がいりますよね。留学を実現するために必要なこと、それは情報収集です。留学準備の段階で不安を少しでも解消できるように、留学する時期、国や学校の選び方、留学願書の書き方、学生ビザ等各種情報を提供しています。また、留学前のサポートだけではなく、留学中の質問にメールで答えたり、留学後にはみなさんの自主的な語学勉強会をお手伝いしたりすることで、留学前から留学後まで一貫したサポート体制を提供しています。忘れられない留学経験を作り上げ、将来のステップになるよう、私たちが全力でサポートします！

履修の心得

教育課程

諸課程

手学
修引
生活
きの

Q
&
A

教

員

付

録

2019年度
国際学部 グローバルスタディーズ学科 履修要項

2019年4月1日発行

編集発行 龍谷大学国際学部
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
TEL 075-645-5645 (直通)
FAX 075-645-6444
e-mail world@ad.ryukoku.ac.jp

印刷 株式会社 NPCコーポレーション

